RC300h

取扱説明書

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方..... 10
検索のしかた..... 11
イラスト目次..... 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 26
シートベルト 28
SRS エアバッグ..... 32
ポップアップフード..... 40
お子さまの安全のために 43
チャイルドシート..... 44
排気ガスに対する注意..... 65

1-2. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 66
ハイブリッドシステムの注意 70

1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 76
オートアラーム..... 77

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯..... 84
計器類 89
マルチインフォメーション
ディスプレイ 96
エネルギーモニター／
Harmonious Driving Navi.
画面／燃費画面..... 111

3 各部の操作

3-1. キー
キー 122

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア 128
トランク..... 134
スマートエントリー＆
スタートシステム..... 140

3-3. シートの調整
フロントシート..... 146
リヤシート..... 149
運転席ポジションメモリー 151
ヘッドレスト..... 156

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル..... 159
インナーミラー..... 161
ドアミラー..... 163

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 166
ムーンルーフ..... 170

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって..... 176
荷物を積むときの注意..... 185

4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ 187
EV ドライブモード..... 193
トランスミッション..... 195
方向指示レバー..... 202
パーキングブレーキ..... 203

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ..... 204
オートマチックハイビーム 207
フォグランプスイッチ..... 211
ワイパー＆ウォッシャー 213

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方..... 219

4-5. 運転支援装置について
Lexus Safety System+ 223
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）..... 228
LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）..... 238
レーダークルーズコントロール 246
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 258
・BSM 機能..... 262
・RCTA 機能 266
クリアランスソナー..... 271
ドライブモードセレクトスイッチ..... 280
運転を補助する装置..... 283

4-6. 運転のアドバイス
ハイブリッド車運転のアドバイス..... 291
寒冷時の運転..... 293

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方
リモートタッチ..... 298
10.3 インチディスプレイ 302
オートエアコン..... 304
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター 315

5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧..... 319
・インテリアランプ..... 319
・パーソナルランプ..... 320

5-3. 収納装備
収納装備一覧..... 322
・グローブボックス..... 323
・コンソールボックス..... 323
・カップホルダー..... 324
トランク内装備..... 325

5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 328
・サンバイザー..... 328
・バニティミラー..... 328
・時計 329
・アクセサリーソケット 329
・アシストグリップ..... 331
・コートフック..... 331

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 334
内装の手入れ 338

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 341
ガレージジャッキ..... 344
ウォッシャー液の補充..... 345
タイヤについて..... 346
タイヤの交換 354
タイヤ空気圧について 360
エアコンフィルターの交換 362
電子キーの電池交換..... 364
ヒューズの点検・交換..... 366
電球（バルブ）の交換..... 369

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは..... 380
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 381
発炎筒 382
車両を緊急停止するには 384

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 385
警告灯がついたときは 391
警告メッセージが
表示されたときは..... 396
パンクしたときは 424
ハイブリッドシステムが
始動できないときは 438
電子キーが正常に
働かないときは..... 440
補機バッテリーが
あがったときは..... 444
オーバーヒートしたときは 449
スタックしたときは 454

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 458

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 463

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 471

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 474

車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 477

アルファベット順さくいん 479

五十音順さくいん 481

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- ITS スポット対応 DSRC システム（ETC・VICS 機能付）
- ハンズフリー
- G-Link

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

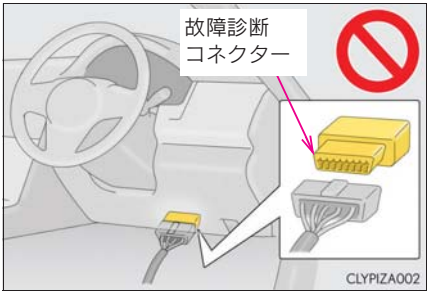
不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF送信機の取り付けについては、P. 9も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・電気モーター回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション
・駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者･車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Lexus Safety System+
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル･アンテナ位置･取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

ハイブリッドシステムについて

RC300h は電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせたハイブリッドシステムを採用しています。

RC300h を安全･快適にお使いいただくために本書をしっかりとお読みください。

本書の見方

警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

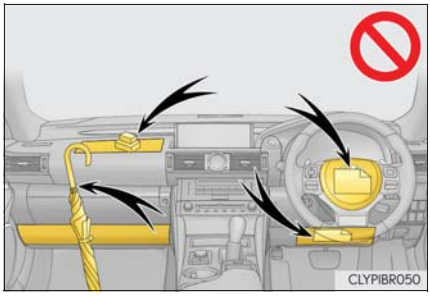
1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”　“このようにしないでください”　“このようなことを起こさないでください”　という意味です。

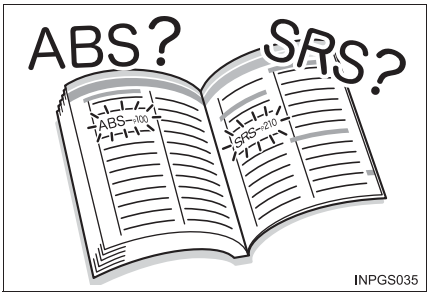


知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

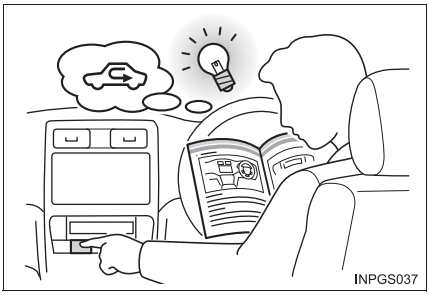
■ **名称から探す**

・五十音順さくいん.....481
・アルファベット順
さくいん 479



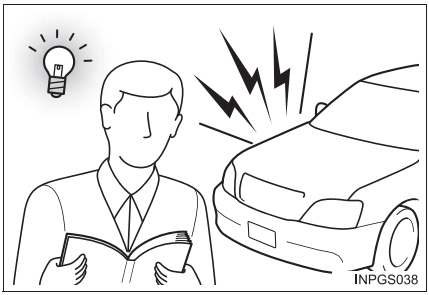
■ **取り付け位置から探す**

・イラスト目次.....12



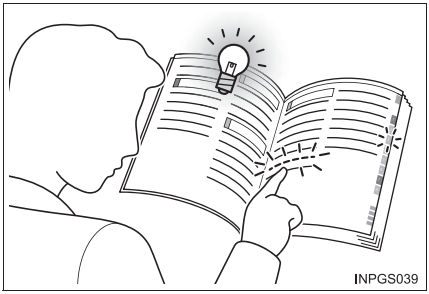
■ **症状や音から探す**

・こんなときは
（症状別さくいん）.....474
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....477



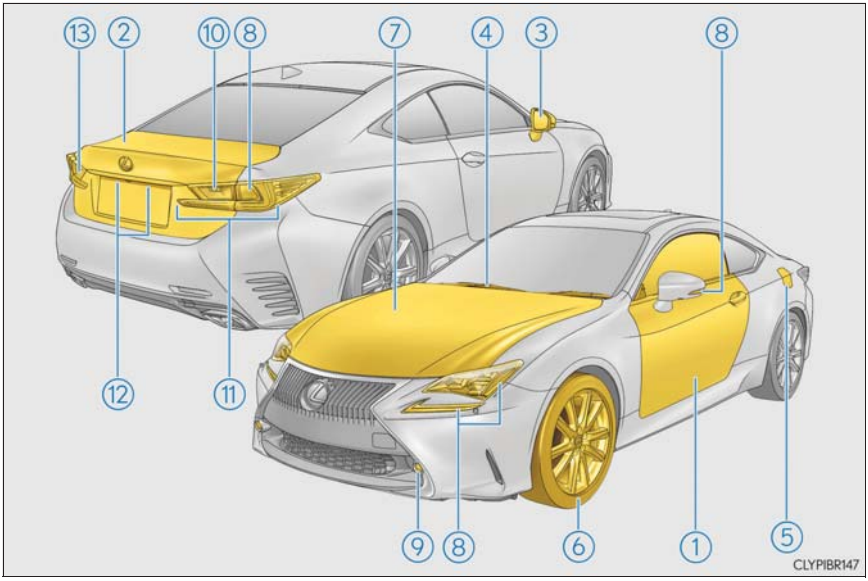
■ **タイトルから探す**

・目次 2



イラスト目次

■外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。

① **ドア . . . . . P. 128**

施錠／解錠 . . . . . P. 128

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 166

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 440

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 392, 398

② **トランク . . . . . P. 134**

車内から開ける . . . . . P. 134

車外から開ける . . . . . P. 134

メカニカルキーで開ける . . . . . P. 441

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 392, 399

③ **ドアミラー . . . . . P. 163**

鏡面の角度調整 . . . . . P. 163

ミラーの格納 . . . . . P. 163

調整位置の登録 . . . . . P. 151

曇りを取る（ミラーヒーター） . . . . . P. 309

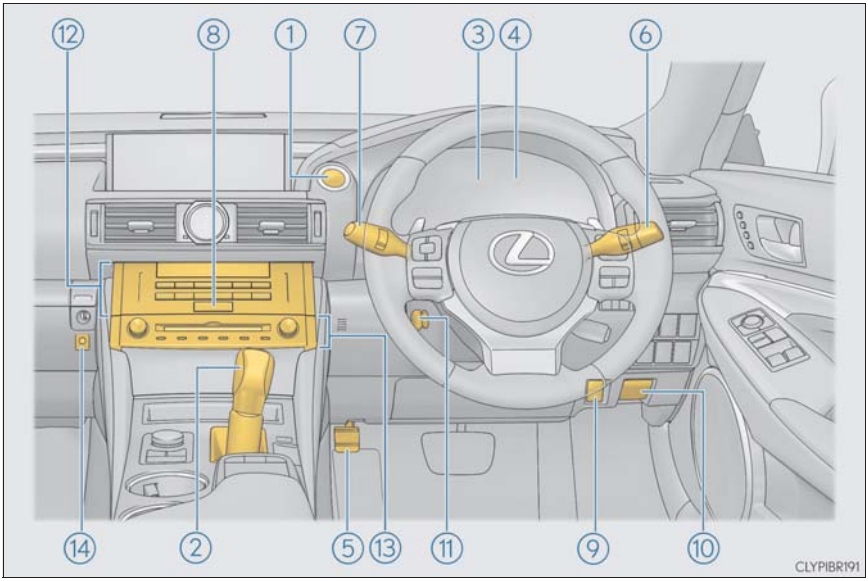
④ **ワイパー** . . . . . **P. 213**
冬季の注意 . . . . . P. 293
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 310
洗車時の注意 . . . . . P. 336
⑤ **給油口** . . . . . **P. 219**
給油方法 . . . . . P. 219
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 458
⑥ **タイヤ** . . . . . **P. 346**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 462
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 293
点検・ローテーション・空気圧警報システム . . . . . P. 346
パンク時の対処 . . . . . P. 424
⑦ **ボンネット** . . . . . **P. 341**
開け方 . . . . . P. 341
エンジンオイル . . . . . P. 458
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 449
警告メッセージ . . . . . P. 399

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 369, ワット数：P. 462）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト・方向指示灯** . . . . . **P. 202, 204**
⑨ **フロントフォグランプ** . . . . . **P. 211**
⑩ **リヤフォグランプ★** . . . . . **P. 211**
後退灯★
シフトポジションを R にする . . . . . P. 195
⑪ **尾灯** . . . . . **P. 204**
制動灯
緊急ブレーキシグナル . . . . . P. 284
⑫ **番号灯** . . . . . **P. 204**
⑬ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . P. 195

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



① **パワースイッチ . . . . . .P. 187**

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . .P. 187

ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . .P. 384

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . .P. 438

警告メッセージ . . . . . .P. 418

② **シフトレバー . . . . . .P. 195**

シフトポジションの切りかえ . . . . . .P. 195

けん引時の注意 . . . . . .P. 385

シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . .P. 200

③ **メーター . . . . . .P. 89**

見方・明るさの調整 . . . . . .P. 89

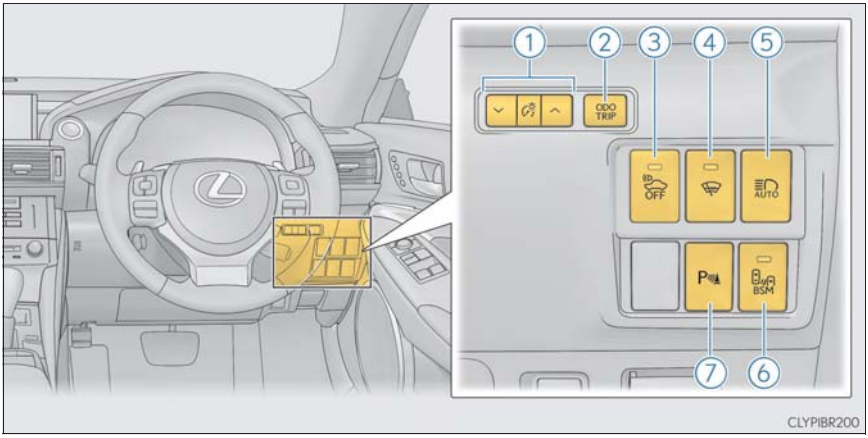
警告灯／表示灯 . . . . . .P. 84

警告灯点灯時の対処 . . . . . .P. 391

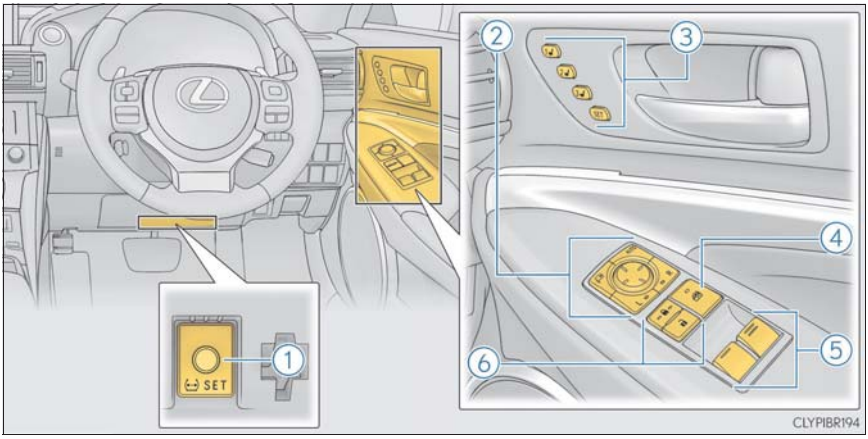
④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . .P. 96**
表示内容 . . . . . .P. 96
エネルギーモニター . . . . . .P. 111
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . .P. 396
⑤ **パーキングブレーキ . . . . . .P. 203**
かける・解除する . . . . . .P. 203
冬季の注意 . . . . . .P. 294
警告ブザー・警告メッセージ . . . . . .P. 396
⑥ **方向指示レバー . . . . . .P. 202**
ランプスイッチ . . . . . .P. 204
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 . . . . . .P. 204
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★ . . . . . .P. 211
⑦ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ . . . . . .P. 213**
使い方 . . . . . .P. 213
ウォッシャー液の補充 . . . . . .P. 345
ヘッドランプクリーナー★ . . . . . .P. 213
⑧ **非常点滅灯スイッチ . . . . . .P. 381**
⑨ **トランクオープナー . . . . . .P. 134**
⑩ **ボンネット解除レバー . . . . . .P. 341**
⑪ **ハンドル位置調整スイッチ . . . . . .P. 159**
調整方法 . . . . . .P. 159
調整位置の登録 . . . . . .P. 151
⑫ **オートエアコン . . . . . .P. 304**
操作方法 . . . . . .P. 304
リヤウィンドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）. . . . . .P. 309
⑬ **オーディオ ※**
音楽を聴く ※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※
⑭ **トランクオープナーメインスイッチ . . . . . .P. 136**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類

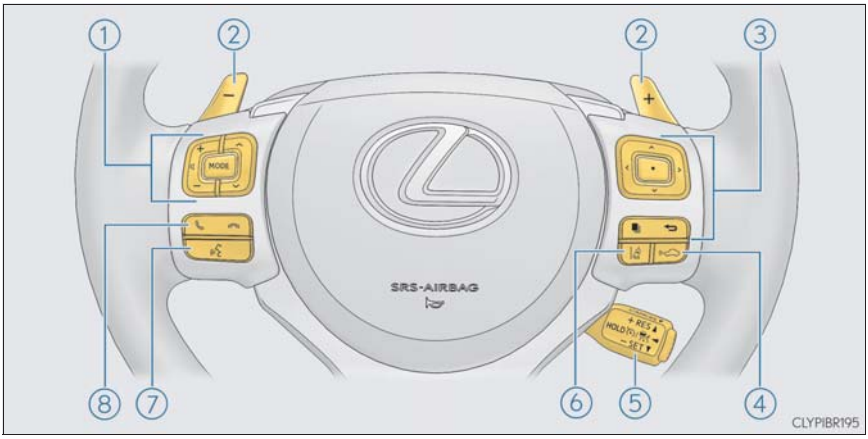


① インストルメントパネル照度調整スイッチ . . . . . .P. 93
② オドメーター／トリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットボタン . . . . . .P. 100
③ 車両接近通報一時停止スイッチ. . . . . .P. 67
④ ウインドシールドデアイサースイッチ★ . . . . . .P. 310
⑤ オートマチックハイビームスイッチ. . . . . .P. 207
⑥ BSM（ブラインドスポットモニター）メインスイッチ★. . . . . .P. 258
⑦ クリアランスソナースイッチ★ . . . . . .P. 271

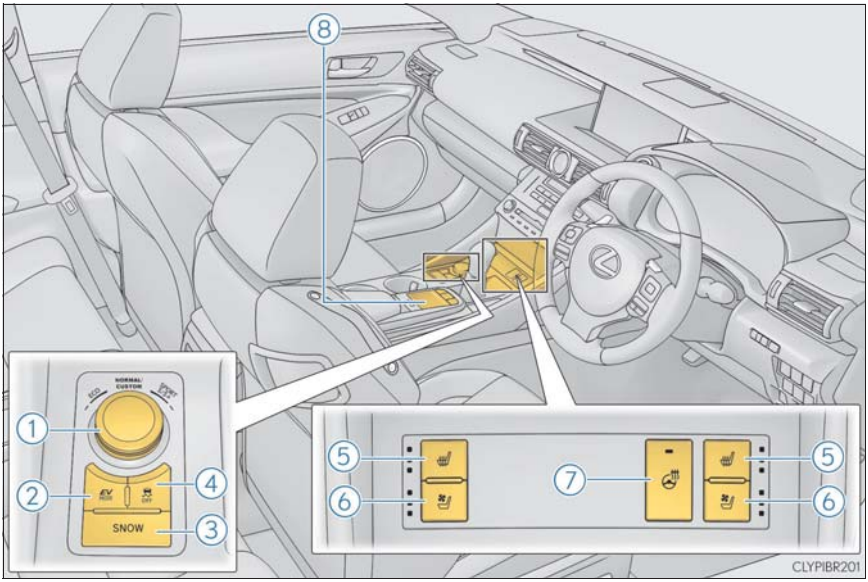


① タイヤ空気圧警報リセットスイッチ . . . . . .P. 348
② ドアミラースイッチ . . . . . .P. 163
③ 運転席ポジションメモリースイッチ . . . . . .P. 151
④ ウインドウロックスイッチ. . . . . .P. 166
⑤ パワーウインドウスイッチ. . . . . .P. 166
⑥ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 130

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



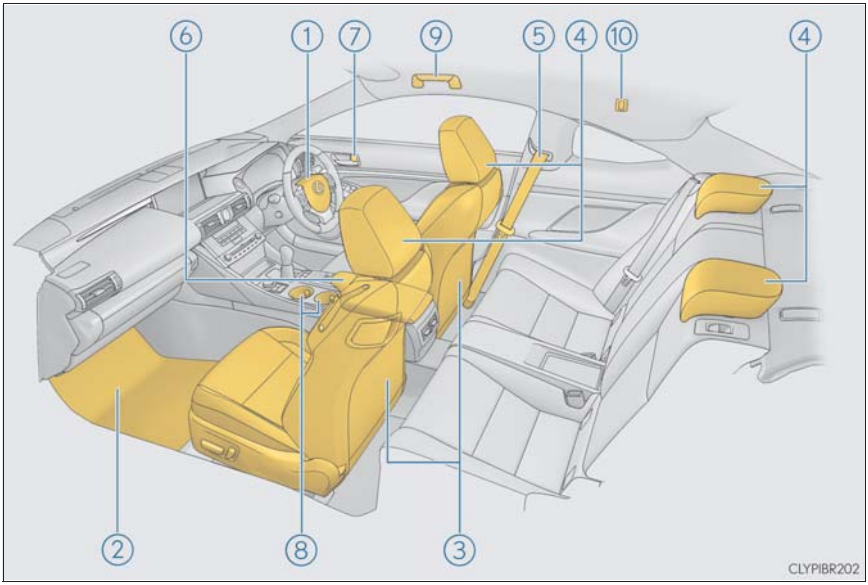
① オーディオスイッチ ※
② パドルシフトスイッチ . . . . . .P. 197, 198
③ メーター操作スイッチ . . . . . .P. 99
④ 車間距離切りかえスイッチ. . . . . .P. 251
⑤ クルーズコントロールスイッチ. . . . . .P. 246
⑥ LDA（レーンディパーチャーアラート
[ステアリング制御機能付き]）スイッチ . . . . . .P. 238
⑦ トークスイッチ ※
⑧ 電話スイッチ ※



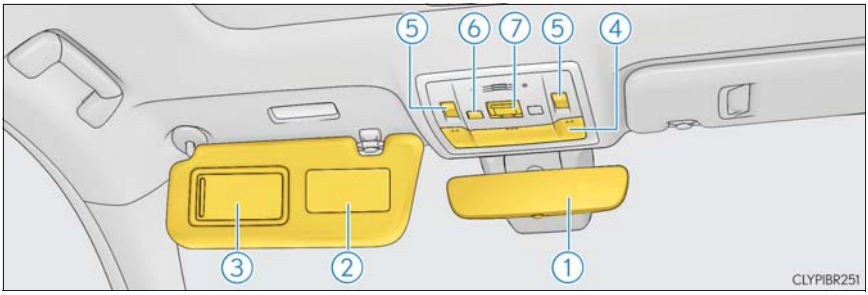
① ドライブモードセレクトスイッチ . . . . . .P. 280
② EV ドライブモードスイッチ. . . . . .P. 193
③ スノーモードスイッチ . . . . . .P. 196
④ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 285
⑤ シートヒータースイッチ . . . . . .P. 316
⑥ シートベンチレータースイッチ★ . . . . . .P. 318
⑦ ステアリングヒータースイッチ. . . . . .P. 316
⑧ リモートタッチ ※ . . . . . .P. 298

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

室内



① SRS エアバッグ . . . . . .P. 32
② フロアマット . . . . . .P. 24
③ フロントシート . . . . . .P. 146
④ ヘッドレスト . . . . . .P. 156
⑤ シートベルト . . . . . .P. 28
⑥ コンソールボックス . . . . . .P. 323
⑦ ドアロックレバー . . . . . .P. 130
⑧ カップホルダー . . . . . .P. 324
⑨ アシストグリップ . . . . . .P. 331
⑩ コートフック . . . . . .P. 331



① インナーミラー . . . . . .P. 161
② サンバイザー ※1 . . . . . .P. 328
③ バニティミラー . . . . . .P. 328
④ インテリアランプ . . . . . .P. 319
パーソナルランプ . . . . . .P. 320
⑤ ムーンルーフスイッチ★ . . . . . .P. 170
⑥ 侵入センサー OFF スイッチ . . . . . .P. 80
⑦ ヘルプネットスイッチパネル ※2

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1： やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（→ P. 50）

※2：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 24
安全なドライブのために.....26
シートベルト 28
SRS エアバッグ.....32
ポップアップフード.....40
お子さまの安全のために.....43
チャイルドシート 44
排気ガスに対する注意.....65

1-2. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴 66
ハイブリッドシステムの注意 70

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム.....76
オートアラーム 77

運転する前に

点検整備

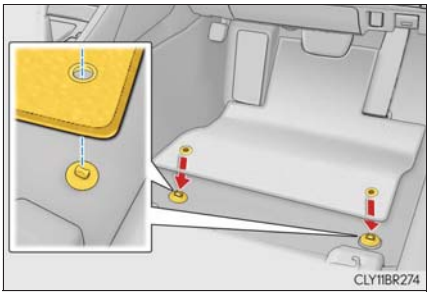
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

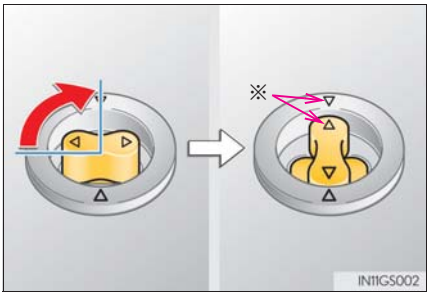
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ●レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

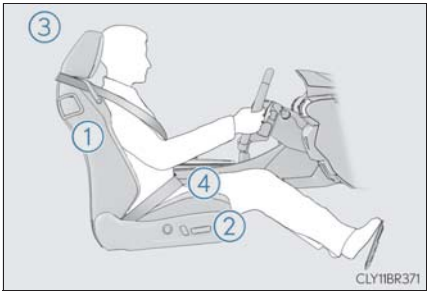
■運転する前に

- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがＰの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 146）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 146）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 156）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 161, 163）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

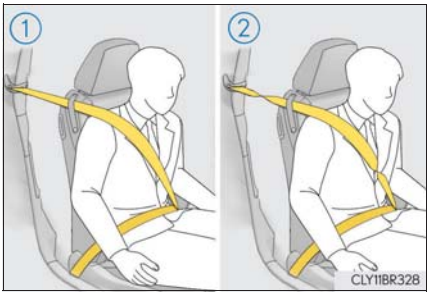
● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

① ねじれていない

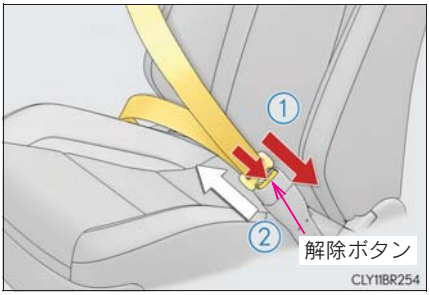
② ねじれている



着け方・はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

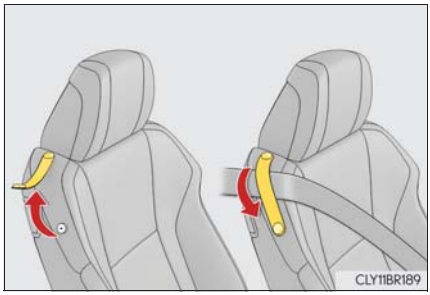
② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトガイド

フロント席のシートベルトを着用するときは、ベルトをガイドに通してください。フロント席のシートベルトをガイドに通しておくとシートベルトが引き出しやすくなります。

リヤシートへ乗り降りするときは、シートベルトガイドからシートベルトをはずします。

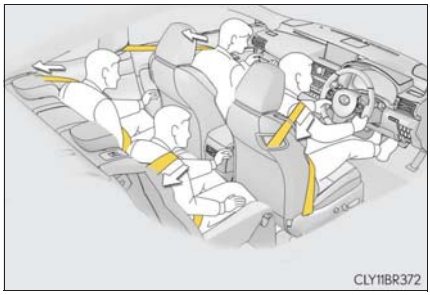


シートベルトプリテンショナー

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

フロント席のシートベルトプリテンショナーは、側方から強い衝撃を受けたときも作動します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 44）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

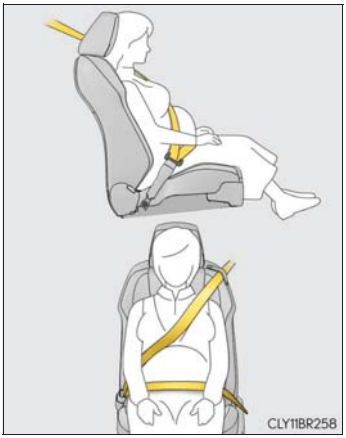
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 28)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

警告

■**お子さまを乗せるとき**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■**シートベルトガイドを使うときは**

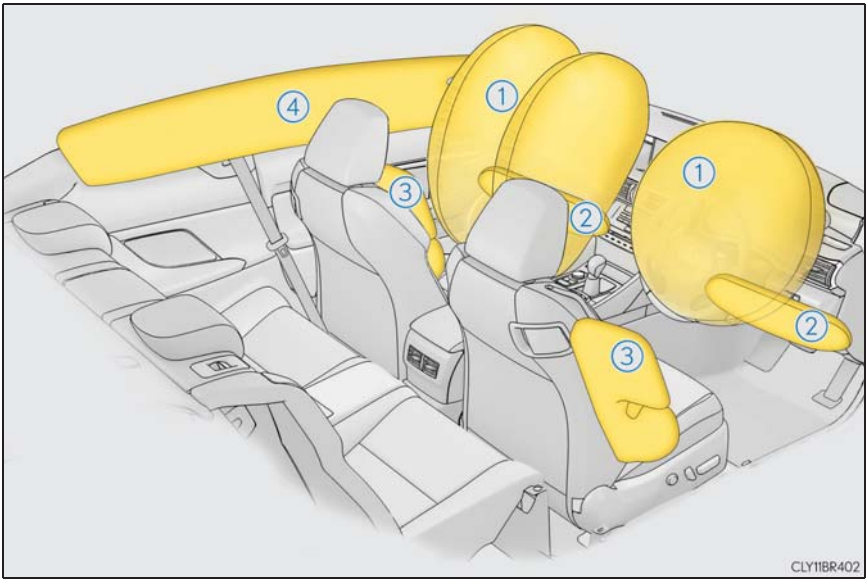
●ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたままで使用しないでください。

●使用・不使用に関わらず、確実にボタンを留めてください。

●ぶらさがったり、無理に引っぱったりしないでください。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

③ SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

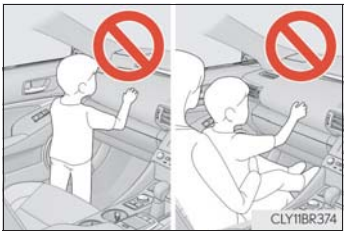
●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 44)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



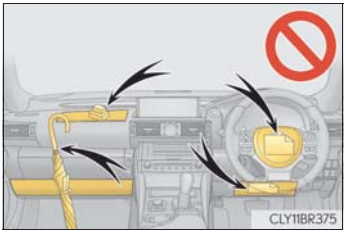
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

警告

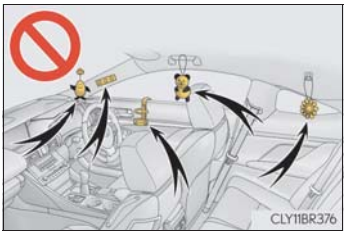
■SRS エアバッグについて

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→ P. 430）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。

●SRSニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動するとき

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●G-Link の契約期間内は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

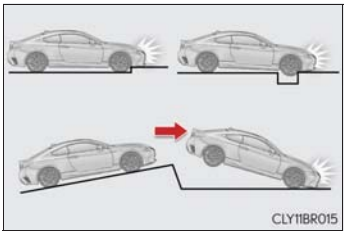
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロントSRSエアバッグとSRSサイド＆カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

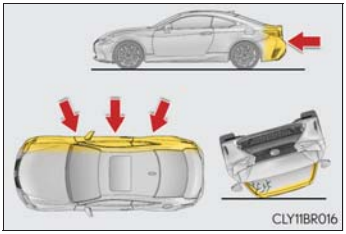
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

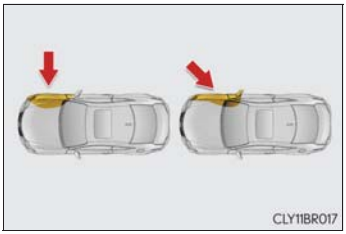


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

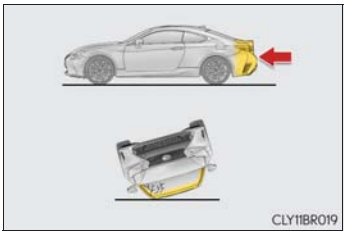
●斜めからの衝撃



SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

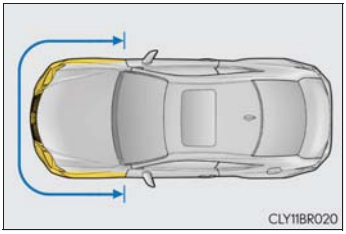


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

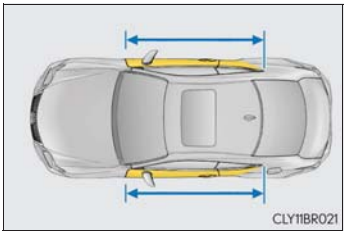
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

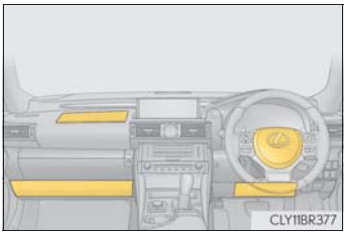
●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



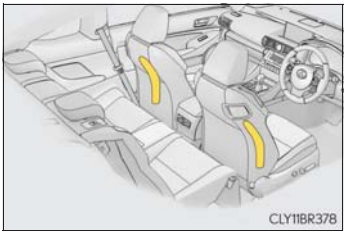
●SRSサイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



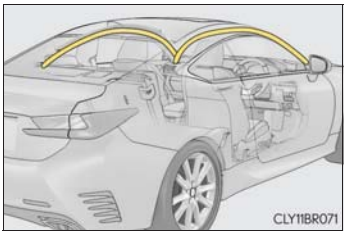
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近･インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部･リヤピラー部･ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



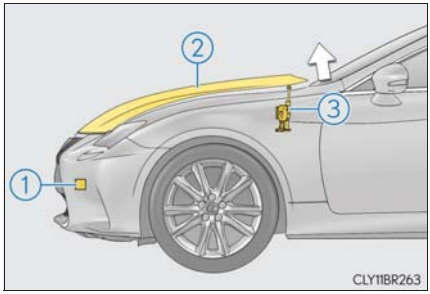
ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットの後方を持ち上げ、エンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

ポップアップフード

作動速度範囲での走行時に歩行者やその他の物体との衝突により、フロントバンパー裏にあるセンサーが一定以上の衝撃を感知すると、システムが作動し、ボンネットが持ち上がります。

① センサー
② ボンネット
③ リフター



ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき。（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）
- その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
  - ・縁石に衝突したとき
  - ・深い溝や穴に落ち込んだとき
  - ・ジャンプして地面にぶつけたとき
  - ・駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

警告

■ポップアップフードが作動したとき

●ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。ポップアップフードが作動したあとはレクサス販売店で点検を受けてください。車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。

●ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

知識

■ポップアップフードについて

●廃車するときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。

●ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。

■ポップアップフードが作動しにくいとき

●走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいため、作動しないことがあります。また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。

●車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■ポップアップフードが作動しないとき

次のようなときは作動しません

●横たわっている歩行者に衝突したとき

●作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき

●横方向や後部から衝撃を受けたとき

●横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります。）

注意

■ポップアップフードについて

●ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前に必ず確認してください。

●4 輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧（→ P. 462）で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどを純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●フロントバンパーやボンネットにものを取り付けないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●サスペンションを改造しないでください。車高が変わると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- パワーウインドウを誤操作しないように、ウインドウロックスイッチ（→ P. 166）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P. 44 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 44
チャイルドシートについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 46
チャイルドシートを助手席で使用するときは・・・・・・・・・・・・・・P. 49
チャイルドシートをリヤシートで使用するときは・・・・・・・・・・・P. 51
チャイルドシートの取り付け方法
・シートベルトで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 52
・ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する・・・・・・P. 57
・トップテザーアンカーを使用する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 63

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 車の取り付けに合った、ECE R44※ に適合するチャイルドシートを使用してください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合ったチャイルドシートを使用してください。

※ ECE R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

警告

■**お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。

●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

●チャイルドシートにはお子さまを1人だけ乗せて、チャイルドシートのベルトで体を固定してください。

■**チャイルドシートについて**

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認ください。(→ P. 52, 57)本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

●チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートについて

お手持ちのチャイルドシートについては、次の項目を確認のうえ、車に取り付けてください。

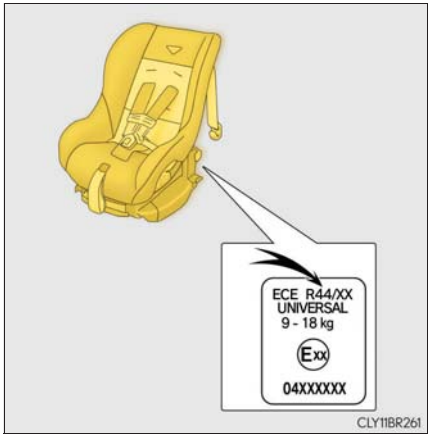
■ チャイルドシートの規格

ECE R44※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

ECE R44 認可マーク ※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



※1 ECE R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ 質量グループについて

この質量グループは、「チャイルドシート適合性一覧表」を確認する際に必要となります。「チャイルドシート適合性一覧表」と合わせてご確認ください。（→ P. 53, 59）

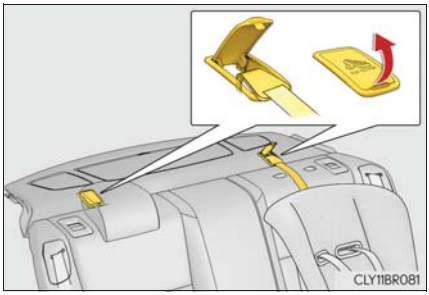
ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重	参考年齢 ※
グループ 0	10kg まで	9ヶ月頃まで
グループ 0 ＋	13kg まで	1 歳半頃まで
グループ Ⅰ	9 ～ 18kg	9ヶ月頃～ 4 歳頃まで
グループ Ⅱ	15 ～ 25kg	3 歳頃～ 7 歳頃まで
グループ Ⅲ	22 ～ 36kg	6 歳頃～ 12 歳頃まで

※ 年齢の範囲は、おおよその目安になります。お子さまの体重に合わせて選択してください。

■ チャイルドシート固定方法の種類

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P. 52
ISOFIX チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 57
テザーベルトを固定する		P. 63

チャイルドシートを助手席で使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能な時は、ヘッドレストを取りはずす

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、次のことを必ずお守りください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

●助手席にチャイルドシートを前向きに取り付ける場合には、助手席シートの背もたれを直立状態にして、シートをいちばんうしろに下げ、シートの高さをいちばん高い位置まで上げて取り付けてください。

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能な時は、ヘッドレストを取りはずしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

チャイルドシートをリヤシートで使用するときは

警告

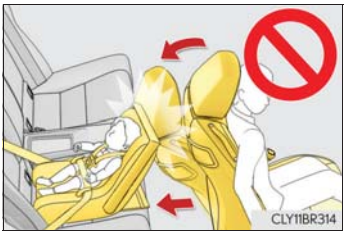
■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→ P. 53）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても選択することができます。
次に記載されている、「シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた」も合わせて確認ください。

◆ シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する（→ P. 47）

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「 I 」になります。

2 チャイルドシートの取り付け可能な位置と対応するチャイルドシートの種類（記号）を「チャイルドシート適合性一覧表」から確認して、適切なシートを選択する。（→ P. 53）

◆ チャイルドシート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

▶ フロントシート

質量グループ	助手席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	×	–
0+ （13kg まで）	×	–
Ⅰ （9 ～ 18kg）	うしろ向き ×	“ レクサス純正　NEO　G-Child baby”
	前向き UF※1	
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	UF※1	“ レクサス純正ジュニアシート ”

▶ リヤシート

質量グループ	右席	左席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	U	U	“ レクサス純正　NEO　G-Child baby”
0+ （13kg まで）	U	U	“ レクサス純正　NEO　G-Child baby”
Ⅰ （9 ～ 18kg）	U※2	U※2	“ レクサス純正　NEO　G-Child baby”
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	U※2	U※2	“ レクサス純正ジュニアシート ”

表に記入する記号の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

×： チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

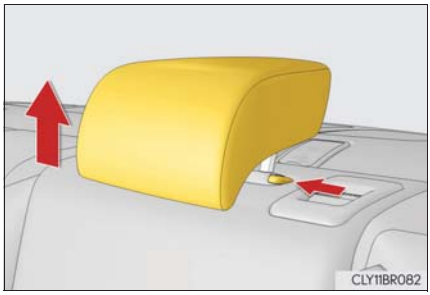
● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

◆ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

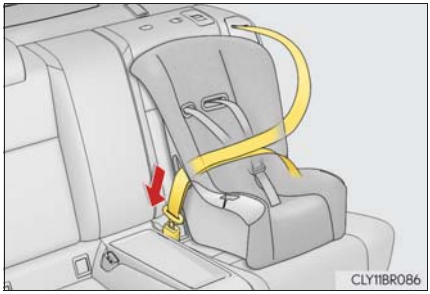
1 フロントシートを使用するとき：背もたれを調整する
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす（→ P. 156）



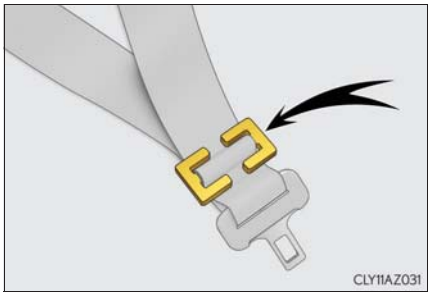
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



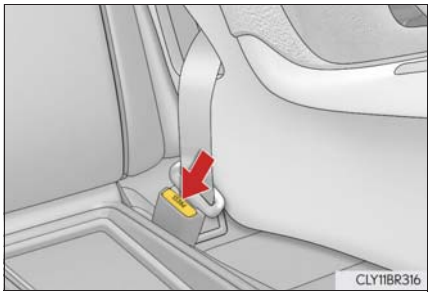
5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

◆ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。



警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

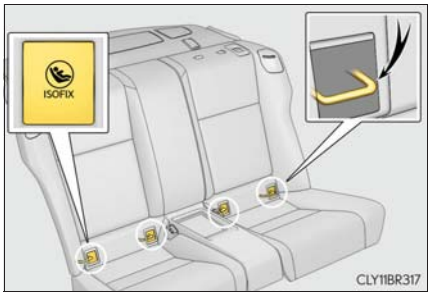
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートをISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はリヤ席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すマークがシートに付いています)



■ ISOFIX 対応チャイルドシートについて

ECE R44※ に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、認可マークが表示されています。
(→ P. 46)

※ ECE R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

■ チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→ P. 59) は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても確認することができます。
次に記載されている、サイズ等級、固定具および「ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた」も合わせて確認ください。

■ ECE R44 チャイルドシートのサイズ等級、固定具について

チャイルドシートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

サイズ等級	固定具	形状・大きさ	使用の向き	お子さまの大きさ
A	ISO/F3	全高	前向き	幼児
B	ISO/F2	低型	前向き	幼児
B1	ISO/F2X	低型	前向き	幼児
C	ISO/R3	大型	うしろ向き	幼児
D	ISO/R2	小型	うしろ向き	幼児
E	ISO/R1	ー	うしろ向き	乳児
F	ISO/L1	キャリコット※	左向き	乳児
G	ISO/L2	キャリコット※	右向き	乳児

※ キャリコットはお子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることのできる乳児用シートのことです。詳しくはチャイルドシート製造業者または販売業者にお尋ねください。

■ ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ･サイズ等級の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する (→ P. 47)

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 ＋」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 サイズ等級を確認する

手順で確認した「質量グループ」を「チャイルドシート適合性一覧表」から該当するサイズ等級を確認します。(→ P. 59)※

（例 1）：質量グループが「0 ＋」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例 2）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨チャイルドシート」(→ P. 59)で指定されている製品を使用してください。

◆ チャイルドシート適合性一覧表（ISOFIX での取り付け [ECE R44 適合のチャイルドシート]）

▶ リヤシート

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置		推奨チャイルドシート
			右席	左席	
キャリコット	F	ISO/L1	×	×	–
	G	ISO/L2	×	×	–
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL※1	IL※1	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL※1	IL※1	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
	D	ISO/R2	×	×	–
	C	ISO/R3	×	×	
I（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×	×	–
	C	ISO/R3	×	×	
	B	ISO/F2	IUF※2	IUF※2	–
			IL※2	IL※2	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
	B1	ISO/F2X	IUF※2	IUF※2	–
			IL※2	IL※2	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
	A	ISO/F3	×	×	–

表に記入する記号の説明

IUF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。

IL： ISOFIX チャイルドシートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

×： ISOFIX チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 フロントシートをいちばんまえに移動させてください。

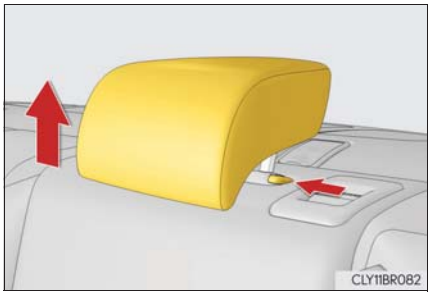
※2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

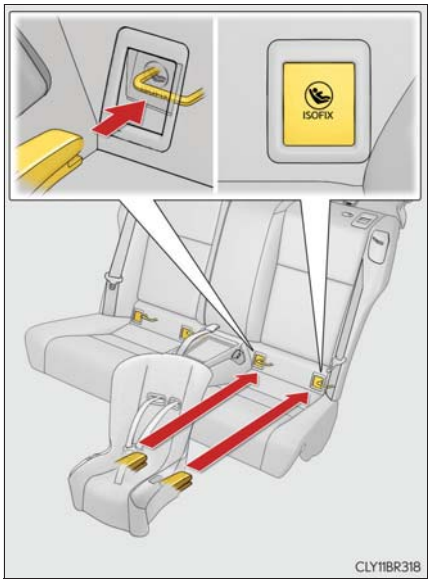
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす（→ P. 156）



2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

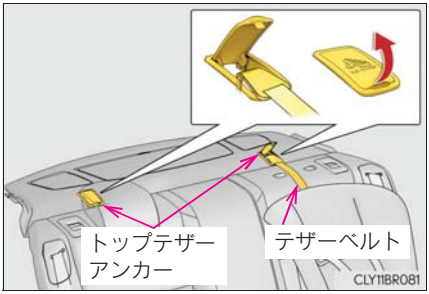
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

この車はリヤ席にトップテザーアンカーが装備されています。

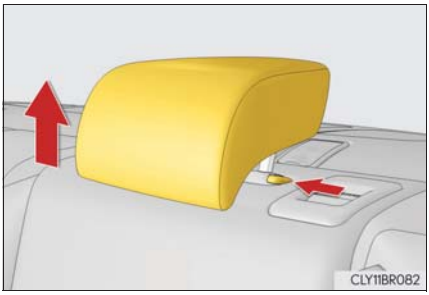
テザーベルトを固定するときに使います。



■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

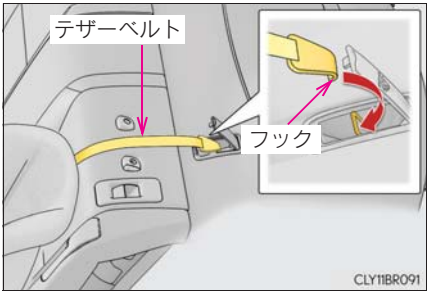
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 チャイルドシートとヘッドレストがあたるときは、ヘッドレストをはずす（→ P. 156）



2 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- ●テザーベルトはトップテザーアンカー以外に掛けないでください。
- ●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- ●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

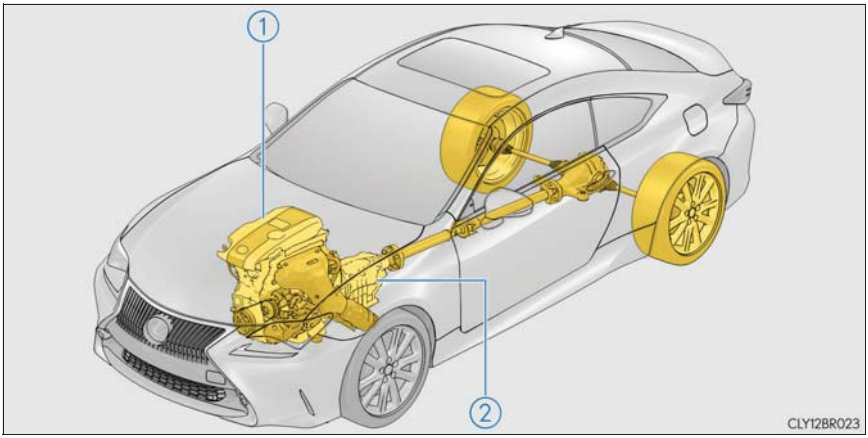
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖気中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 68）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

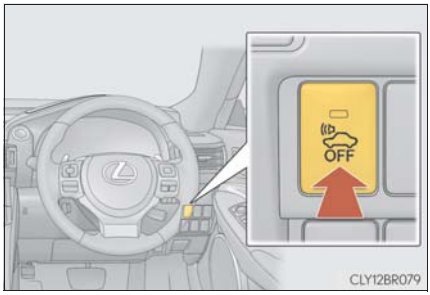
車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

消音するには、READY インジケーターが点灯している状態で、スイッチを押す

スイッチ上のインジケーターが点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。ハイブリッドシステムを始動するごとに、車両接近通報装置は ON になります。



知識

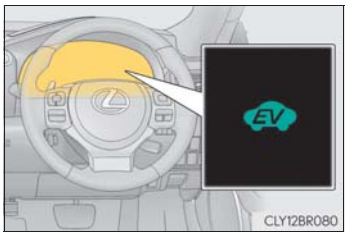
■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または S で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D または S で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはレクサス販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 446

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●車両下側からのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる “コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音

●トランクを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる “コツコツ” “カタカタ” という音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●リヤシート横にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■車両接近通報一時停止スイッチ（→ P. 67）のインジケーターが点滅したときは

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■メンテナンスや修理・廃車について

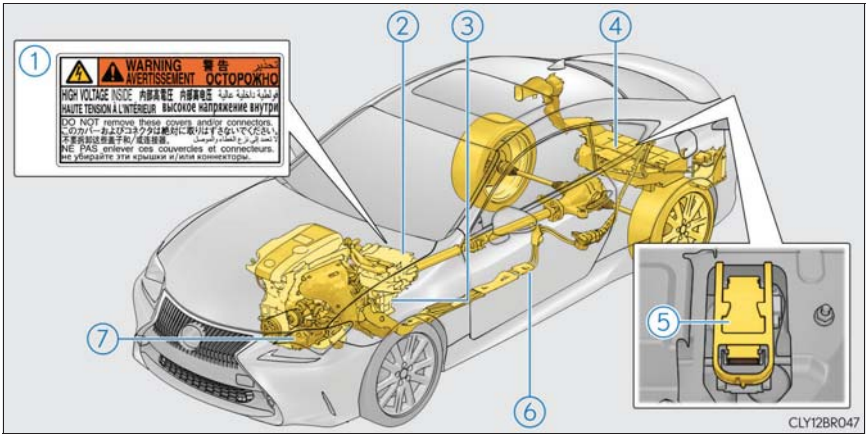
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

車両接近通報装置の音圧が大きくなるように変更したり、EV インジケーターが点灯しないように変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 463）

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ラベル
② パワーコントロールユニット
③ 電気モーター
④ 駆動用電池
⑤ サービスプラグ
⑥ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑦ エアコンコンプレッサー

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート横部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。

緊急停止システム

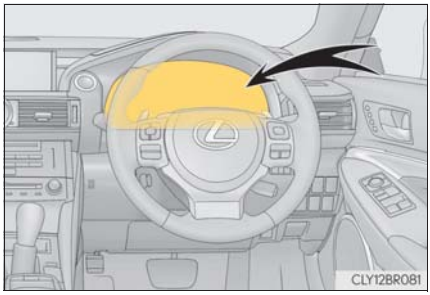
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 396）



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 393）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 10L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

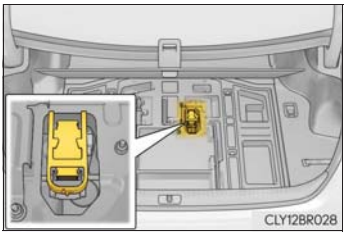
■**高電圧・高温について**

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



警告

■**事故が発生したとき**

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●後輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 385）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■**駆動用電池について**

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。

●吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

イモビライザーシステム

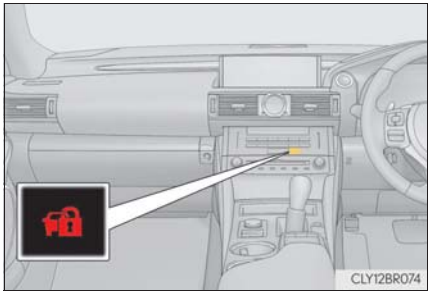
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ **メンテナンスについて**

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ **イモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

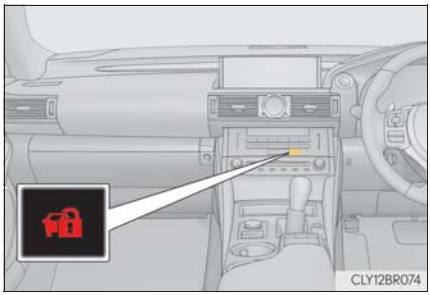
- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／ G-Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

●車内に人が乗っていないか

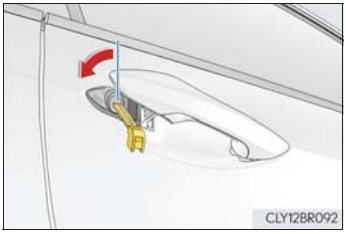
●ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか

●車内に貴重品などを放置していないか

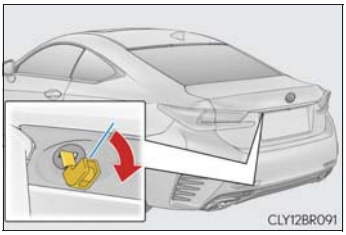
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



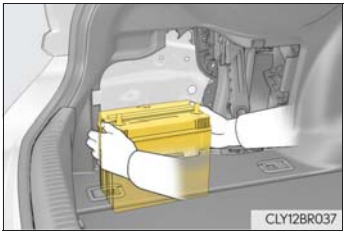
●メカニカルキーを使ってトランクを開けたとき



●車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき
（→ P. 446）



■オートアラーム作動によるドアロック機能について

以下のとき、自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフの閉め忘れなどを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／ G-Security」を参照してください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 463）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入センサーとは

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→ P. 77)

■ 侵入センサーを停止する

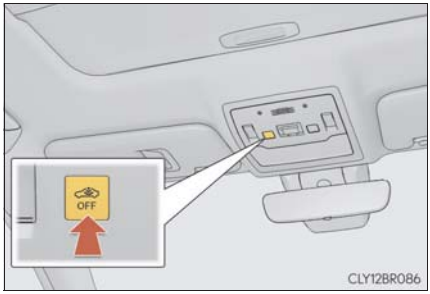
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 侵入センサーOFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーをOFF/ONにするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■侵入センサーの作動・停止について

●侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

●侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。

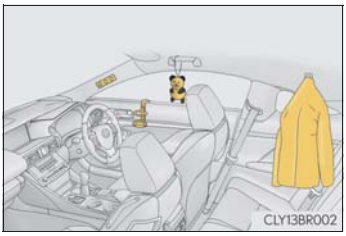
●オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

■侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き

●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



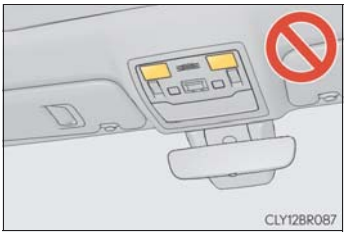
●振動や騒音が激しい場所、または連続的な衝撃や振動が車両に伝わる状況
・立体駐車場に駐車したとき
・ガラスに付着した氷を削り落すとき
・高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
・ひょう・落雷などのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

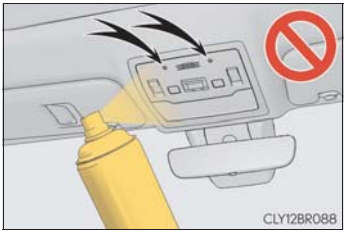
注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。



●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

メーターの見方

2

2. 計器の見方

警告灯／表示灯 84
計器類 89
マルチインフォメーション
ディスプレイ 96
エネルギーモニター／
Harmonious Driving Navi.
画面／燃費画面 111

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ F SPORT 以外

▶ F SPORT

警告灯

システム異常などを警告します。

※ ブレーキ警告灯（→ P. 391）

※ ブレーキ警告灯（→ P. 391）

※ 充電警告灯★（→ P. 391）

※ エンジン警告灯（→ P. 391）

※ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（→ P. 391）

※ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（→ P. 391）

パーキングブレーキ警告灯（→ P. 392）

※ パワーステアリング警告灯（→ P. 392）

LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯（→ P. 392）

※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯（→ P. 392）

※ スリップ表示灯（→ P. 392）

半ドア警告灯（→ P. 392）

燃料残量警告灯（→ P. 393）

シートベルト非着用警告灯（→ P. 393）

※ マスターウォーニング（→ P. 393）

※ タイヤ空気圧警告灯（→ P. 393）

※ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→ P. 202）

尾灯表示灯（→ P. 204）

ハイビーム表示灯
（→ P. 205）

※1

オートマチックハイビーム
表示灯（→ P. 207）

フロントフォグランプ
表示灯（→ P. 211）

リヤフォグランプ表示灯★
（→ P. 211）

クルーズコントロール
表示灯（→ P. 246）

レーダークルーズコントロール表示灯（→ P. 246）

クルーズコントロールセット
表示灯（→ P. 246）

LDA（レーンディパーチャー
アラート）表示灯（→ P. 238）

LDA（レーンディパーチャー
アラート）表示灯（→ P. 238）

LDA（レーンディパーチャー
アラート）表示灯（→ P. 238）

クリアランスソナー表示灯★

※1

（点滅）
スリップ表示灯（→ P. 285）

※1, 2

VSC（ビークルスタビリティ
コントロール）OFF 表示灯
（→ P. 286）

※1, 2

PCS（プリクラッシュセーフ
ティシステム）警告灯
（→ P. 231）

※3, 4

BSM（ブラインドスポットモ
ニター）ドアミラーインジ
ケーター★（→ P. 258）

※5

セキュリティ表示灯
（→ P. 76, 77）

※6

低温表示灯（→ P. 89）

READY インジケーター
（→ P. 187）

EV インジケーター
（→ P. 67）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 走行モード表示

▶ F SPORT 以外

EV ドライブモード表示灯
(→ P. 193)

エコドライブモード表示灯
(→ P. 280)

SPORT 表示灯★
(→ P. 280)

SPORT S 表示灯★
(→ P. 280)

SPORT S+ 表示灯★
(→ P. 280)

スノーモード表示灯
(→ P. 196)

カスタム表示灯★
(→ P. 280)

▶ F SPORT

EV ドライブモード表示灯
(→ P. 193)

エコドライブモード表示灯
(→ P. 280)

SPORT S 表示灯
(→ P. 280)

SPORT S+ 表示灯
(→ P. 280)

スノーモード表示灯
(→ P. 196)

カスタム表示灯
(→ P. 280)

※ [1] 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※ [2] システムが OFF のときに点灯します。

※ [3] 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。
・BSM メインスイッチが ON の状態で、パワースイッチを ON モードにしたとき
・パワースイッチが ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき
システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ [4] ドアミラーに表示されます。

※ [5] センターパネルに表示されます。

※ [6] 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

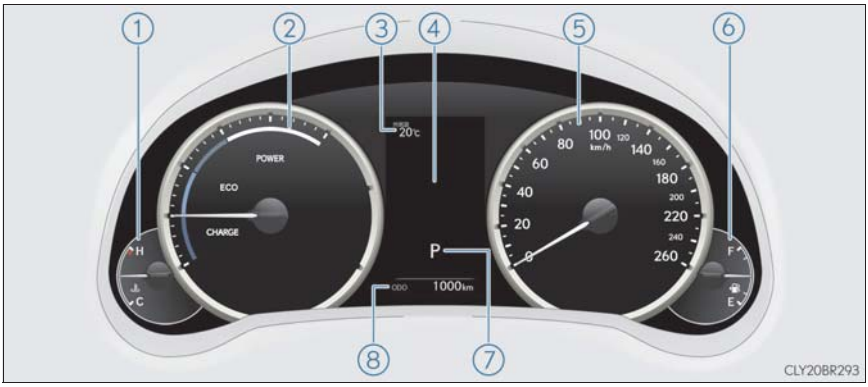
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

計器類

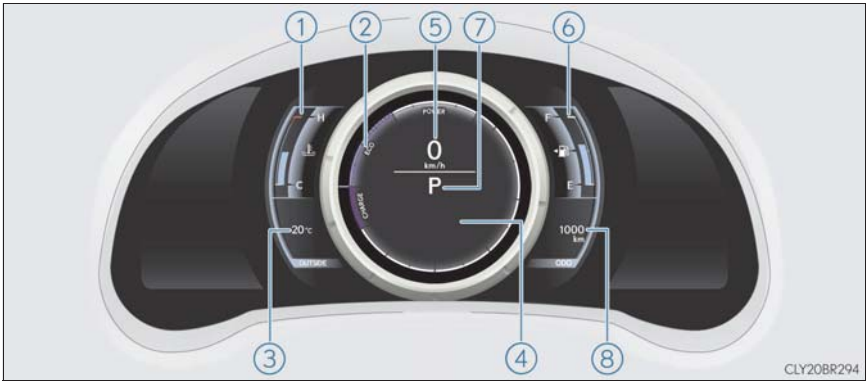
◆ F SPORT 以外



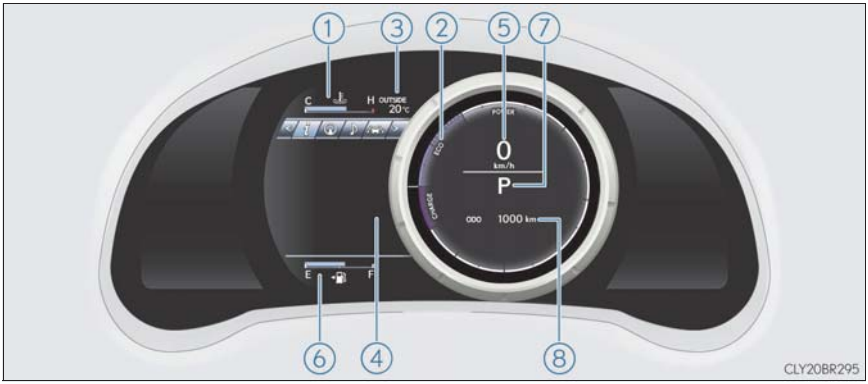
◆ F SPORT

メーターリングの位置に応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。

▶ メーターリング中央時



▶ メーターリング移動時



① 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

② ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→ P. 94）

走行モードや設定によってタコメーターに切りかえることができます。（→ P. 105）

③ 外気温

外気温度を -40 ℃ ～ 50 ℃ の間で表示します。外気温が約 3 ℃ 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

④ マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 96）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→ P. 396）

⑤ スピードメーター

⑥ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約５ L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

⑦ シフトポジション・シフトレンジ表示（→ P. 195）

⑧ オドメーター／トリップメーター（→ P. 108）

■ 車速インジケーター（F SPORT）

設定した車速に到達すると、速度単位の両側にインジケーターを表示します。

・ インジケーターには黄色（任意設定）と赤色（120 km/h※ 固定）の 2 種類があります。
・ 車速インジケーターの表示を開始する車速は、マルチインフォメーションディスプレイの ◯ で設定することができます。（→ P. 105）
・ 初期設定は非表示になっています。マルチインフォメーションディスプレイの ◯ で設定を変更することができます。（→ P. 105）

※ 公道では制限速度をお守りください。

■ REV インジケーター（F SPORT）

タコメーター表示中に、設定したエンジン回転数に到達すると、タコメーター内にリング状のインジケーターを表示します。

REVインジケーターの表示を開始するエンジン回転数は、マルチインフォメーションディスプレイの ◯ で設定することができます。
（→ P. 105）

■ REV ピーク（F SPORT）

タコメーター表示中に、4000 r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を約 0.5 秒間表示します。

表示の切りかえ

■ メーターリング（F SPORT）

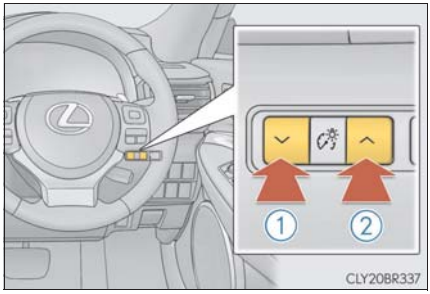
ボタンを押すごとにメーターリングが移動して表示が切りかわります。

インストルメントパネル照度調整スイッチ

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

① 暗くする

② 明るくする



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

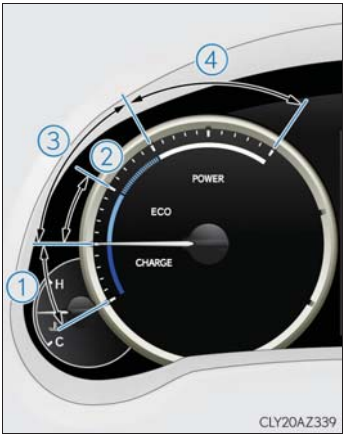
パワースイッチが ON モードのとき

■インストルメントパネルの照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。
ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて

▶ F SPORT 以外



▶ F SPORT

① チャージエリア
回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア
全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

●走行モードに応じて、ハイブリッドシステムインジケーターとタコメーターが切りかわります。また、マルチインフォメーションディスプレイの で常時ハイブリッドシステムインジケーター表示または常時タコメーターに表示に変更することができます。（→ P. 105）

●次のときにハイブリッドシステムインジケーターが表示されます。
・タコメーター切りかえの設定が自動切りかえの状態で走行モードがスポーツモード以外のとき
・タコメーター切りかえの設定が常時ハイブリッドシステムインジケーター表示のとき

●インジケーターの針（F SPORT 以外）／バー表示（F SPORT）をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

●チャージエリアは、回生※ 状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■タコメーターについて

走行モードがスポーツモードのとき、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります。マルチインフォメーションディスプレイで表示方法を変更することができます。(→ P. 105)

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■割込表示について

●マルチインフォメーションディスプレイやオドメーター／トリップメーター表示部（F SPORT）には、状況に応じて一時的に割り込み画面が表示されます。

●一部の割り込み表示の表示／非表示を切りかえることができます。(→ P. 105)

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。
(→ P. 105)

⚠注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

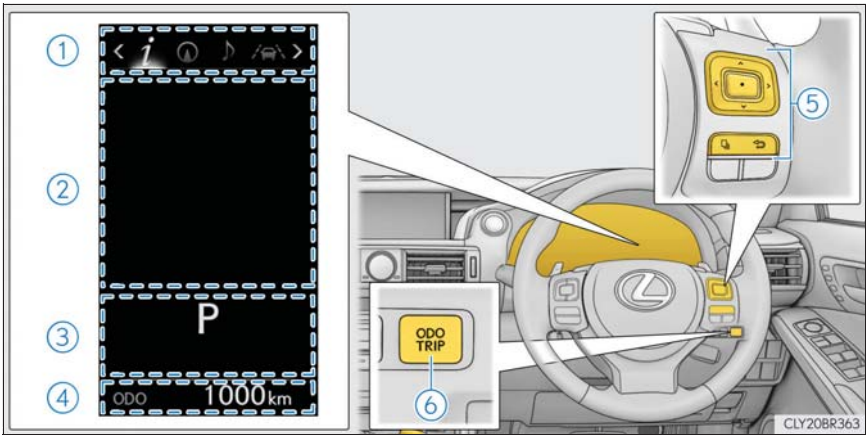
●水温計の針（F SPORT 以外）／バー表示（F SPORT）が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→ P. 449)

マルチインフォメーションディスプレイ

機能概要

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示したり、設定を切りかえることができます。

◆ F SPORT 以外



① メニューアイコン表示エリア

メニューアイコンの切りかえ操作をしていないときは外気温が表示されています。
・ メニューアイコン (→ P. 101)
・ 外気温 (→ P. 89)

② コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを切り替えることにより、さまざまな情報を表示することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。
・ 各メニューの表示内容 (→ P. 101)
・ 警告メッセージ (→ P. 396)

③ 表示灯／シフトポジション表示エリア
・ 表示灯 (→ P. 84)
・ シフトポジション表示 (→ P. 195)

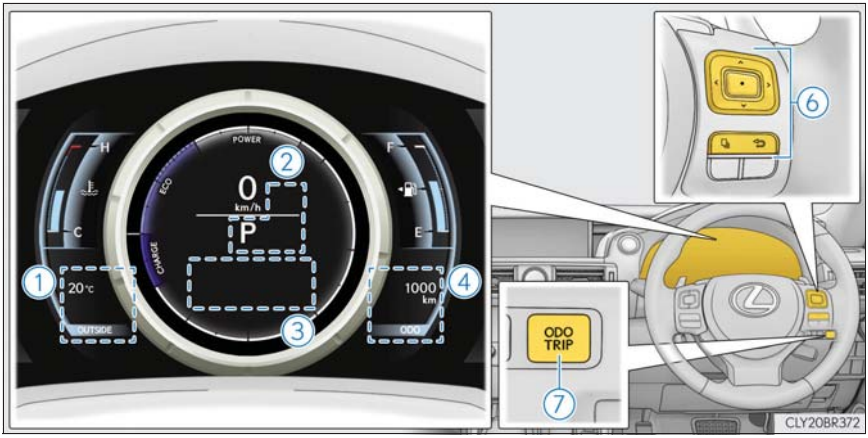
④ オドメーター／トリップメーター (→ P. 108)

⑤ メーター操作スイッチ (→ P. 99)

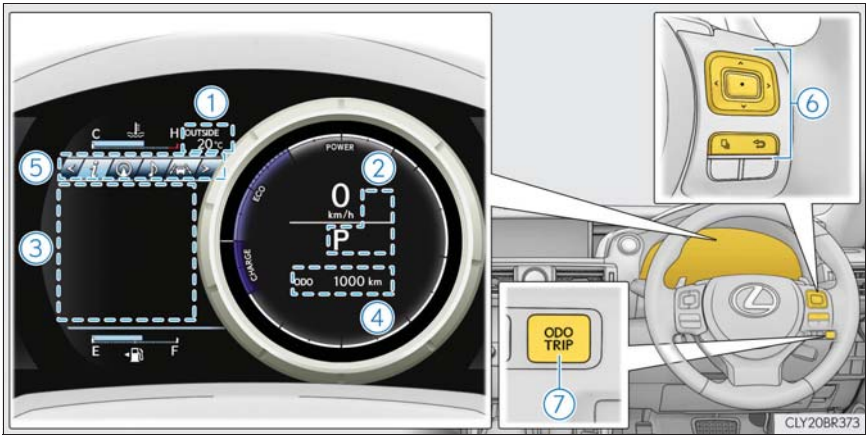
⑥ オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタン (→ P. 100)

◆ F SPORT

▶ メーターリング中央時



▶ メーターリング移動時



① 外気温表示 (→ P. 89)

② 表示灯／シフトポジション表示エリア
- 表示灯 (→ P. 84)
- シフトポジション表示 (→ P. 195)

③ コンテンツ表示エリア

メーターリング中央時：
走行に関するさまざまな情報を表示することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。
- ドライブインフォメーション（→ P. 102）
- 警告メッセージ（→ P. 396）

メーターリング移動時：
メニューアイコンを切り替えることにより、さまざまな情報を表示することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。
- 各メニューの表示内容 (→ P. 101)
- 警告メッセージ (→ P. 396)

④ オドメーター／トリップメーター (→ P. 108)

⑤ メニューアイコン (→ P. 101)

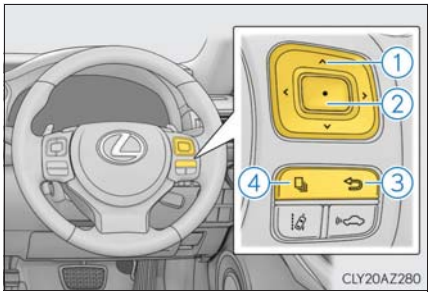
⑥ メーター操作スイッチ (→ P. 99)

⑦ オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタン (→ P. 100)

操作方法

◆ コンテンツ表示エリアの操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



① < > :メニューの切りかえ

∧ ∨ :コンテンツの切りかえ、ページ送り、カーソル移動

② 短押し：決定

長押し：リセット

③ 前の画面にもどる

短押しと長押しで戻ることができる階層がかわります。

▶ F SPORT 以外

④ 短押し：トップ画面を表示する

長押し：トップ画面を登録する

▶ F SPORT

④ メーターリング移動

メーターリングが右にスライドし、リング左側にメニューアイコンを表示させます。

■ トップ画面の登録（F SPORT 以外）

お好みの画面を登録することで、トップ画面を変更することができます。トップ画面を登録するには、登録したい画面を表示中に スイッチを長押ししてください。

・スイッチを長押しすると、登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。
・未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

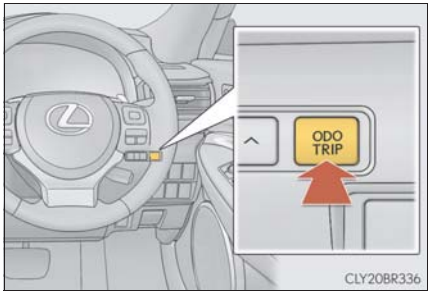
■ ドライブインフォメーションのリセット

i で表示される平均燃費（リセット間）・平均車速（リセット間）・走行時間（リセット間）をリセットするには、リセットしたい項目を表示中に スイッチを長押しします。

画面に表示されている項目が 2 つともリセット可能な場合は、選択画面が表示されます。

◆ オドメーター／トリップメーターの操作方法

オドメーター／トリップメーター切りかえ･トリップメーターリセットボタンを使って次のように操作します。



短押し：表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示される項目が切りかわります。

長押し：リセット

トリップメーターを表示中にボタンを長押しすると、走行距離を 0 にもどします。

メニューアイコン

メニューアイコンを選択して、次の項目を表示することができます。

ドライブインフォメーション (→ P. 102)

走行に関するさまざまな情報を表示します。

ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。
・ 目的地案内
・ コンパス（ヘッディングアップ表示）

オーディオシステム連携表示

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。
・ レーダークルーズコントロール (→ P. 246)
・ LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）
(→ P. 238)

警告メッセージ（→ P. 396）

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。

設定（→ P. 105）

さまざまな機能の設定やメーターの表示設定などを変更することができます。

ドライブインフォメーション（ i ）

F SPORT：ドライブインフォメーションは、メーターリング中央時と移動時で表示される内容が一部異なります。

■ ドライブインフォメーション１／２／３

次の走行に関する情報を１画面につき２項目ずつ表示します。

F SPORT（メーターリング中央時）の場合は、１項目ずつ分けて表示します。

● ドライブインフォメーション１
- 瞬間燃費
- リセット間平均燃費

● ドライブインフォメーション２
- 航続可能距離
- リセット間平均車速

● ドライブインフォメーション３
- 給油後平均燃費
- 始動後走行時間

表示する項目は メニューから変更することができます。(→ P. 105)

表示できる項目は次のとおりです。

項目		表示内容
瞬間燃費		現在の瞬間燃費を表示
平均燃費	リセット間	リセット後の平均燃費を表示 ※1、2
	始動後	ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示 ※2
	給油後	給油後の平均燃費を表示 ※2、3
平均車速	リセット間	リセット後の平均車速を表示 ※1
	始動後	ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示
走行時間	リセット間	リセット後の経過時間を表示 ※1
	始動後	ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示
距離	航続可能距離	燃料残量による走行可能な距離を表示 ※3、4
	始動後	ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示
その他	ブランク	非表示

※1 リセット方法：→ P. 99

※2 表示される燃費は参考として利用してください。

※3 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

※4 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

■ エネルギーモニター

→ P. 111

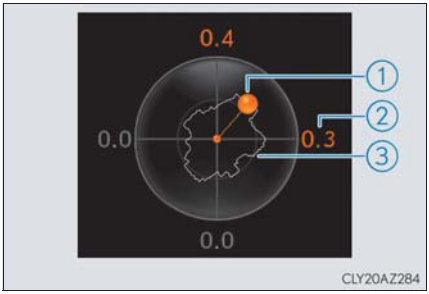
■ G モニター★※

車両にかかる前後左右の G（加速度）を表示します。

① 車両にかかる G

② 現在の G 値（前後左右に分解した値）

③ 最大 G の軌跡



表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

● 最大 G の軌跡のリセット

を長押しすることで、軌跡をリセットすることができます。

● ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が橙色に変わり、2 秒間保持されます。

※ F SPORT（メーターリング中央時）は表示されません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **タイヤ空気圧**

→ P. 347

■ **ふらつき検知機能** ※

運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意力低下の度合いをバーの長さで表示します。
バーの長さが短いほど休憩が必要な状態であることを表します。

この表示は、LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）の機能のひとつです。LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）のふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。（→ P. 238）

※ F SPORT（メーターリング中央時）は表示されません。

■ **ブランク（非表示）**

ブランク画面を表示します。

設定（⚙）

◆ 設定変更のしかた

ハンドルのメーター操作スイッチを操作して、次のように設定を変更します。

1. ＜ または ＞ スイッチを押して ⚙ を選択して、設定画面を表示させる
2. スイッチを操作して、変更する項目にカーソルを合わせる
3. 画面に表示されている内容に従って設定を変更する

◆ 設定変更できる項目

■ LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）（→ P. 238）

次の LDA の設定を変更することができます。

項目	設定内容	説明
操舵支援	有	ハンドル操舵支援の作動・非作動を変更することができます。
	無	
警報手段		警報の手段をハンドルの振動または警報ブザーのいずれかから選択することができます。
警報感度	高	警報の感度を変更することができます。
	普通	
ふらつき検知	有	ふらつき警報機能の作動・非作動を変更することができます。
	無	
ふらつき検知感度	高	ふらつき警報機能の感度を変更することができます。
	普通	
	低	

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）（→ P. 228）

次のプリクラッシュセーフティシステムの設定を変更することができます。

項目	設定内容	説明
PCS	ON	プリクラッシュセーフティシステムの作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
警報感度		警報タイミングを変更することができます。

■ 車速インジケーター（F SPORT）（→ P. 91）

次の車速インジケーターの設定を変更することができます。

項目	設定内容	説明
車速インジケーター	ON	車速インジケーターの作動・非作動を変更することができます。
	OFF	
車速設定	50 ～ 120km/h※	車速インジケーターの表示を開始する速度を設定します。

※ 公道では制限速度をお守りください。

■ 表示設定

項目	設定内容	説明
言語		表示される言語を変更することができます。
単位		燃費表示の単位を変更することができます。
（EV インジケーター）	ON	EV インジケーターの作動・非作動を変更することができます。(→ P. 67)
	OFF	
スイッチ設定（F SPORT 以外）		トップ画面を変更する方法を表示します。
ドライブインフォ 1		ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ1、ドライブインフォ2、ドライブインフォ3 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。 (選択項目：→ P. 102)
ドライブインフォ 2		
ドライブインフォ 3		
割込表示	交差点案内	割り込み表示される項目の表示・非表示を変更することができます。
	電話着信	
	オーディオ操作 (F SPORT)	
	ボリューム操作 (F SPORT)	
	照度調整	
カラー（F SPORT 以外）	全 2 色	カーソルの色などを変更することができます。
指針（F SPORT）	全 3 色	タコメーターの指針色を変更することができます。

項目	設定内容	説明
タコメーター切りかえ	自動切りかえ	走行モードに応じたタコメーターとハイブリッドシステムインジケーターの切りかえ方を変更することができます。
	常時タコメーター	
	常時ハイブリッドシステムインジケーター	
REV インジケーター（F SPORT）	ON	REV インジケーターの作動・非作動を変更することができます。（→ P. 91）
	OFF	
	REV セッティング	REV インジケーターの表示を開始するエンジン回転数を設定します。
REV ピーク（F SPORT）	ON	REV ピークの作動・非作動を変更することができます。（→ P. 91）
	OFF	
表示設定初期化		メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

オドメーター／トリップメーター

◆ 表示項目

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中にオドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタンを長押しします。

知識

■ 表示灯／シフトポジション表示エリアの背景色について（F SPORT 以外）

走行モード (→ P. 280) によって背景色が切り替わります。

●エコドライブモード：青色

●スポーツモード：赤色

■G モニターの表示について（F SPORT）

傾斜のある場所など、路面の状況によっては停車中でも G 値が 0 にならない場合があります。

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

■タイヤ空気圧表示ついて

●パワースイッチを ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。

●電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは"---"と表示されることがあります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 105, 463)

警告

■**運転中の使用について**

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■**低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ディスプレイの設定を変更するとき**

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

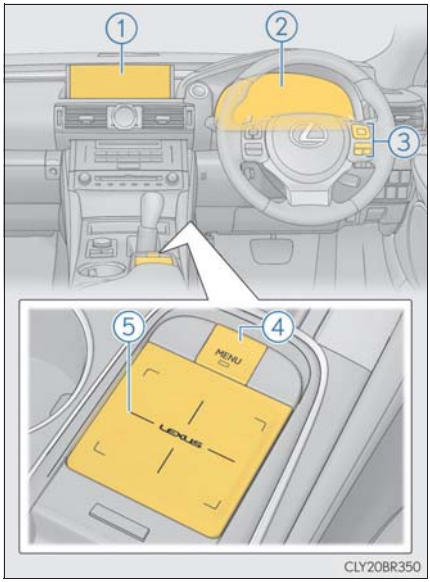
■**ディスプレイの設定を変更するとき**

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／ Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面に表示します。

① ナビゲーション画面
② マルチインフォメーションディスプレイ
③ メーター操作スイッチ
④ MENU ボタン
⑤ タッチパッド



エネルギーモニターの見方

▶ ナビゲーション画面

1 リモートタッチの MENU ボタンを押しメニュー画面を表示させる

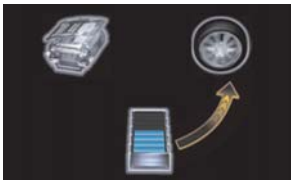
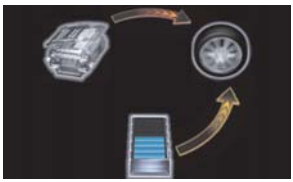
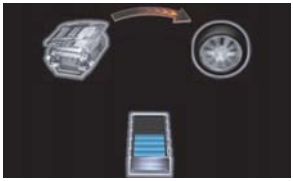
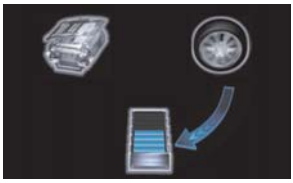
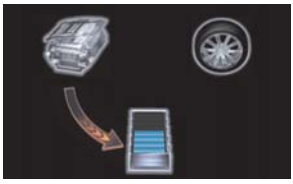
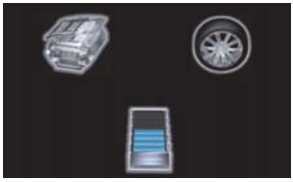
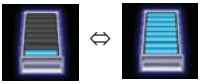
2 「情報」を選択する

3 「エコ情報」を選択する

4 「エネルギー」を選択する

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチの < または > を押して i を選択し、∧ または ∨ を押してエネルギーモニターを表示させる

	ナビゲーション画面	マルチインフォメーションディスプレイ
電気のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき		
ガソリンのエネルギーで走行しているとき		
駆動用電池に充電しているとき		
		
エネルギーの流れがないとき		
駆動用電池の残量表示	少ない ⇔ 多い	少ない ⇔ 多い 

表示画面については実際の状況や仕様によりわずかに異なる場合があります。

Harmonious Driving Navi. 画面の見方

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、「情報」を選択する

2 情報画面の「エコ情報」を選択する

3 「Driving Navi.」を選択する

① ステータス／ポイント表示 ※1

エコ運転の採点結果や走行情報を G-Link センターに送信し、計算されたデータをもとにポイントやステータスを表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

③ エコレベルメーター

ハイブリッドシステムインジケーターの針（F SPORT 以外）／バー表示（F SPORT）がエコエリア内の状態を継続させることなどでメーターが増加します。

④ エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

⑤ トリップインフォメーション（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ トリップインフォメーション（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ ※2

走行情報などを G-Link センターへ送信し、ステータス／ポイント表示を更新します。

⑧ エコカルテスイッチ ※2

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※1 G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。
G-Link の利用手続き・利用開始操作については別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※2 G-Link サービスをご利用されているときに使用することができます。
また、ナビゲーション画面に通信設定に関するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って設定してください。
G-Link の利用手続き・利用開始操作については別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

燃費画面の見方

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、「情報」を選択する

2 情報画面の「エコ情報」を選択する

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション以外の画面が表示されたときは、「トリップインフォメーション」を選択します。

① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 50Wh です。

③ 履歴消去

④ 瞬間燃費

⑤ ハイブリッドシステム始動後平均車速

⑥ ハイブリッドシステム始動後走行時間

⑦ 航続可能距離（→ P. 117）

平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴以外の画面が表示されたときは、「燃費履歴」を選択します。

① 最高燃費表示

② 最新値表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

④ 履歴消去

⑤ 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

■G-Link センターへ送信する走行情報について

G-Link センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

■Harmonious Driving Navi. 画面について

パソコンや携帯電話のユーザーサイトでもステータスなどをみることができます。

■サイド画面の使い方

サイド画面に車両情報を表示して、 または を選択してお好みの画面を表示します。
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

●Harmonious Driving Navi.
・ 現在のエコ運転の状況を表示します。

CLY20BR438

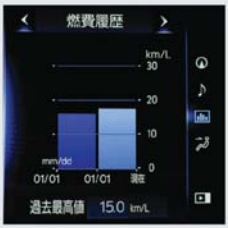
●トリップインフォメーション(タイプ A)
・ 過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃費と航続可能距離を表示します。
表示される平均燃費は、参考として利用してください。

CLY20BR434

●トリップインフォメーション(タイプ B)
・ 航続可能距離・最新値・始動後経過時間を表示します。
表示される最新値は、参考として利用してください。

CLY20BR435

●燃費履歴
・ 最新値と過去最高値を表示します。
表示される平均燃費は、参考として利用してください。



CLY20BR436

●エネルギーモニター

・ハイブリッドシステム動作状況、エネルギーの回収状況を表示します。
エネルギーモニターの見方は、マルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。(→ P. 113)

各部の操作 3

3-1. キー

キー.....122

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア.....128

トランク.....134

スマートエントリー＆スタートシステム.....140

3-3. シートの調整

フロントシート.....146

リヤシート.....149

運転席ポジションメモリー.....151

ヘッドレスト.....156

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル.....159

インナーミラー.....161

ドアミラー.....163

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ.....166

ムーンルーフ.....170

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

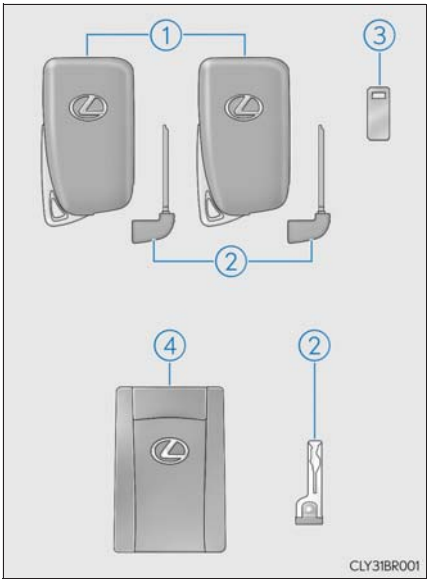
① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→ P. 140）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

④ カードキー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→ P. 140）



ワイヤレスリモコン

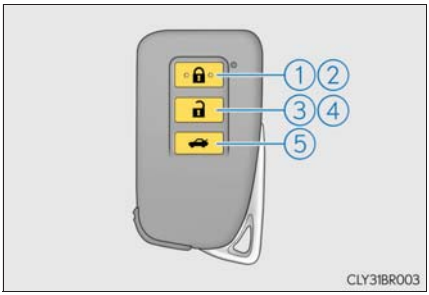
① ドアの施錠（→ P. 128）

② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※（→ P. 128）

③ ドアの解錠（→ P. 128）

④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※（→ P. 128）

⑤ トランクを開ける（→ P. 135）

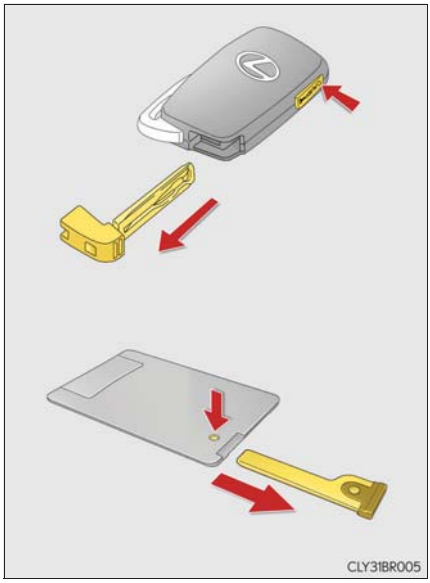


※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 463）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 440）

知識

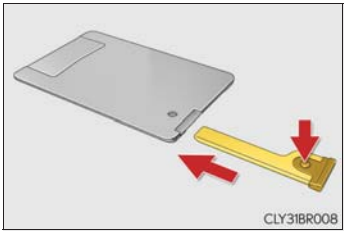
■カードキーについて

●カードキーは非防水です。

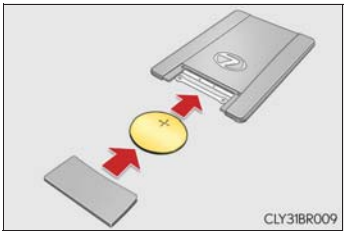
●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じて、ラゲージセキュリティシステムをセット（→ P. 136）し、グローブボックスを施錠（→ P. 323）します。
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は１～２年です。（カードキーの電池は１年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→ P. 420）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の１m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 364

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

注意

■カードキーの取り扱いについて

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

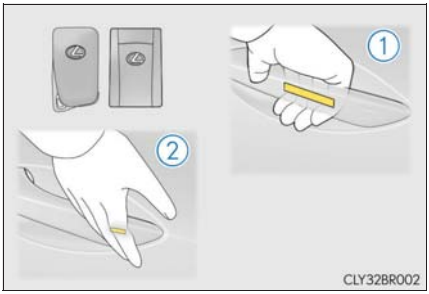
●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。



① ドアハンドルを握って解錠する

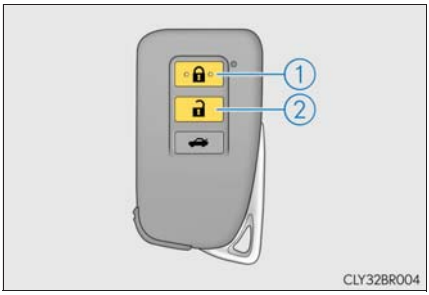
ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 463）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

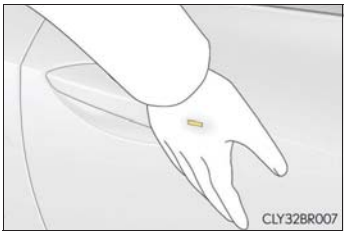
ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 77）

■スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

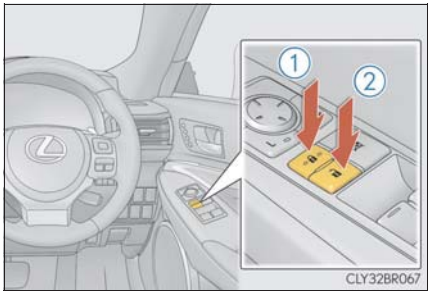
メカニカルキーやロックレバーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 440）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 364）

車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

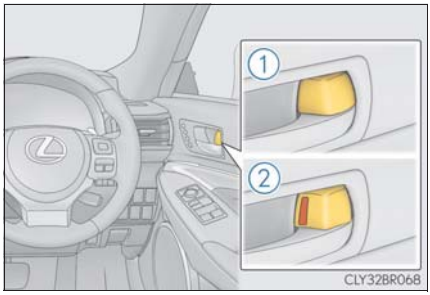


◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側から施錠

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 463 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■ドア連動ドアガラス開閉機能

ドアの開閉に連動して、ドアガラスが少し開閉します。

■解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入センサーを停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→ P. 80）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または 🚗 のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠	
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（🔓 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→ P. 77）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの解錠

メカニカルキーを使ってドアの解錠ができます。（→ P. 440）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 142

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 463）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ドア連動ドアガラス開閉機能

ドアガラスの上端を持ってドアを閉めないでください。ドアガラスで指などを挟むおそれがあります。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

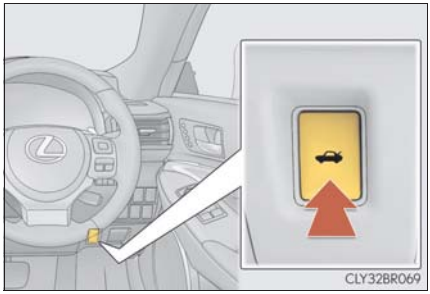
ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

車内からトランクを開ける

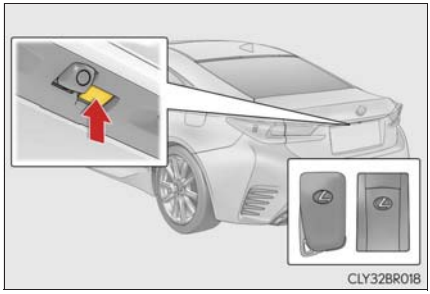
トランクオープナースイッチを押す



車外からトランクを開ける

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す



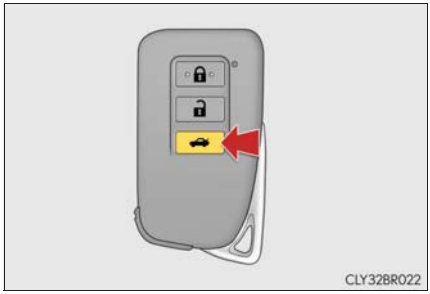
次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

- スマートエントリー＆スタートシステム
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- メカニカルキー
- オートドアアンロック機能

◆ ワイヤレスリモコン

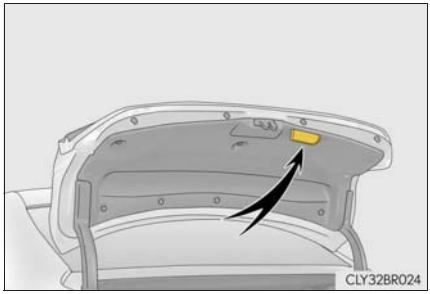
スイッチを押し続ける

ブザーが鳴ります。



トランクを閉めるとき

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。

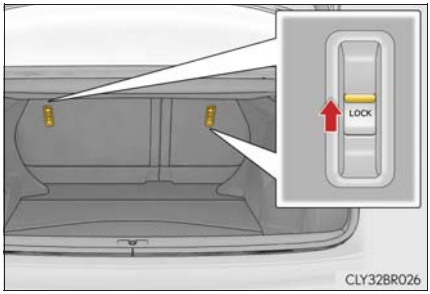


ラゲージセキュリティシステム

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、ラゲージセキュリティシステムをセットできます。

1 ラゲージセキュリティシステムレバーを施錠側にする

リヤシートの背もたれを前方に倒し、レバーを施錠側にしたあと背もたれをもとの位置にもどしても、施錠できます。

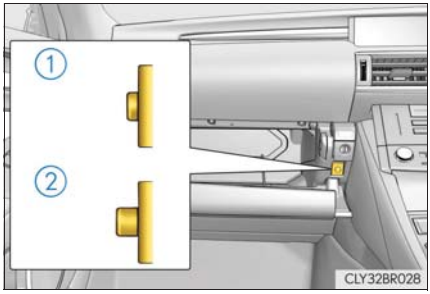


2 グローブボックス内のメインスイッチをOFFにして、トランクオープナースイッチを無効にする

① ON

② OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー＆スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。



知識

■ **トランクランプ**

- トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。
- パワースイッチが OFF の場合、トランクランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ **トランク内キー閉じ込み防止機能について**

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■ **メカニカルキーについて**

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。（→ P. 441）

■ **スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき**

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。（→ P. 441）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 364）

■ **駐車場などでキーを預けるときは**

→ P. 124

■ **カスタマイズ機能**

トランクの解錠設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 463）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ **トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。
- トランクを開けるときは、顔や体などをぶつけないよう注意してください。

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステム

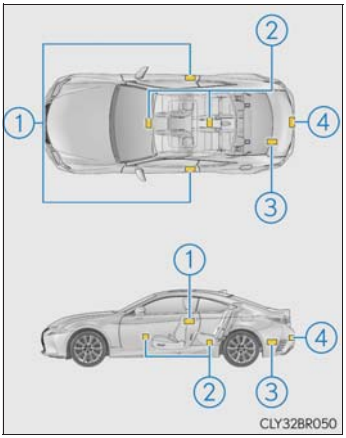
電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する （→ P. 128）
- トランクを開ける （→ P. 134）
- ハイブリッドシステムを始動する （→ P. 187）

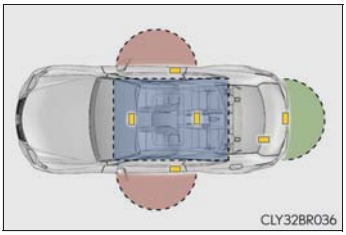
知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ
② 車内アンテナ
③ トランク内アンテナ
④ トランク外アンテナ



■作動範囲（電子キーの検知エリア）



：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

：トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 396）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車外から “ピー” と5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる
車内から “ポーン、ポーン” と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（パワースイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをOFF にした	運転席ドアを閉めてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

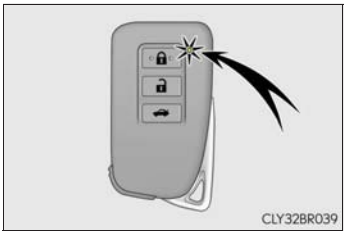
●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。



節電モード中は、スマートエントリー& スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 440）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
- ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・金属製の財布やかばん
- ・小銭
- ・カイロ
- ・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
- ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
- ・デジタルオーディオプレーヤー
- ・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。
・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・トランクを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・ハイブリッドシステム始動時やパワースイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から 2m 以上離れた場所におく（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する （→ P. 142）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 463）

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 418）

●トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所（トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。（→ P. 137）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 440

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 442

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 463）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。(→ P. 128, 135, 440)

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 442

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 188

警告

■電波がおよぼす影響について

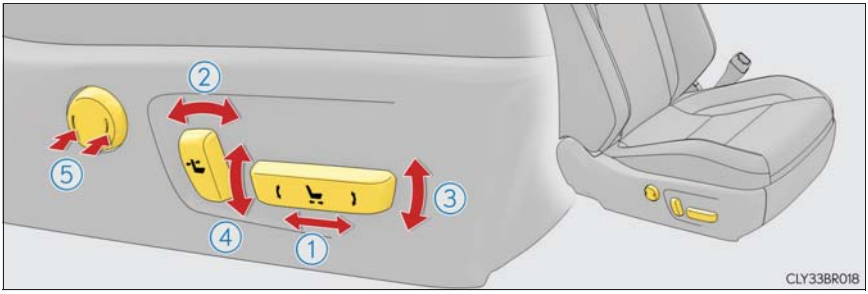
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 140）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた



① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ クッション前端の上下調整
④ シート全体の上下調整
⑤ 腰部位置調整（ランバーサポート）（運転席のみ）

リヤシートへの乗り降り（ワンタッチウォークインシート）

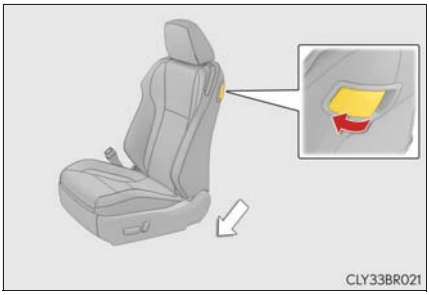
■ 乗り降りする前に

シートベルトガイドからシートベルトをはずしてください。（→ P. 29）

■ 乗るとき／降りるとき

1 レバーを引く

フロントシートが下がります。



2 背もたれを前に倒す

フロントシートが前方に移動します。

■ フロントシートをもとにもどすとき

固定される位置まで背もたれを起こすと、自動でもとの位置にもどります。

知識

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ･運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。（→ P. 466）

■シートを調整するときは

●ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

●リヤシートを折りたたんでいるとき、フロントシートの背もたれがリヤシートにあたる場合は、あたらない位置へ調整してください。正しい運転姿勢がとれない場合は、リヤシートをもとの位置へもどしてください。（→ P. 149）

■ワンタッチウォークインシートについて

●前方への操作後、復帰させる前にシート調整スイッチや運転席ポジションメモリースイッチを押したときは、背もたれを起こしても復帰作動しません。

●次のときはワンタッチウォークインシートが作動しません。
・シートベルトを装着しているとき
・パワースイッチが ON モードでシフトレバーが P 以外のとき（運転席のみ）

●次のときは、作動が途中で停止します。
・シート調整スイッチや運転席ポジションメモリースイッチを押したとき
・シートベルトを装着したとき
・パワースイッチが ON モードでシフトレバーを P 以外にしたとき（運転席のみ）

■挟み込み防止機能

ワンタッチウォークインシートの作動中に、シートの前後に異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し反対方向に少し移動します。

警告

■ **シートを調整するとき**

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ **リクライニング調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ワンタッチウォークインシートについて**

●操作する前に、周囲の人や物がシートに挟まるおそれがないことを確認してください。

●走行時は背もたれを確実に固定させてください。

●走行中は絶対に操作しないでください。

■ **挟み込み防止機能**

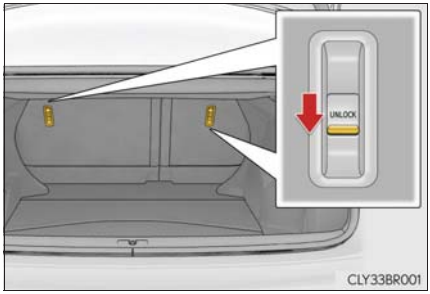
挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・体・足などを挟んだりしないでください。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

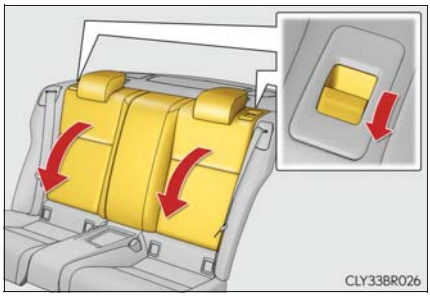
背もたれを倒す

1 ラゲージセキュリティシステムレバーを解除側にする



2 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

もどすときは、背もたれを起こして固定します。ヘッドレストが天井にあたり、もどしにくいときはヘッドレストを最下端に下げてください。



ラゲージセキュリティシステム

→ P. 136

警告

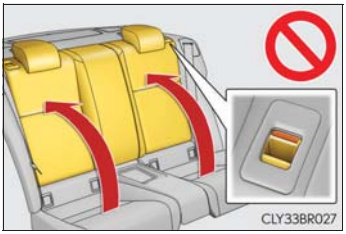
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■背もたれを前倒しするときは

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しない
- お子さまがトランクに入らないよう注意する

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
  シートが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないようにする

運転席ポジションメモリー

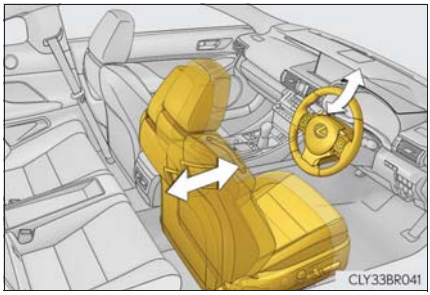
自動でシート・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

・シフトレバーを P に入れる
・パワースイッチを OFF にする
・シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

・パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにする
・シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が後方付近にあるときは、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 463）

運転席ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

■ 登録方法

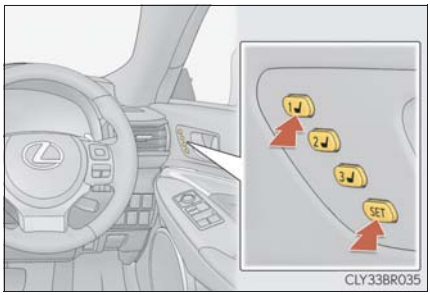
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

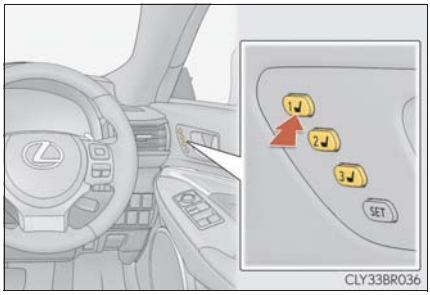


■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1 ～ 3 のボタンを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置 (→ P. 146)

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションに電子キー（カードキーを含む）を登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

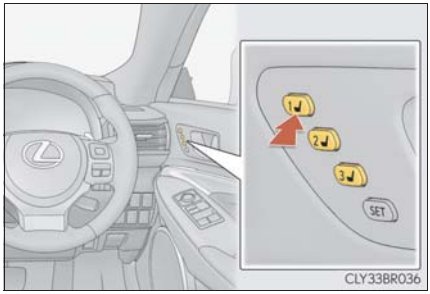
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピー” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

■ **解除方法**

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピッピッ ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■ **メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて**

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯するキーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ **カスタマイズ機能**

メモリーコール機能と連動するドアなどを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 463）

警告

■ **シート調整時の警告**

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

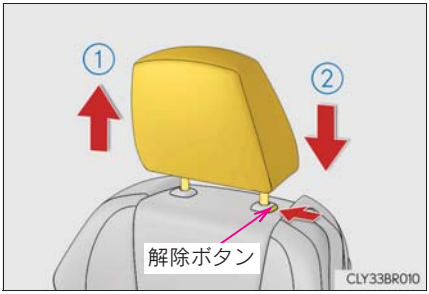
フロント席

◆ 上下調整

① 上げる

② 下げる

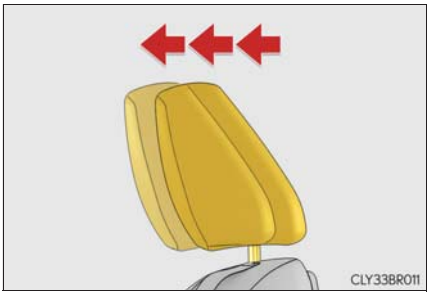
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



◆ 前後調整

ヘッドレストの前後位置を、4 段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。

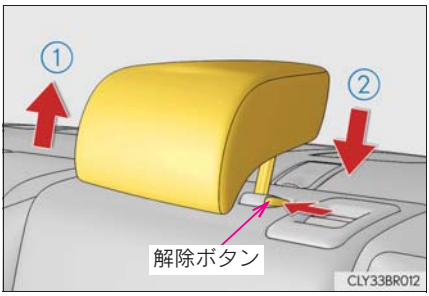


リヤ席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

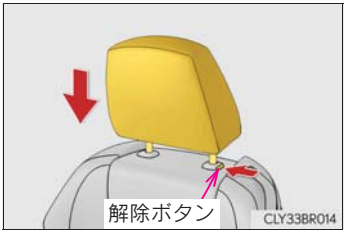
解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。(→P. 146, 149)

■ヘッドレストを取り付けるとき

▶フロントシート

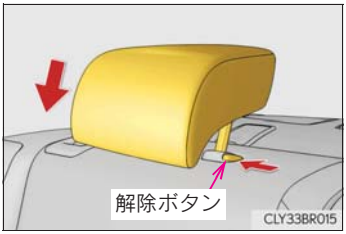
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



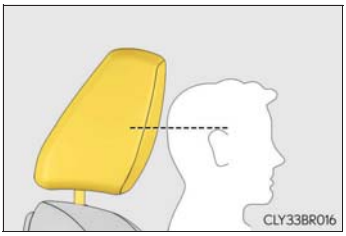
▶リヤシート

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、解除ボタンを押しながら最下部のロック位置まで押し下げてください。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■**ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

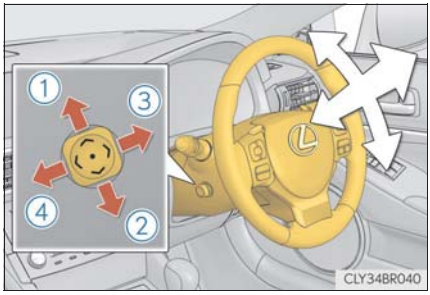
●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

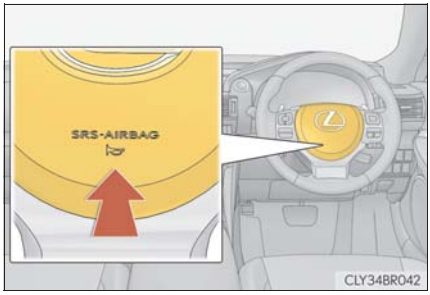
スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

① 上方へ
② 下方へ
③ 手前へ
④ 前方へ



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 151）

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→ P. 151）

警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

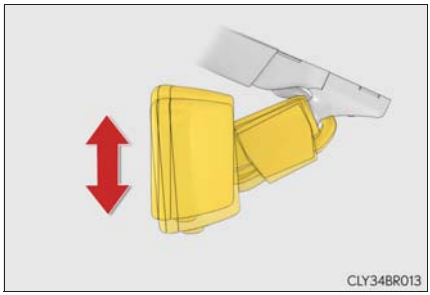
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

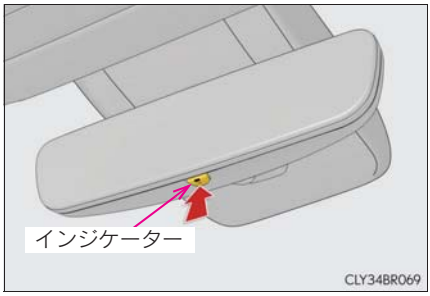


自動防眩機能

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON ／ OFF

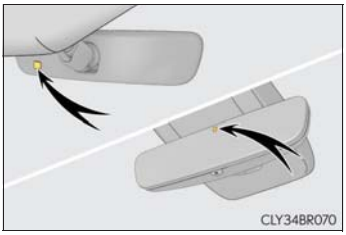
ON のときはインジケーターが点灯します。
パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

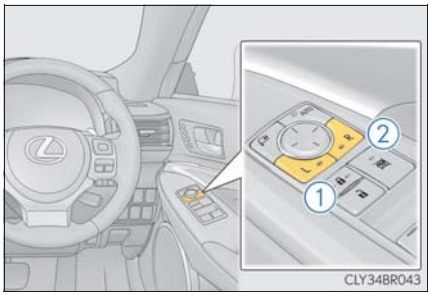
調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右

もう一度押すと、選択が解除されます。



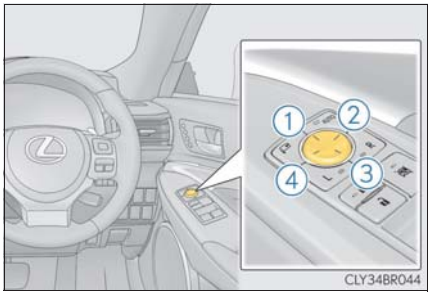
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

④ 左

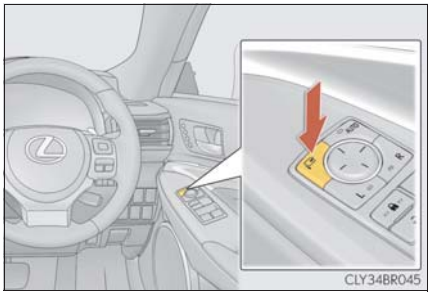


ドアミラーを格納する

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



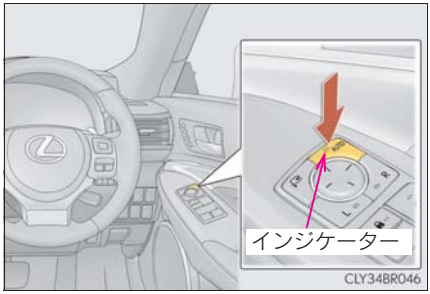
■ オート作動での格納・復帰のしかた

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーターが点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



リバース連動機能について

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■ 鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFF の状態にもどります。機能を ON にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→ P. 309)

■ ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 151)

■ 自動防眩機能

インナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→ P. 161)

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

オート格納の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 463)

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

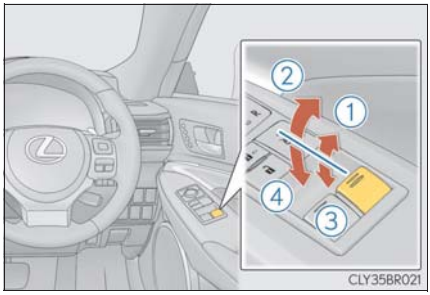
① 閉める

② 自動全閉 ※

③ 開ける

④ 自動全開 ※

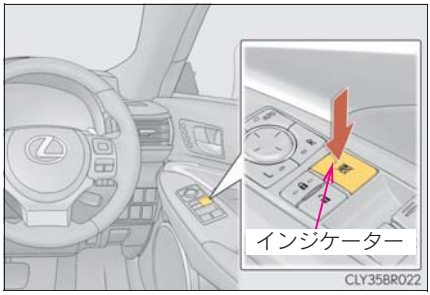
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、インジケーターが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ （→ P. 441）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ （→ P. 128）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 463）

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→ P. 78）

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 463）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 166)

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■ **挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ **巻き込み防止機能**

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

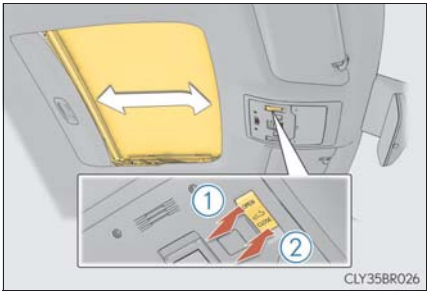
ムーンルーフを開閉する

① ムーンルーフを開く ※

チルトアップしてから開きます。

② ムーンルーフを閉める ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



チルトアップ／ダウンする

① チルトアップ ※

② チルトダウン ※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 441）

●ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→ P. 128）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 463）

■オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→ P. 78）

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける ※

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。その後再び閉じ、全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフが正常に働かないときは

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能が正常に働かないときは、次の手順で初期化を行ってください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 ムーンルーフを操作する

症状に応じて次のいずれかを行ってください。

▶スイッチの “OPEN” 側を押してもムーンルーフが開かない場合

3 スイッチの “DOWN” または “CLOSE” 側を押し続ける

開閉作動をくり返したあと、全閉位置で停止します。

4 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

▶スイッチの “OPEN” 側を押しているあいだはムーンルーフが開くが、自動で全開しない場合

3 スイッチの “OPEN” 側を押し続けて全開にする

4 スイッチの “CLOSE” 側を押し続けて全閉にする

5 スイッチの “UP” 側を押し続けてチルトアップ停止位置までチルトアップする

6 スイッチの “DOWN” 側を押し続けて全閉位置までチルトダウンする

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても開閉操作や自動全開機能が正常に働かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 463）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

●走行中はルーフから手や顔を出さない

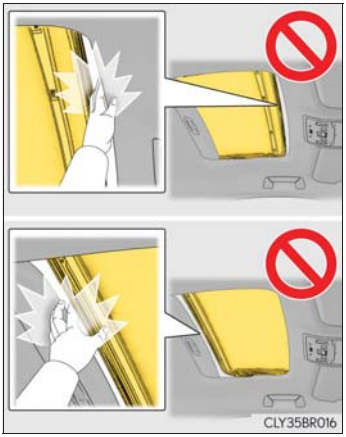
●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



●車両から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

注意

■ムーンルーフの損傷を防ぐために

●開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。

●ムーンルーフの表面・端面には、固いものをぶつけないでください。

■洗車後や雨が降ったあとなどは

ムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 176

荷物を積むときの注意..... 185

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 187

EV ドライブモード..... 193

トランスミッション..... 195

方向指示レバー..... 202

パーキングブレーキ..... 203

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 204

オートマチックハイビーム.....207

フォグランプスイッチ.....211

ワイパー & ウォッシャー 213

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 219

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System+ 223

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....228

LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）.....238

レーダークルーズコントロール 246

BSM（ブラインドスポットモニター）.....258

・BSM 機能.....262

・RCTA 機能 266

クリアランスソナー.....271

ドライブモードセレクトスイッチ 280

運転を補助する装置.....283

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 291

寒冷時の運転 293

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 187

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 195）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 203）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→ P. 195）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 203）、シフトレバーを P にする（→ P. 195）

3 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 283）

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→ P. 291）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 411）

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は M ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 401）
・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 285）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■高摩擦ブレーキパッド装着車について（F SPORT）

車速、制動力や車両を取り巻く環境（気温、湿度など）によってはブレーキノイズが発生することがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 384 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 195）

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーを N にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは二つ以上の独立したシステムで構成されており、一つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 424 を参照してください。

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はトランクに積んでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで拡大したトランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。
・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・パッケージトレイ
・インストルメントパネル
・ダッシュボード
・ナビゲーション画面の前

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて(→P. 203)、シフトレバーをPの位置にする

3 パワースイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認する

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

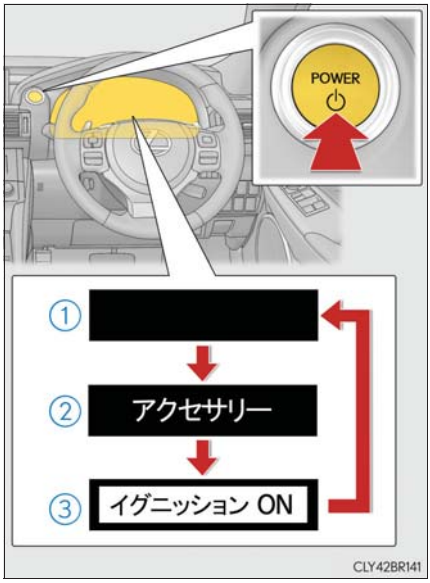
② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
メーターに「アクセサリー」が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。
メーターに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーを P の位置にする
3. マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、パワースイッチを 1 回押す
4. マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモード、または ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 69

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 125

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 142

■ご留意いただきたいこと

→ P. 143

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとハイブリッドシステムを始動することができないことがあります。

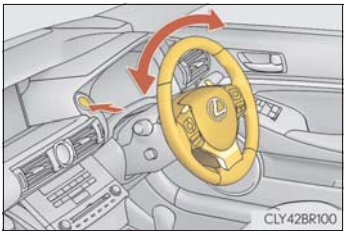
●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります（→ P. 76）。
レクサス販売店へご連絡ください。

■ステアリングロックについて

パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 400

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 364

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 440

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→ P. 384）
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、メーターの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●シフトレバーがP 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

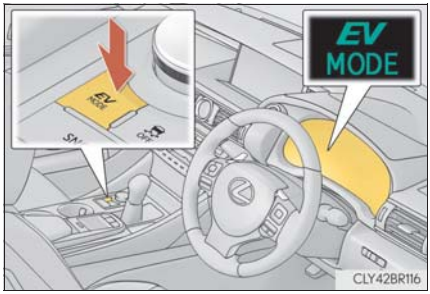
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。（→ P. 67）

EV ドライブモードの ON ／ OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 112）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 112）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 2km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

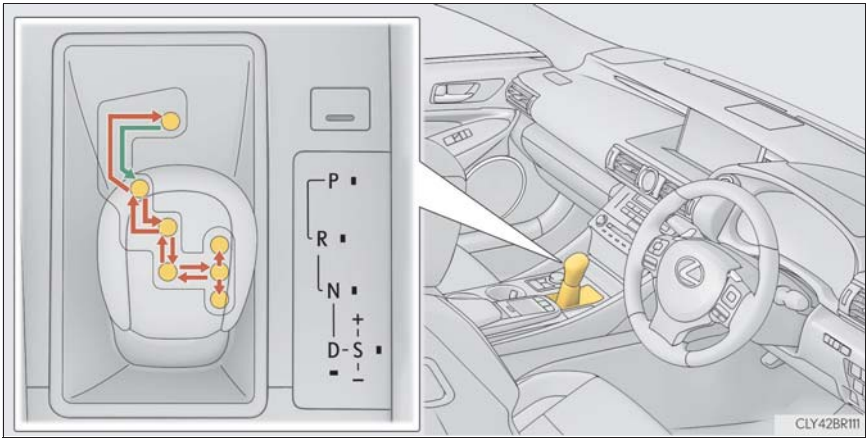
警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



パワースイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	S モード走行 ※2（→ P. 198）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードはシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

走行モードの選択

■ スポーツモード・エコドライブモード

→ P. 280

■ スノーモード

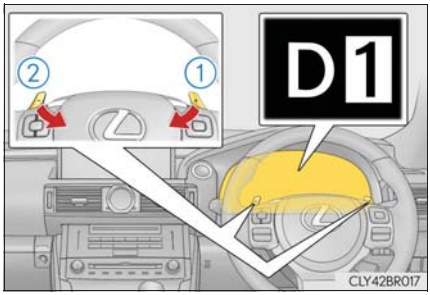
雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに選択してください。

スノーモードスイッチを押す

通常走行モードにもどすときはスイッチをもう一度押します。

D ポジションでのシフトレンジ選択

パドルシフトスイッチの “ − ” 側を操作すると、一時的にシフトレンジを選択する走行へ切りかわります。シフトレンジを選択することで、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。パドルシフトスイッチの “ − ” 側または “ ＋ ” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。



① シフトアップ

② シフトダウン

D1 から D6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

パドルシフトスイッチを操作したときの初期レンジは、車速に応じて D2・D3・D4 もしくは D5 に設定されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “ ＋ ” 側を一定時間以上保持します。

■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

S モードでのシフトレンジ選択

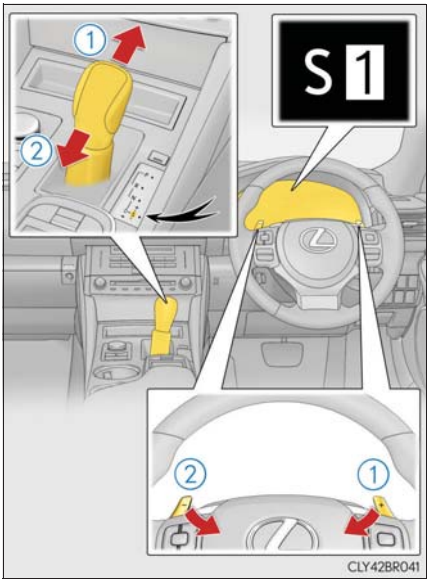
シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのシフトレンジを選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの“－”側または“＋”側の操作でシフトレンジを選択することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

S1 から S6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、車速に応じて S2・S3・S4 もしくは S5 に設定されます。



■ シフトレンジ機能

- 加速力・エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。
- 1 から 4 のシフトレンジでの加速時は、車速に応じて、シフトレンジが自動的に切りかわります。

知識

■D ポジションでパドルシフトスイッチの “ − ” 側を操作したとき

走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

■D ポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

●停車したとき

●アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●シフトレバーを D 以外にしたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、ハイブリッドシステムを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●D・S モードで走行中に 5 または 4 レンジにシフトダウンしたとき（→ P. 246）

●D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→ P. 280）

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

パワースイッチが ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。(D は M ポジションを含む)
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P. 401)

●後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

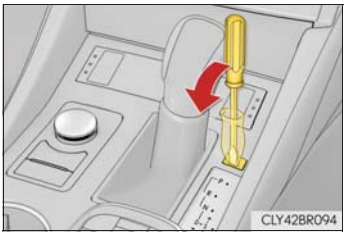
1 パーキングブレーキをかける

2 パワースイッチを OFF にする

3 ブレーキペダルを踏む

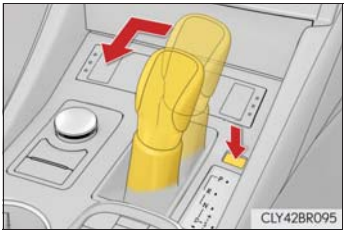
4 マイナスドライバーなどを使って
カバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■**すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■**シフトロック解除時の事故を防ぐために**

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**駆動用電池の充電について**

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

① 左折

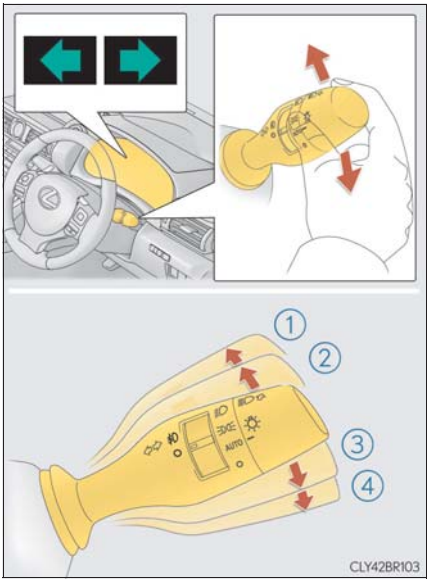
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の②または③の位置に操作してください。レバーを①または④の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

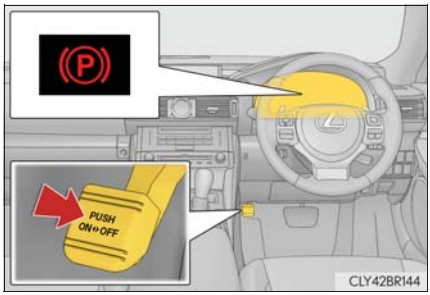
■カスタマイズ機能

方向指示灯の停止方法の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 463）

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■駐車するとき

→ P. 176

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→ P. 401

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 294

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

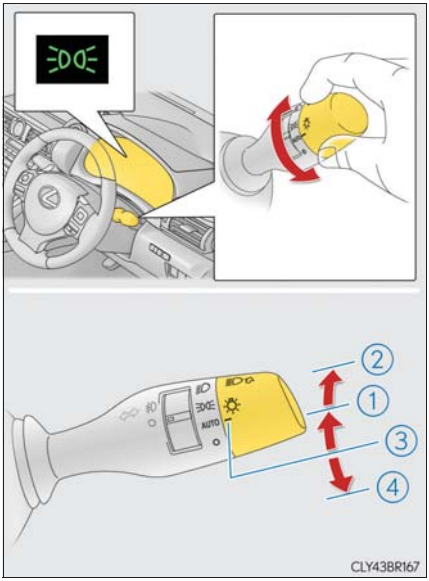
操作のしかた

① 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

② 上記ランプとヘッドランプを点灯

③ AUTO ヘッドランプ・LED デイライト（→ P. 205）・車幅灯などを自動点灯・消灯（パワースイッチがONモードのとき）

④ ○ 消灯



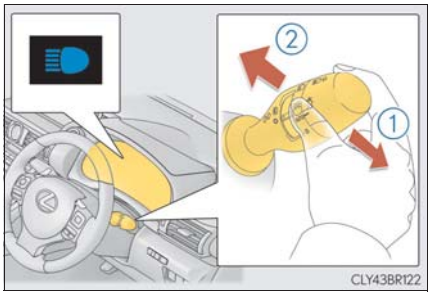
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



知識

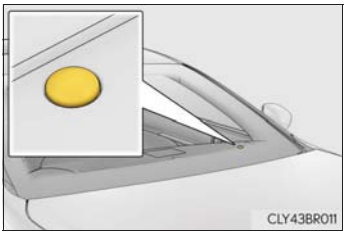
■LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見えやすくするために、ハイブリッドシステムを始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたはOFFにして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 または の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 463）

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

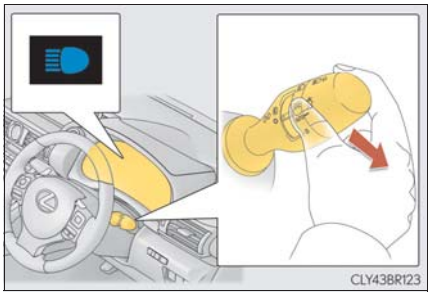
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

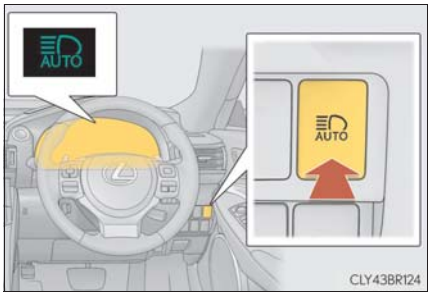
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを⇒または AUTO にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



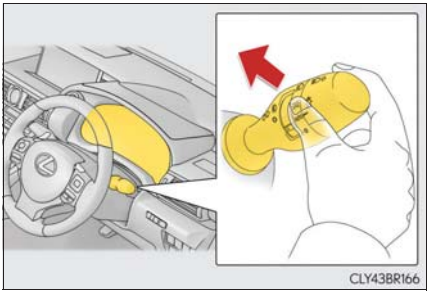
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

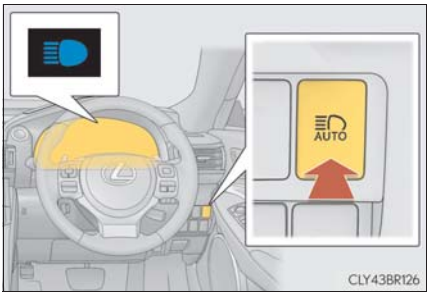


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

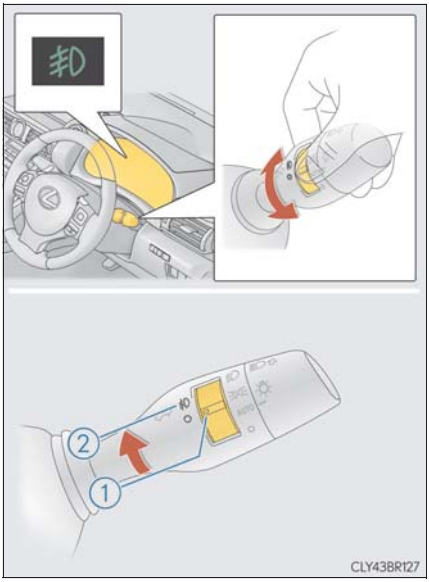
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプ装着車

① ○ 消灯する

② 点灯する



▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車

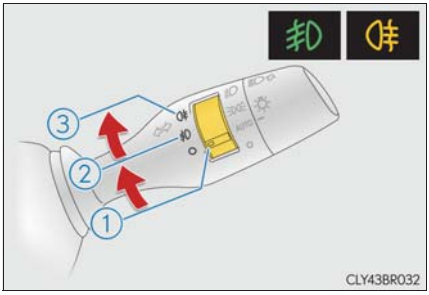
① ○ 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ★：
リヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプについて★

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

① ○ レバーを 2 段階上げる

② △ レバーを 1 段階上げる

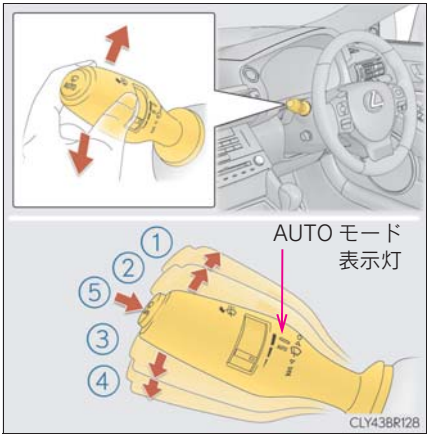
③ ▽ レバーを 1 段階下げる

④ ▽▽ レバーを 2 段階下げる

⑤ AUTO AUTOモードON/OFFスイッチ

雨滴量や車速に応じてワイパーが作動するAUTOモードのON/OFFを切りかえます。

AUTO モードのときは、AUTO モード表示灯が点灯します。



操作前の状態 ＼ 操作		○	△	▽	▽▽
停止		一時作動	一時作動	低速作動	高速作動
低速作動		停止	停止	高速作動	高速作動
高速作動		停止	低速作動	変化なし	変化なし
AUTO モード	間欠作動	停止	一時作動 ※1	低速作動 ※2	高速作動 ※2
	連続作動		変化なし		

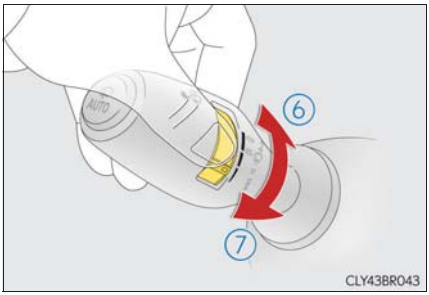
※1：一時作動後、AUTO モードにもどります。

※2：AUTO モードは解除されます。

AUTO モードのときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

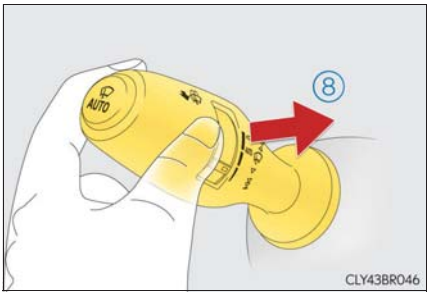
⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
パワースイッチが ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

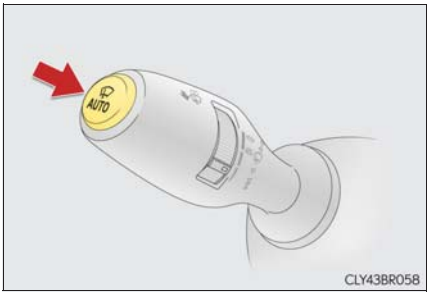


間欠時間調整式ワイパーへの切りかえ

雨滴量や車速に関係なく間欠作動する間欠時間調整式ワイパーとして使用することができます。停車中で、ワイパーが停止状態のときに切りかえることができます。AUTO モードのとき、または間欠作動中は切りかえることができません。

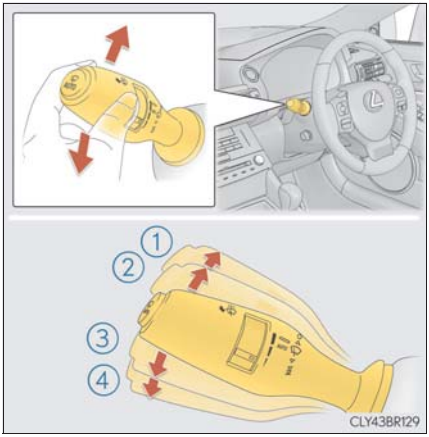
AUTO ボタンを AUTO モード表示灯の点滅が終わるまで押し続ける

もう一度 AUTO モード表示灯の点滅が終わるまで押し続けるともとにもどります。



■ 間欠時間調整式ワイパーの作動

① ○ レバーを 2 段階上げる
② △ レバーを 1 段階上げる
③ ▽ レバーを 1 段階下げる
④ ⧗ レバーを 2 段階下げる

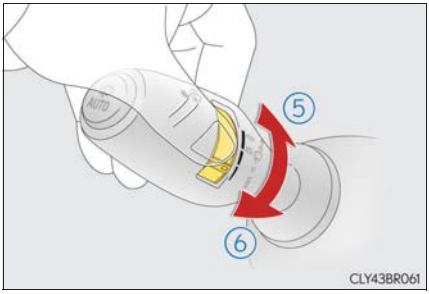


操作前の状態＼操作	○	△	▽	⧗
停止	一時作動	一時作動	間欠作動	高速作動
間欠作動	停止	停止	低速作動	高速作動
低速作動	停止	間欠作動	高速作動	高速作動
高速作動	停止	低速作動	変化なし	変化なし

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

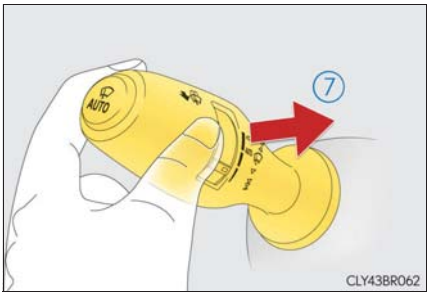
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
パワースイッチが ON モードの状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。



知識

■ **作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ **液だれ防止作動**

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。
ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■ **車速による作動への影響**

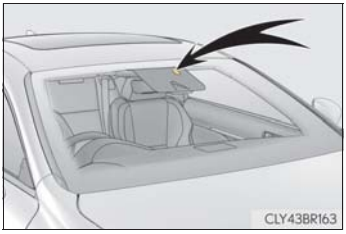
● 停車中は間欠時間調整式ワイパーの間欠時間がかわります。

● 低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●パワースイッチが ON モードのときに AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が85℃以上または－30℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ワイパーが一時作動しているとき

AUTO を押しても AUTO モードに切りかわりません。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■**AUTO モード時のワイパー作動について**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■**ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3% 以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3% 以下）も使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

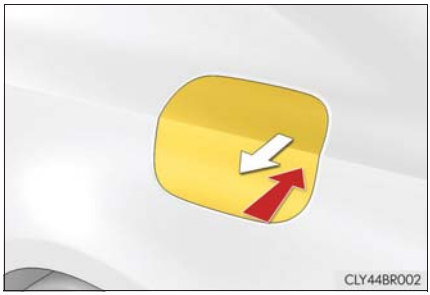
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

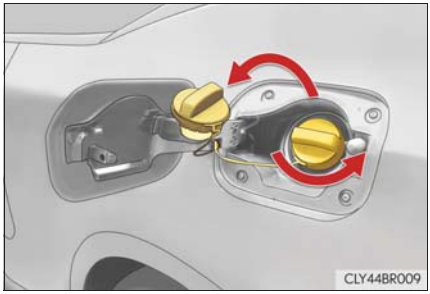
給油口の開け方

1 ドアが解錠された状態で、給油扉の車両後端の中央部分を押す

“カチッ” と音がするまで押し、手を離すと給油扉が少し開きます。その後、手で全開にします。



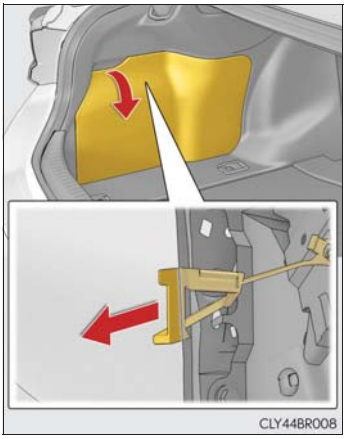
2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



知識

■給油扉が開かないとき

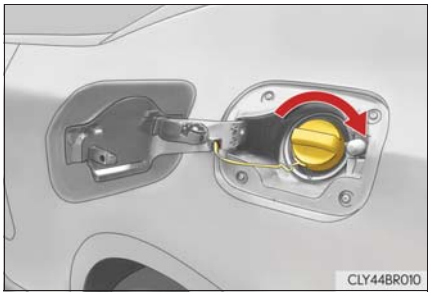
ドアが解錠されている状態で給油扉の車両後端の中央部分を押しても給油扉が開かないときは、トランク内の補機バッテリーカバーをはずし、タイヤパンク応急修理キットを取り出して（→ P. 427）図のレバーを引くことで、給油扉を開けることができます。



給油口の閉め方

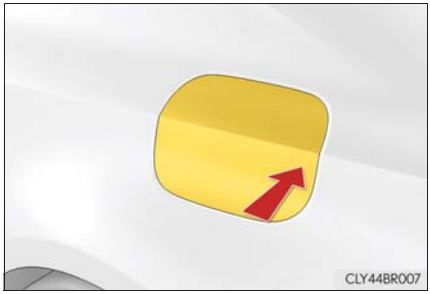
1 キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



2 給油扉を閉め、給油扉の車両後端の中央部分を“カチッ”と音がするまで押す

ドアを施錠すると給油扉も施錠されます。



知識

■給油扉を閉めるとき

給油扉を閉める前にドアを施錠すると、給油扉を閉めることができません。ドアを解錠してから給油扉を閉めてください。

■給油扉の施錠について

次の場合、ドアが施錠されても給油扉は施錠されません。

- 室内のドアロックスイッチで施錠したとき
- シフト操作連動ドアロックまたは車速感応オートドアロックで施錠されたとき (→ P. 131)

警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System+

Lexus Safety System+ は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 228

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）

→ P. 238

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 207

◆ レーダークルーズコントロール

→ P. 246

警告

■ Lexus Safety System+ について

Lexus Safety System+ は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
・先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
・カメラセンサーの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・レクサスが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

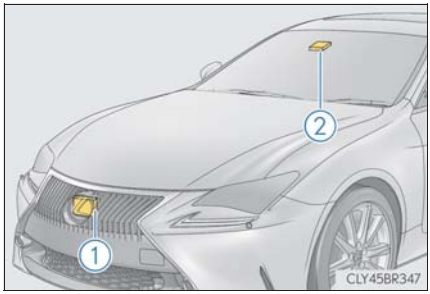
また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

① レーダーセンサー

② カメラセンサー



警告

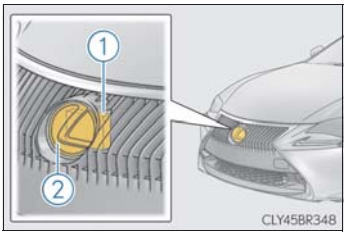
■レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく

① レーダーセンサー

② フロントグリルエンブレム



レーダーセンサー前面やフロントグリルエンブレム前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●レーダーセンサーを分解しない

●レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしない

●レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■**カメラセンサーの故障や誤作動を防ぐために**

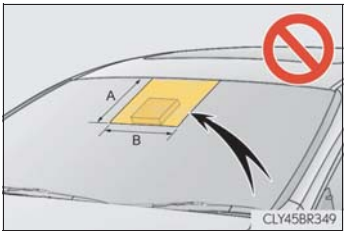
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、カメラセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、カメラセンサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラス外側のカメラセンサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端からカメラセンサー下端より下約 1cm まで

B：約 20cm（カメラセンサー中心から左右約 10cm）



●カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く（→P. 309）

●カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーに強い光を照射しない
- カメラセンサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに強い衝撃を加えない
- カメラセンサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーなどのカメラセンサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、カメラセンサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、カメラセンサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーセンサーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

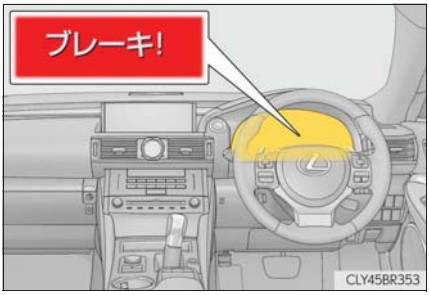
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。(→ P. 231)

◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

◆ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS(→ P. 284) によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→ P. 233
・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 235

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

警告

■**プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

■ プリクラッシュセーフティシステムの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの（→ P. 105）から、プリクラッシュセーフティシステムの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるたびシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの（→ P. 105）から、プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更することができます。

パワースイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。

① 遠い

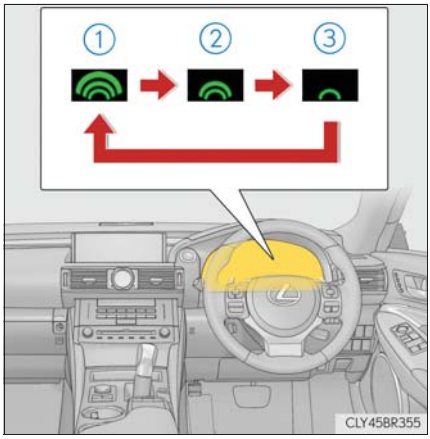
「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報
・自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト
・自車速度約 30 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ～ 80km/h）
・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ
・自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

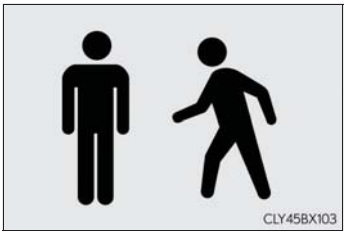
●シフトレバーが R のとき

●VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
（→ P. 236）



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

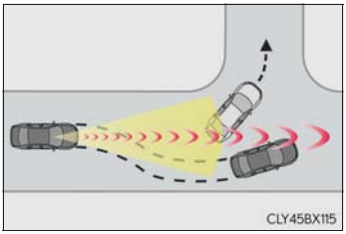
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

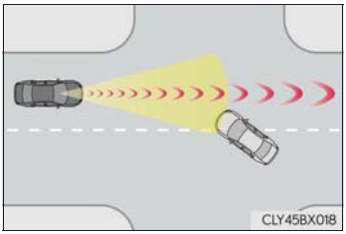
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

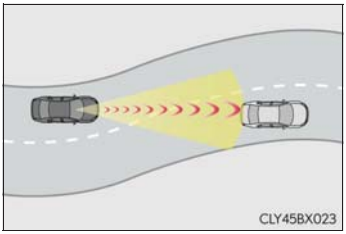
・車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
・車線を変更して先行車を追いこすとき
・車線変更している先行車を追い抜くとき
・右左折する先行車を追いこすとき



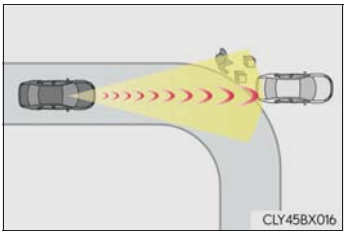
・右左折待ちの対向車とすれ違うとき



・隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

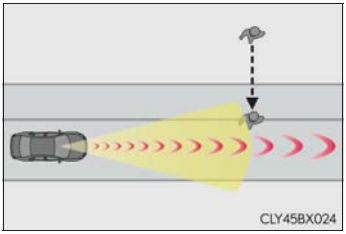


・前方車両に急接近したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

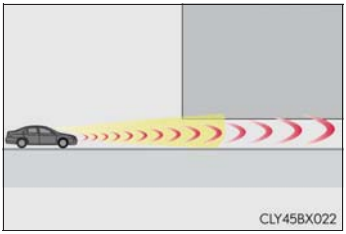


・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
・路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき

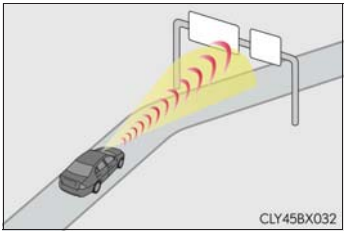
・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき



・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき

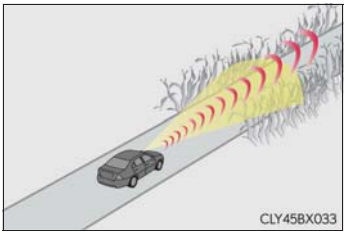


・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
・洗車機を使用するとき

・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

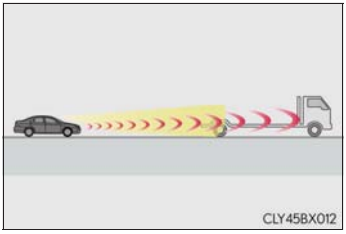


・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・路面または壁面に車両や歩行者との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

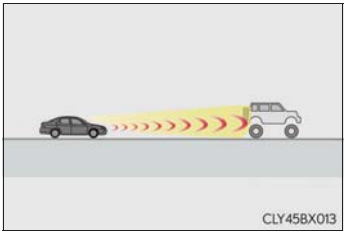
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

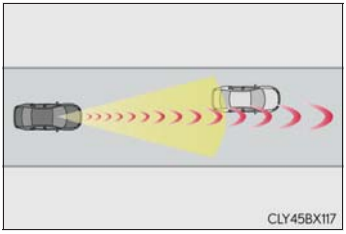
・前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
・前方車両がオートバイ・自転車のとき
・車両の側面または前面に近付いたとき
・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

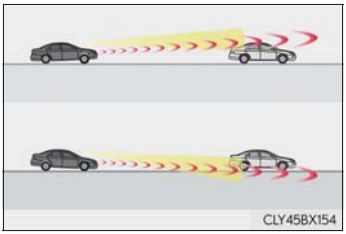


・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
・前方車両と自車の中心がずれているとき



・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき

・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
・ふらつき運転をしているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

●例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・身長が約 1m 以下、または約 2m 以上の歩行者
・合羽・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
・ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
・集団でいる歩行者
・白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
・夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
・服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
・壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
・路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
・歩く速度が速い歩行者
・歩く速度を急激に変化させている歩行者
・物陰から飛び出してきた歩行者
・車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■PCS 警告灯が点滅または点灯、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

●次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
・ 炎天下などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が高いとき
・ 極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
・ 前方センサーの周辺に雪や汚れなどが付着しているとき
・ カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 309）
・ ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスのカメラセンサー付近にシールが貼り付けられているときなど、カメラセンサーの前方がさえぎられているとき

●状況が改善されても PCS 警告灯が点滅または点灯、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→ P. 286）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

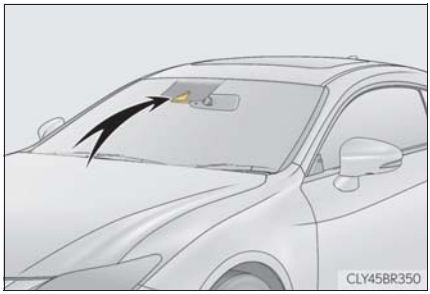
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA（レーンディパーチャーアラート※[ステアリング制御機能付き]）

機能概要

白（黄）線が整備された、高速道路または自動車専用道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告するとともに、逸脱を回避するためのハンドル操作の一部を支援します。

LDA は、フロントウインドウガラス上部のカメラセンサーで、白（黄）線を認識します。

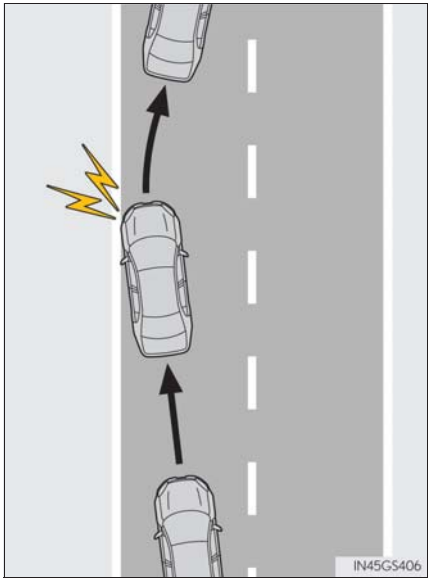


LDA に含まれる機能

◆ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴った、またはハンドルに振動があったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。

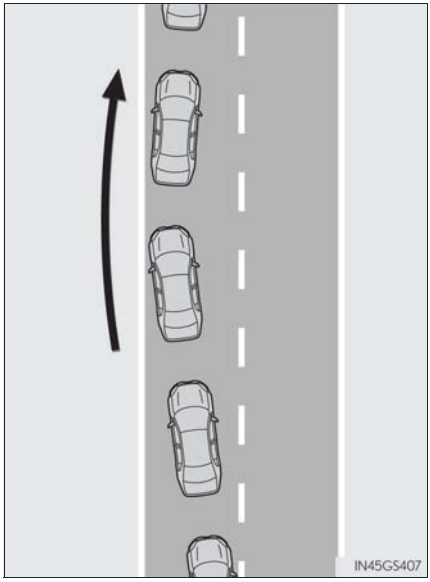


※：車線逸脱警報

◆ ステアリング制御機能

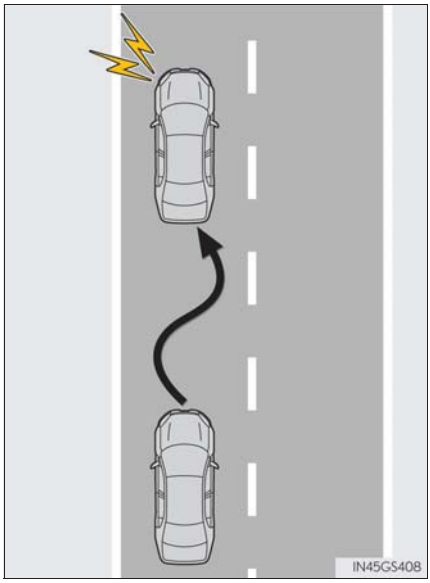
車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるのに必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定のあいだハンドルを操作しなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。



◆ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



警告

■**LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**誤作動を防ぐために**

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**LDA を使用してはいけない状況**

次の状況では、LDA を使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 車両けん引時

警告

■LDA の故障、または誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

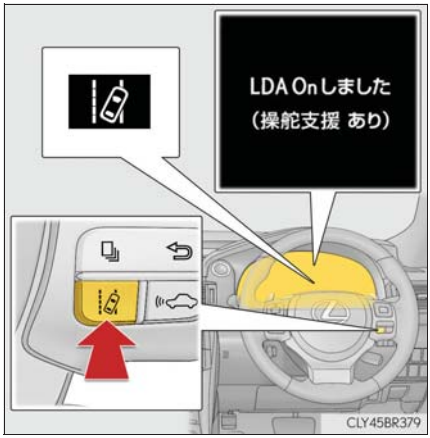
設定のしかた

LDA を ON にするには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON ／ OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示

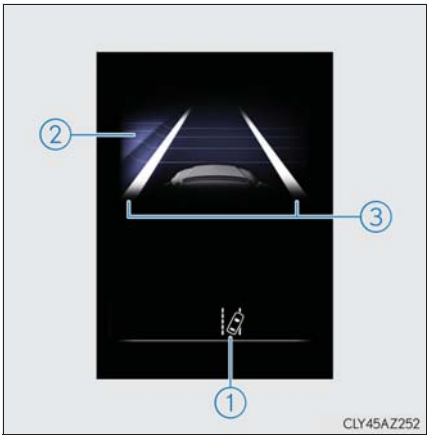
① LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中



② ハンドル操舵支援の作動表示

ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ LDA を ON にしているとき
・ 車速が約 50km/h 以上のとき
・ システムが白（黄）線を認識しているとき
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 391）

●ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ マルチインフォメーションディスプレイの で「操舵支援」を「有」に設定しているとき（→ P. 105）
・ 一定以上の加減速がないとき
・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・ TRC または VSC を停止していないとき
・ 手放し運転警告（→ P. 244）が表示されていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ マルチインフォメーションディスプレイの で「ふらつき検知」を「有」に設定しているとき（→ P. 105）
・ 車速が約 50km/h 以上のとき
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 391）

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 243）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

ステアリング制御機能作動中に、作動条件（→ P. 243）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音が鳴り、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■ステアリング制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、ステアリング制御機能の作動を感じなかったり、ステアリング制御機能が作動しなかったりすることがあります。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

■手放し運転警告について

ステアリング制御機能の作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。
さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様です。
ただし路面状況などにより、作動が中断しない場合があります。

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
●照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
●分岐・合流路などを走行しているとき
●坂道を走行しているとき
●左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
●舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
●急カーブを走行しているとき
●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
●先行車との車間距離が極端に短くなったとき
●走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
●横風を受けているとき
●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
●冬用タイヤなどを装着しているとき

■警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→ P. 396）

■カスタマイズ機能

→ P. 463

レーダークルーズコントロール

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 249）
- 定速制御モード（→ P. 254）

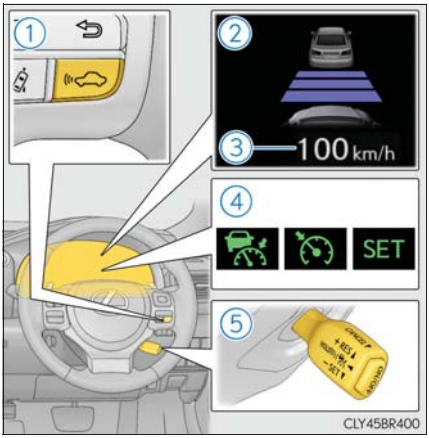
① 車間距離切りかえスイッチ

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 設定速度

④ 表示灯

⑤ クルーズコントロールスイッチ



警告

■ **安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。
設定速度の確認は運転者が行う必要があります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

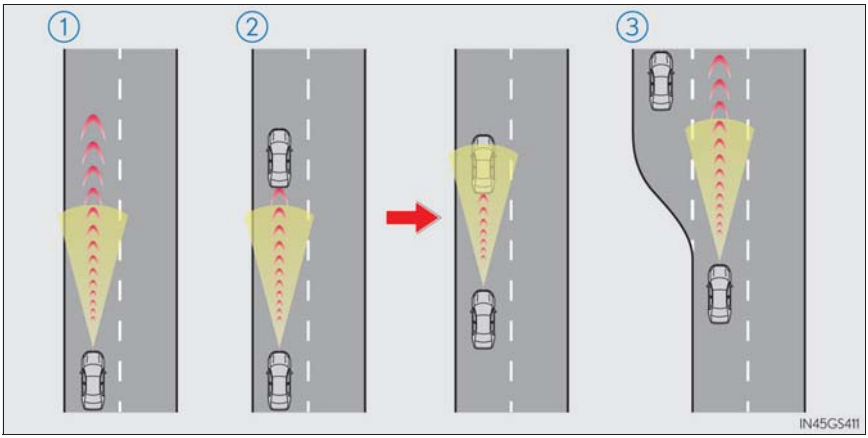
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- 頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行ー追従走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

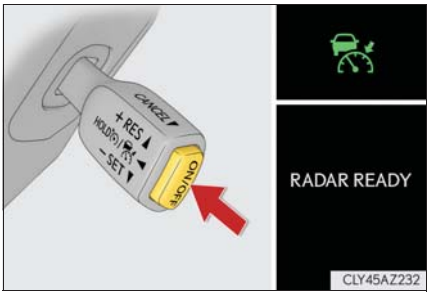
先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化にあわせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

③ 加速走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

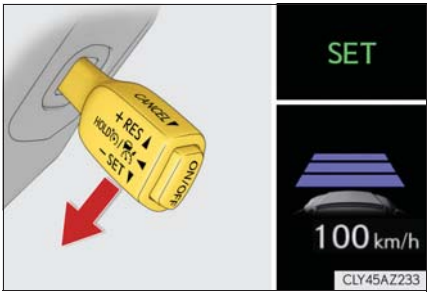


レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→ P. 254）

2 希望の車速（約 50km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する



クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる

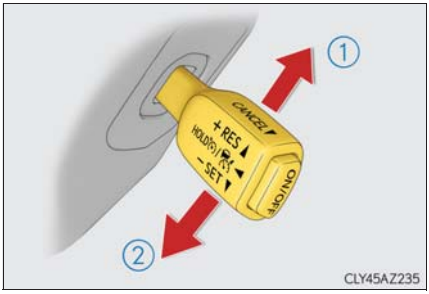
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 254）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1.6km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

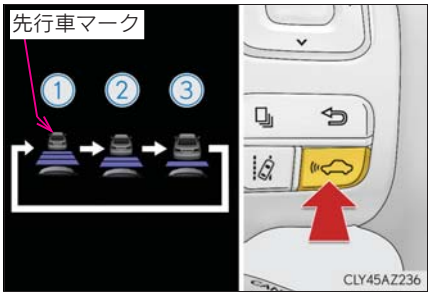
スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

② 中間

③ 短い

パワースイッチを ON モードにするたびに車間距離は①にもどります。



先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

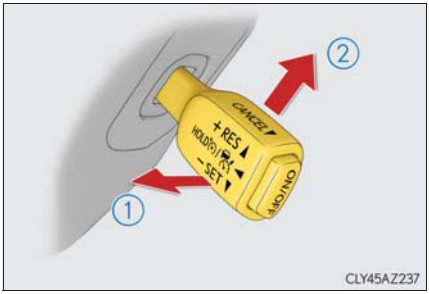
制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

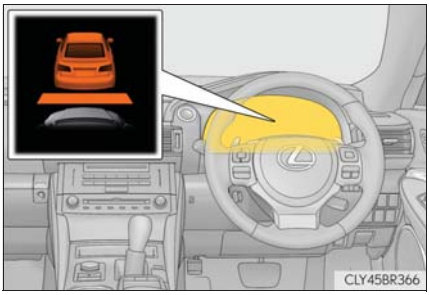
② 制御を復帰させるには、レバーを上げる

ただし、車速が約 40km/h 以下のときは復帰しません。



接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

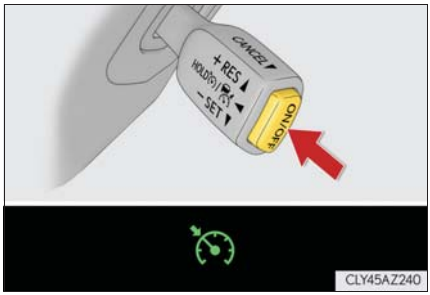
車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける



ON/OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切り替えが可能です。

2 希望の車速（約 50km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる
→ P. 251

制御を解除する・復帰させる
→ P. 252

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。

●パドルシフトスイッチで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。

●車速が約 50km/h 以上のとき設定できます。

■速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●車速が約 40km/h 以下になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●走行モードをスノーモードにセットしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 40km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

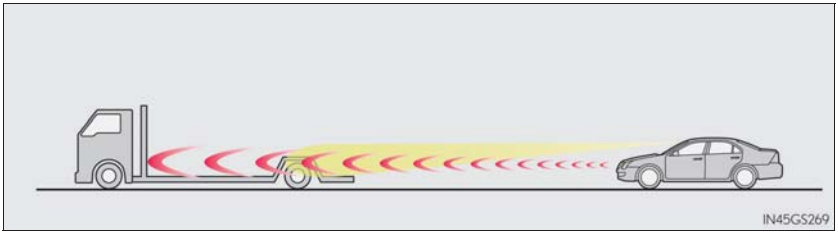
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 253）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

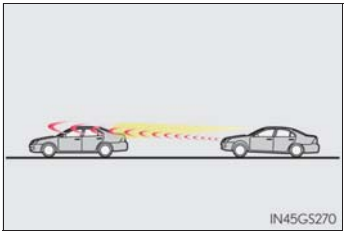
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



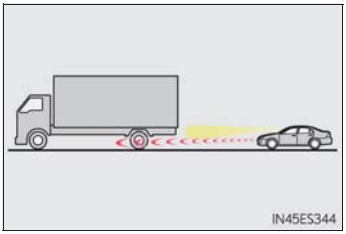
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



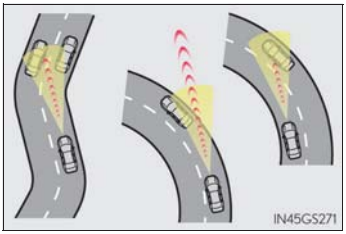
●先行車の車高が極端に高いとき



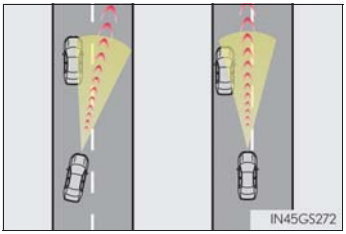
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

BSM（ブラインドスポットモニター）★

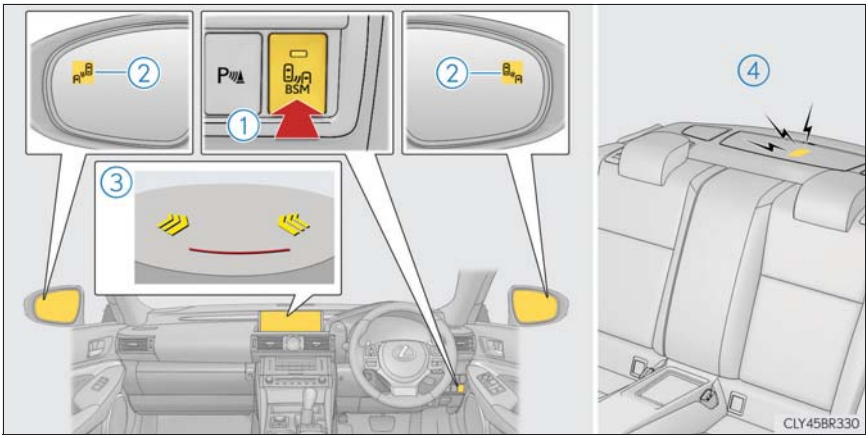
ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターには 2 つの機能があります。

- BSM（ブラインドスポットモニター）機能
  運転者による車線変更時の判断を支援します。
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能
  後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① BSM メインスイッチ

BSM 機能および RCTA 機能の共用スイッチです。
押すごとに ON ／ OFF が切りかわります。ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

② ドアミラーインジケーター

BSM 機能：
ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

③ センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン（→ P. 266）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

④ RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

BSM メインスイッチを ON にした直後の約 1 秒間はブザーが鳴ります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■システムに異常があるときは

次のような原因で異常が検知されたときは、警告表示でお知らせします。
（→ P. 405, 407）

●センサーが故障しているとき

●センサーが汚れているとき（着雪、ステッカー貼り付けなどを含む）

●極めて高温または低温の環境での使用

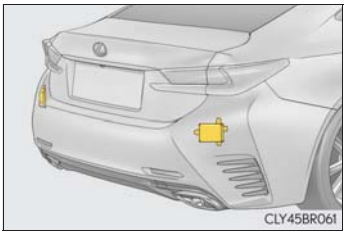
●センサーの電圧異常

●センサーの位置や向きがずれているとき

警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→ P. 405, 407）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、BSM 機能の作動条件（→ P. 264）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。
・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

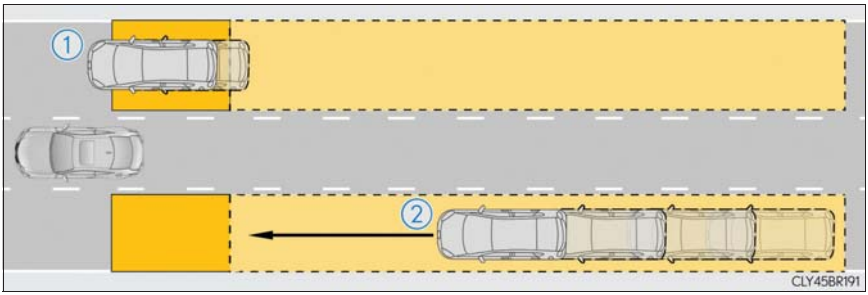
●リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

本製品は各国の電波法に適合しています。製品に貼られているシールはその証明ですので、剥がさないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 204-350006

BSM 機能

BSM 機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



① ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

② 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

検知できる範囲：

① 車両の両側面について、側面から約0.5 m離れた面から約3.5 mの領域※

※ 車両側面から外側に約 0.5 m は検知しません。

② リヤバンパーから約 1 m 前方の領域

③ リヤバンパーから約 3 m 後方の領域

④ リヤバンパーから後方約 3 m ～ 60 m の領域※

※ 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯、点滅します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

知識

■BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●BSM メインスイッチが ON のとき

●シフトレバーが R 以外の位置のとき

●車速が約 16 km/h 以上のとき

■BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■BSM 機能が車両を検知しない状況

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型の二輪車、自転車、歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■BSM 機能が有効に作動しないおそれがある状況

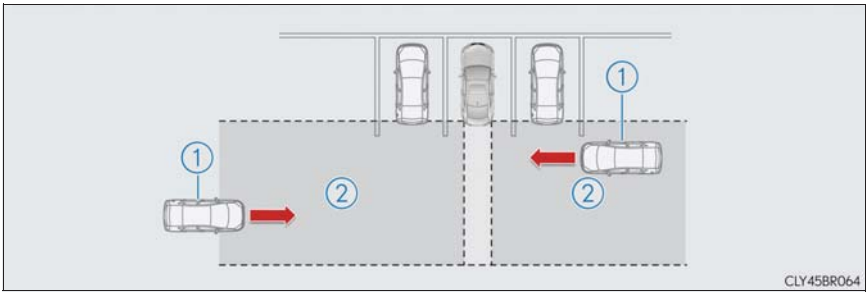
●BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 自車と後続車の車間距離が短いとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- 自車と他車の速度差に変化があるとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- BSM メインスイッチを ON にした直後

●BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- タイヤがスリップ（空転）しているとき
- 自車と後続車の車間距離が短いとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

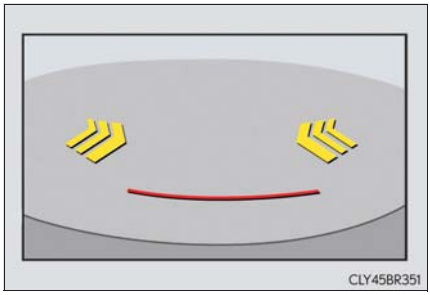


① 接近車両

② 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、車両が接近している側のアイコンがセンターディスプレイ上に表示されます。
イラストは両方向から車両が接近している例です。



: RCTA 機能に異常があるとき（→ P. 260）

警告

■**安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

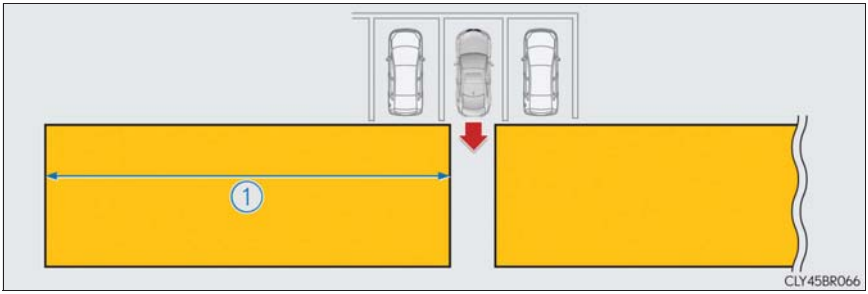
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	1 警報距離（概算）
速い	28 km/h	20 m
遅い	8 km/h	5.5 m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●BSM メインスイッチが ON のとき
- ●シフトレバーが R のとき
- ●自車の車速が約 8 km/h 以下のとき
- ●接近する他車の車速が約 8 km/h ～ 28 km/h の間のとき

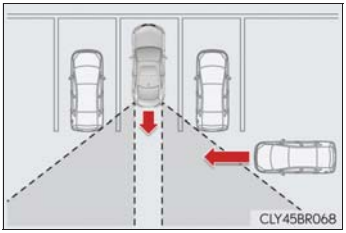
■RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型の二輪車、自転車、歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■RCTA 機能が有効に作動しないおそれがある状況

●RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

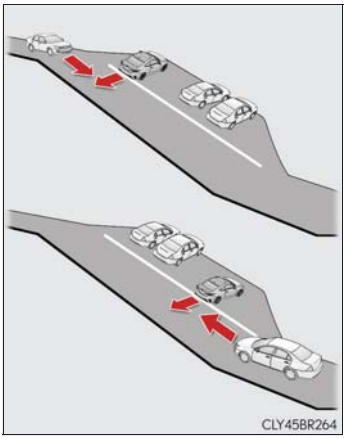
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき

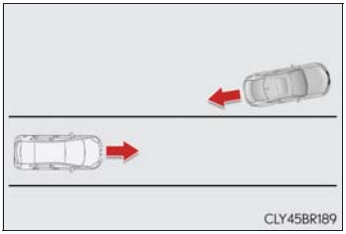
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

・高速で接近する車両

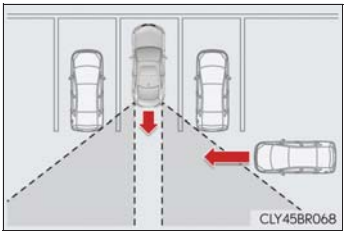
・勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



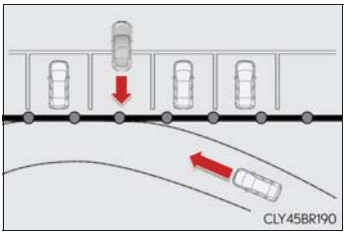
・浅い角度での駐車



・BSM メインスイッチを ON にした直後
・BSM メインスイッチを ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後
・障害物のためにセンサーが検知できない車両



●RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・自車の横を通過する車両
・駐車場に面した道を走行する車両

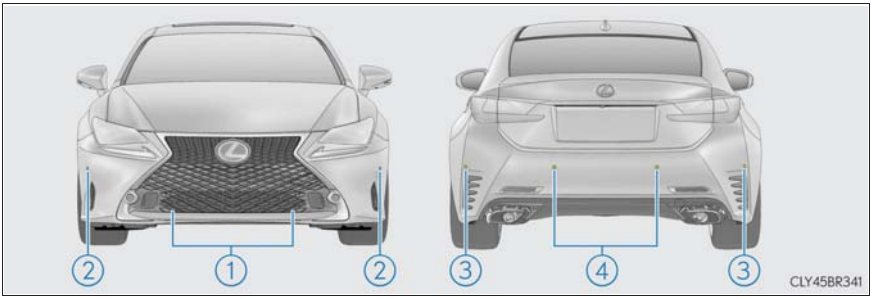


・車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面の距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

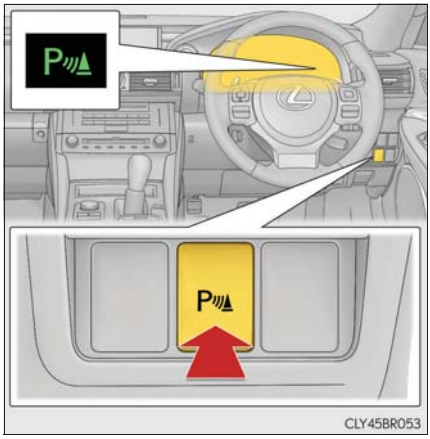


① フロントセンターセンサー
② フロントコーナーセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー

クリアランスソナーの切りかえ

ＯＮ／ＯＦＦ

スイッチを押すとクリアランスソナーは ＯＮ になり、表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの表示のしかた

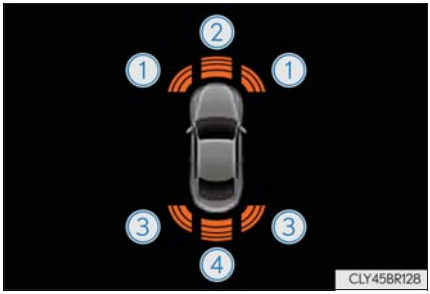
■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

① フロントコーナーセンサー作動表示

② フロントセンターセンサー作動表示

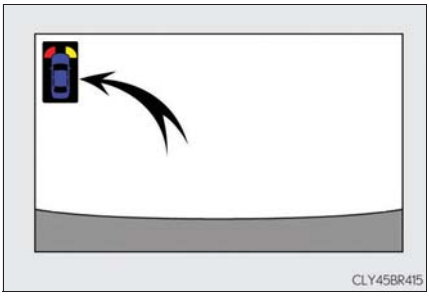
③ リヤコーナーセンサー作動表示

④ バックセンサー作動表示



■ ナビゲーション画面（サイド画面）の表示

バックガイドモニター使用時にに表示されます。
障害物を感知すると自動的に表示されます。



距離表示の見方

マルチインフォメーションディスプレイ ※1	センターディスプレイ	障害物までのおおよその距離		
		—	フロントコーナー＆フロントセンターセンサー	リヤコーナー＆バックセンサー
（点灯）	（点滅：遅い）	遠い ↑	**フロントセンターセンサー：** 約 100cm ～ 50cm	**バックセンサー：** 約 150cm ～ 60cm
（点灯）	（点滅）		約 50cm ～ 40cm	**リヤコーナーセンサー：** 約 50cm ～ 40cm **バックセンサー：** 約 60cm ～ 45cm
（点灯）	（点滅：速い）		約 40cm ～ 30cm	**リヤコーナーセンサー：** 約 45cm ～ 30cm **バックセンサー：** 約 45cm ～ 35cm
（点滅）	（点灯）	↓ 近い	約 30cm 以下	**リヤコーナーセンサー：** 約 30cm 以下 **バックセンサー：** 約 35cm 以下

※1 イラストは説明のための例であり、表示により異なります（→ P. 272）

音声案内とブザー音

障害物を検知すると、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を検知しているとき

● 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
・ フロントセンターセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
・ コーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 30cm 以下
・ バックセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下

● 複数のセンサーが同時に障害物を検知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に検知したとき

● フロント側、またはリヤ側で障害物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を検知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。

● フロント側、またはリヤ側で障害物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を検知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

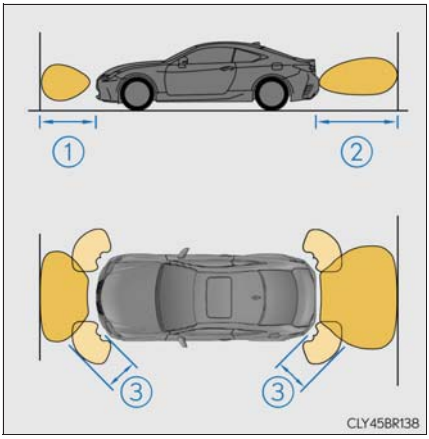
ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。（→ P. 275）

障害物を検知できる範囲

① 約 100cm（約 1.0m）

② 約 150cm（約 1.5m）

③ 約 50cm(約 0.5m)
・ 検知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると検知できません。
・ 障害物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



障害物を検知できる範囲を変更することができます。（→ P. 275）

音声案内とブザーの設定

パワースイッチが ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

1 リモートタッチの MENU スイッチを押し、「設定・編集」を選択する

2 「車両」を選択する

3 「クリアランスソナー設定」を選択する

■ ブザー音量設定

設定したい音量を選択する

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

「切替え」を選択する

- フロントセンターセンサー：
  選択するごとに、検知範囲が「遠」（緑色）と「近」（黄色）に切りかわります。
- バックセンサー：
  選択するごとに、検知範囲が「遠」（緑色）と「近」（黄色）に切りかわります。

フロントセンターセンサー・バックセンサーの割り込み表示が表示される検知範囲と、ブザーが出力される検知範囲を調整することができます。

知識

■クリアランスソナーの作動条件

●フロントコーナーセンサー：
・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき

●フロントセンターセンサー：
・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが P・R 以外にあるとき

●リヤコーナーセンサー：
・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

●バックセンサー：
・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

■ブザー音のミュート（消音）について

●ミュート（消音）させるとき：
マルチインフォメーションディスプレイに感知した画面が表示されているときに、メーター操作スイッチの “OK” を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

●ミュート（消音）が解除されるとき：
次のとき、自動的にミュート（消音）が解除されます。
・シフトポジションを切りかえたとき（D から N、および N から D への切りかえを除く）
・シフトポジションが D で、車速が約 10km/h 以上になったとき
・クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき
・パワースイッチを OFF にし、再度 ON モードにしたとき

■クリアランスソナーの警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。（→ P. 399）

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 275, 463）

警告

■ **クリアランスソナーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車速が約 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー検知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが検知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください

■ **センサーの検知について**

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 障害物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが障害物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 障害物を検知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 35cm 以内に接近するおそれがあります。

警告

■**センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●標識などのものによっては検知距離が短くなります。

●バンパー真下付近は検知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。

●センサーに障害物が近付きすぎたとき

●バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

●けん引フックを取り付けたとき

●字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

警告

■**正確に検知できないことがある障害物**

次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

●人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■**クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

●障害物を検知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき

●センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●バンパーをぶつけたとき

●ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

■**洗車時の注意**

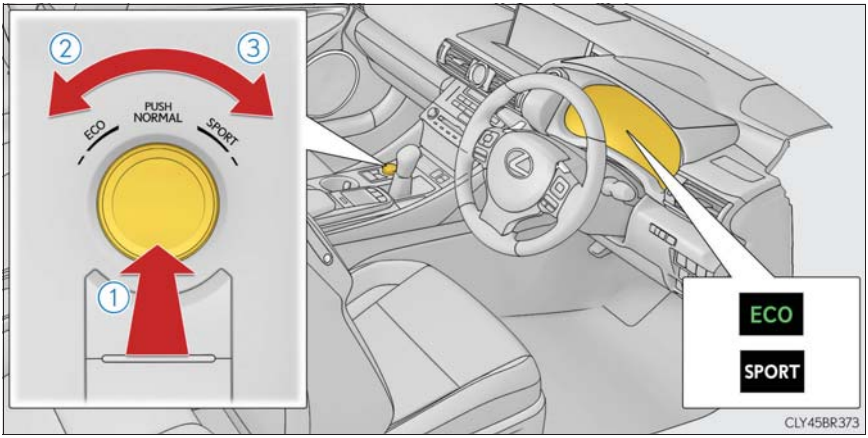
●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



① ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

エコドライブモードまたはスポーツモード時にスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

② エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン (暖房 / 冷房) の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

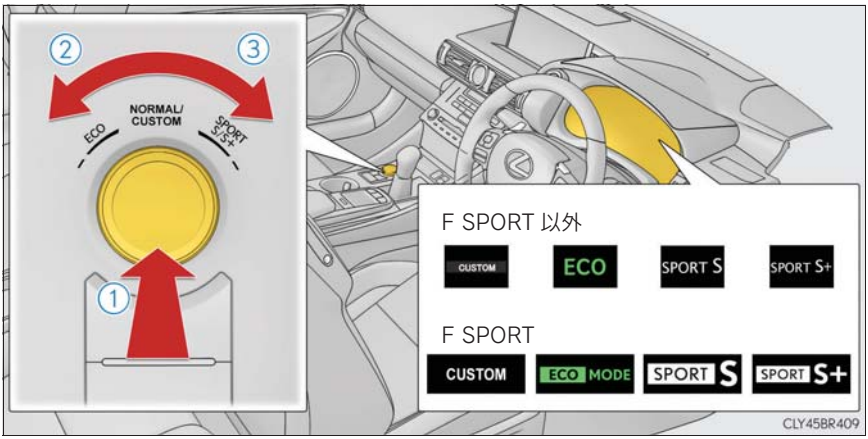
エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

③ スポーツモード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツモードに切りかわり、SPORT 表示灯が点灯し、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります。(→ P. 89)

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



① ノーマルモード／カスタムモード

ノーマルモード / カスタムモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマルモード / カスタムモードが切りかわります。カスタムモードのとき、“CUSTOM” 表示灯が点灯します。

エコドライブモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

・ノーマルモード
燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

・カスタムモード
以下の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、ナビゲーション画面で設定します。
（ドライブモード設定画面を表示させる：→ P. 468）

機能	設定
パワートレーン制御	Normal
	Power
	Eco
シャシー制御	Normal
	Sport
エアコン作動	Normal
	Eco

② エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン (暖房 / 冷房) の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

③ スポーツモード

・スポーツ S モード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、SPORT S 表示灯が点灯し、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります。(→ P. 89)

・スポーツ S ＋モード

ハイブリッドシステムに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを右へまわすとスポーツ S ＋モードに切りかわり、SPORT S ＋表示灯が点灯します。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

■スポーツモード／カスタムモードの自動解除

スポーツモード／カスタムモードは、パワースイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

■サイド画面の割り込み表示

モードを切り替えるごとに、選択したモードがサイド画面に表示されます。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などでの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを防止します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ NAVI・AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を４輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。
また、ドライブモードセレクトスイッチでスポーツＳ＋モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。
(→P. 281)

◆ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

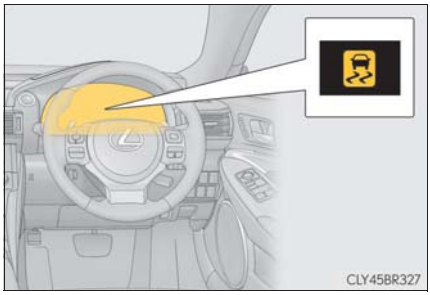
ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・ハイブリッドシステム出力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に を押し 3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。※

もう一度 を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 396）

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」が表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。レクサス販売店にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●車体やハンドルに振動を感じる

●車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“ カチ ”、“ シュー ”、“ ジー ” という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ ジー ” という音）

●ハイブリッドシステム停止後１～２分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“ カチ ”、“ シュー ”、“ ジー ” という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にした場合でも、ハイブリッドシステム停止後に再始動すると、自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能について

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

警告

■**TRC や VSC を OFF にするとき**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤまたはホイールを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 462）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 280）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針（F SPORT 以外）／バー表示（F SPORT）をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 94）

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
・エンジンオイル
・冷却水
・ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）※ を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 346）

※ 19 インチタイヤには、タイヤチェーンを装着できません。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め ※1 をしてください。
  輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと ※2 を確認してください。

※1 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

▶ 17 インチ／ 18 インチタイヤ装着車

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

▶ 19 インチタイヤ装着車

タイヤとボデーの隙間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LDA(レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) を使用しない

注意

■ **タイヤチェーンの使用について**

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ **タイヤを修理・交換するとき**

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
（タイヤについての詳しい説明は P. 346 を参照してください）

■ **タイヤチェーンの装着**

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

■ **フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき**

たたいて割らないでください。
フロントウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

リモートタッチ 298
10.3 インチディスプレイ.....302
オートエアコン 304
ステアリングヒーター／
シートヒーター／
シートベンチレーター.....315

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 319
・インテリアランプ 319
・パーソナルランプ 320

5-3. 収納装備

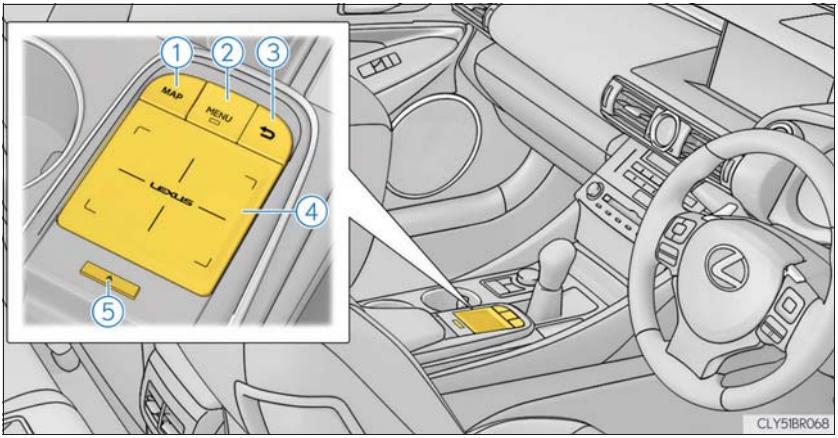
収納装備一覧 322
・グローブボックス 323
・コンソールボックス 323
・カップホルダー 324
トランク内装備 325

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 328
・サンバイザー 328
・バニティミラー 328
・時計.....329
・アクセサリーソケット.....329
・アシストグリップ 331
・コートフック 331

リモートタッチ

リモートタッチを使って、ナビゲーション画面の操作・設定ができます。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



① MAP スイッチ

ナビゲーション画面で現在地を表示します。

② MENU スイッチ

メニュー画面を表示します。（→ P. 301）

③ ⮌（戻る）スイッチ

ひとつ前の画面に戻ります。

④ タッチパッド

画面上のスイッチを選択または決定します。
また、リスト画面のスクロールや地図の拡大 / 縮尺などもできます。

⑤ サブファンクションボタン

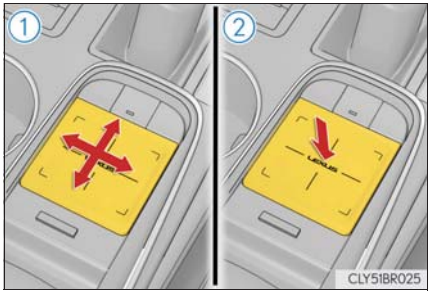
画面に ⌃ が表示されているときに、各画面ごとに割り当てられた機能画面を呼び出します。
※< > は入力不要です。

リモートタッチの操作について

■ タッチパッドの使い方

① 選択する：タッチパッドを操作して、ポインタをスイッチに合わせる。

② 決定する：タッチパッドを押す、またはダブルタップする。

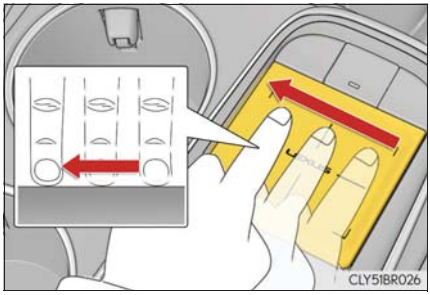


■ タッチ操作

タッチパッドで次の操作が可能です。

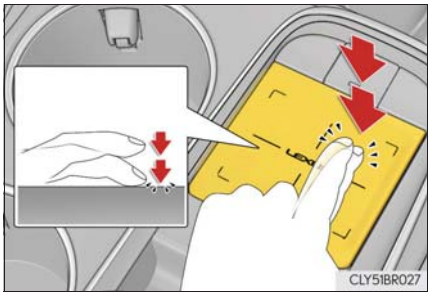
● なぞり操作

タッチパッドにふれた状態でパッド面をなぞります。カーソルやポインタを動かすことができます。



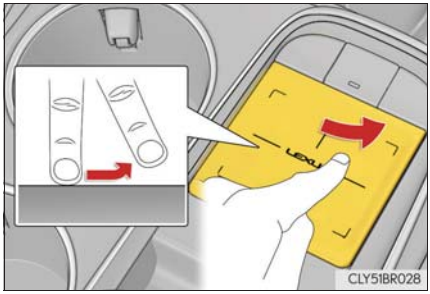
● ダブルタップ

タッチパッドを指先で素早く軽く 2 回叩きます。タッチパッドを押したときと同様に、ポインタで選んだ画面スイッチを決定することができます。



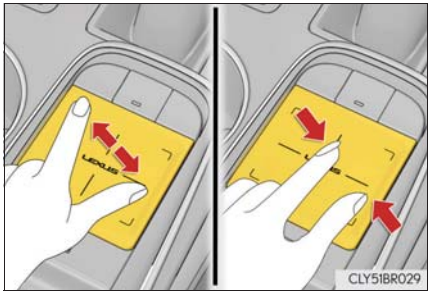
● フリック

タッチパッドにふれた指先を素早く大きく払います。リスト画面を動かすことができます。



● ピンチアウト／ピンチイン

タッチパッドにふれた 2 本の指を広げたり近付けたりします。地図の拡大や縮小を行うことができます。



知識

■ **低温時の画面表示について**

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

注意

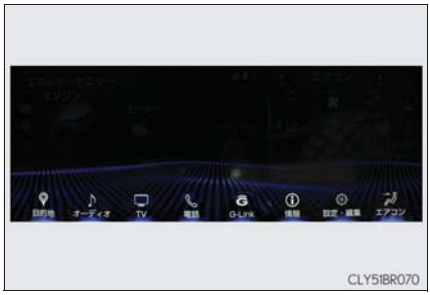
■ **リモートタッチの故障を防ぐために**

- リモートタッチに食べ物や飲み物などをこぼさないでください。変色や漏電の原因になります。
- リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。
- タッチパッドを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

メニュー画面

リモートタッチの MENU スイッチを押すと、メニュー画面が表示されます。

分割画面表示にしているとき、メニュー画面はメイン画面に表示されます。（→ P. 302）



スイッチ	機能
	目的地を設定する。※
	オーディオ操作画面を表示する。※
	デジタルテレビを表示する。※
	電話画面を表示する。※
	G-Link 画面を表示する。※
	情報画面を表示する。※
	設定・編集画面を表示する。※
	エアコン操作画面を表示する。（→ P. 306）

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

10.3 インチディスプレイ

画面表示について

■ 全画面表示

以下の画面は、表示エリアの全てに一画面で表示することができます。

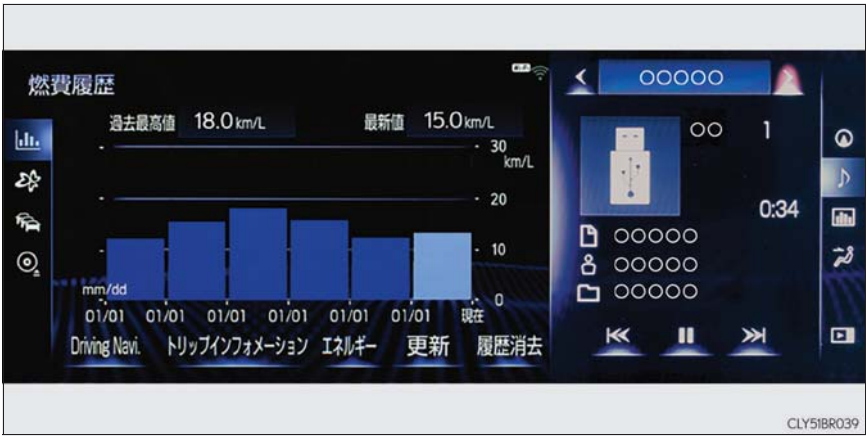
- オープニング画面
- メニュー画面（→ P. 301）
- ナビ※
- オーディオ※
- 燃費、Harmonious Driving Navi.、エネルギーモニター（→ P. 111）
- TV※
- エアコン（→ P. 306）

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。たとえば燃費情報画面を表示したまま、オーディオ画面を並べて表示したり操作することができます。

画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。



分割画面の操作

■ メイン画面

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ サイド画面

▶ 基本画面

次の各画面をサイド画面に表示し操作することができます。
❮または❯を選択して、お好みの画面を表示します。

① ナビ ※

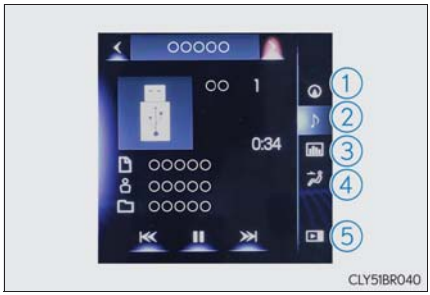
② オーディオ ※

③ 車両情報（→ P. 118）

④ エアコン（→ P. 307）

⑤ 全画面表示切替スイッチ

サイド画面を非表示にします。



メイン画面に表示中の画面が全画面表示に対応している場合（→ P. 302）、その画面が全画面表示となります。

▶ 割り込み画面

次の各画面は状況に応じて自動的に表示される

● ハンズフリー ※

● オーナーズデスク ※

● ドライブモード（→ P. 280）

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

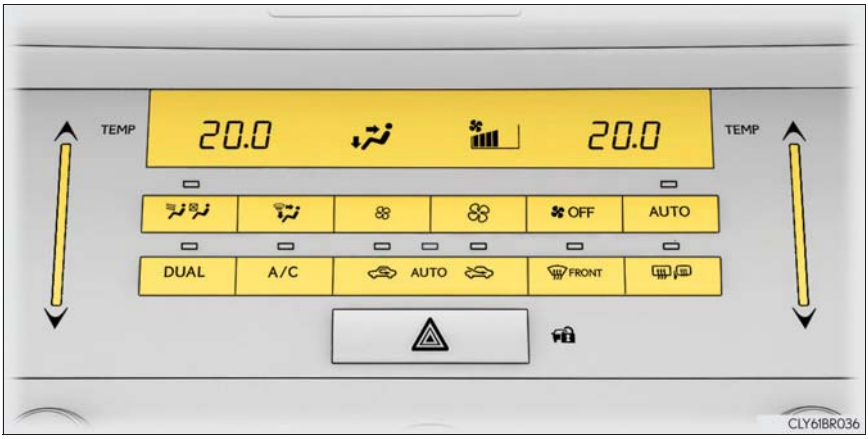
オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの “MENU” を押して、“ エアコン ” を選択するとエアコン操作画面が表示されます。

リモートタッチについては、P. 298 を参照してください。

エアコン操作スイッチについて



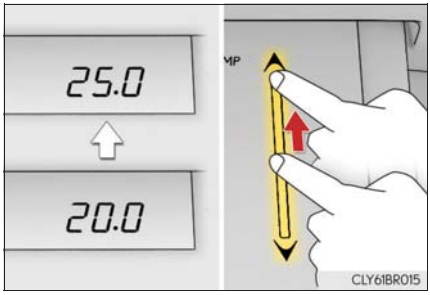
■ 温度を調整する

センサーにタッチしながら、指を上または下にスライドする

センサーにタッチしても温度を調整することができます。

設定温度が変わるとブザーが鳴ります。

A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。



■ 風量を切りかえる

風量を増やすには：を押す

風量を減らすには：を押す

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

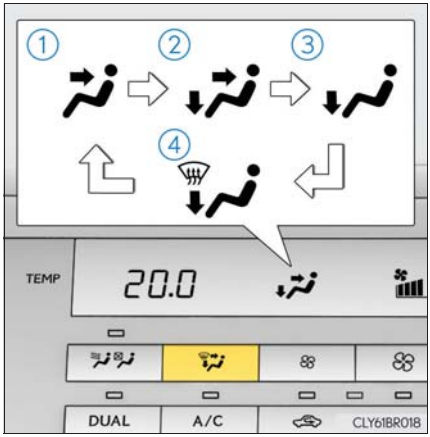
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



■ S-FLOW モード

リヤ席に乗員がいないとき、フロント席のみの送風に切りかえて、リヤ席の空調の効きを抑えます。

室温や外気温などの条件により、室内の快適性を保つため、リヤ席に送風されることがあります。

を押す、または を選択する

S-FLOW モードが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

再度 を押す、または を選択すると、リヤ席へ送風を再開します。

■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる (→ P. 309)
- フロントウインドウガラスの曇りを取る (→ P. 309)
- リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜をとる (→ P. 309)

エアコン操作画面について

① エアコン操作画面を表示する

② オプション操作画面を表示する（→ P. 306）

③ 助手席側の温度を調整する

④ 風量を切りかえる

⑤ 吹き出し口を切りかえる

⑥ 運転席側の温度を調整する

⑦ 各機能 ON/OFF 表示灯

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

⑧ サブファンクションメニューを表示する（→ P. 307）

リモートタッチを操作して画面上のスイッチを選択し、リモートタッチパッドを押す
または、ダブルタップ（軽く２回たたく）で決定します。

■ オプション操作画面

各機能の ON/OFF を切りかえることができます。

① 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（→ P. 308）

② 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

③ S-FLOW モードを設定する（→ P. 305）

④ エコモードに設定する（→ P. 312）

⑤「ナノイー」を作動する

⑥ 花粉を除去する（→ P. 309）

■ サブファンクションメニュー

リモートタッチのサブファンクションボタンを押すと、各機能の ON/OFF を切りかえることができます。

① 吹き出し口と風量が自動的に調整される

② “Off” ：ファンを停止する

③ 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

④ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（→ P. 308）

⑤ エコモードに設定する（→ P. 312）

■ サイド画面

① 助手席側の温度を調整する

② 風量を切りかえる

③ 運転席側の温度を調整する

④ 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

⑤ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（→ P. 308）

⑥ 吹き出し口を切りかえる

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO を押す、またはエアコン操作画面で“AUTO”を選択する

2 AUTO モードになるまでエアコン操作スイッチの AUTO を繰り返し押す。

排ガスセンサーにより外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 温度を設定する

4 ファンをとめたいときは、OFF を押す、またはサブファンクションメニューで“Off”を選択する

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- エアコン操作パネルの DUAL を押す
- オプション操作画面で“DUAL”を選択する
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

左右独立モードのとき、リヤ吹き出し口の設定温度は、運転席側の設定温度になります。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

AUTO を押す。

押すごとに内気循環→ AUTO →外気導入に切りかわり、選択されているスイッチの作動表示灯が点灯します。

AUTO を選択すると、A/C（“A/C”）が自動で ON になります。

■ 花粉除去機能を使用するには

オプション操作画面で、を選択する。

花粉除去モードが ON のとき、エアコン操作画面の が点灯します。

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには

FRONT を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 FRONT を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

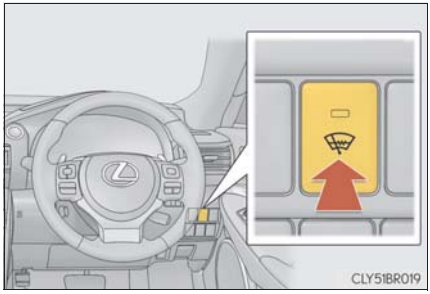
リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

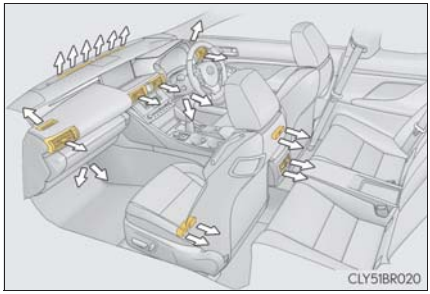
ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



吹き出し口について

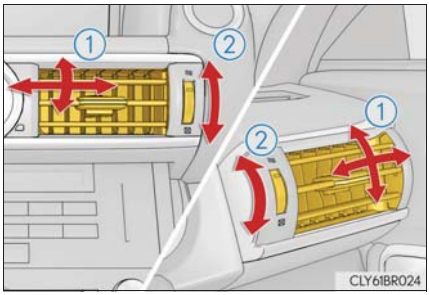
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

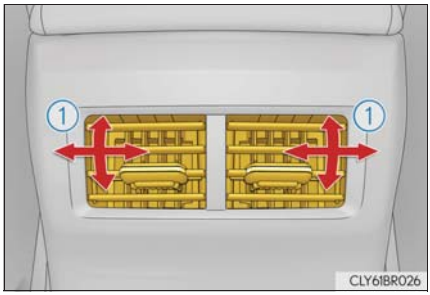


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント



▶ リヤ



① 風向きの調整

風向きを外側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。（リヤ吹き出し口のみ）

② 吹き出し口の開閉 (フロント吹き出し口のみ)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■電子キーによるエアコン設定の記憶について

●電子キーでドアを解錠してパワースイッチを ON モードにすると、その電子キーに対して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。

●パワースイッチを OFF にすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。

●複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※ 運転席ポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C（“A/C”）を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C（“A/C”）を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー（→ P. 314）でフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■内外気切りかえの AUTO モードについて

AUTO モードでは排出ガスなどの有害成分を検知し、自動で外気導入と内気循環を切りかえます。

A/C（“A/C”）が OFF で送風が作動中に AUTO モードにすると、A/C（“A/C”）が ON になります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作をおこなってください。
・風量を調整する。
・エコドライブモードを解除する。

■外気温度が0℃近くまで下がったとき

A/C を押す、または “A/C” を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■「ナノイー」※1 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席中央側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性のナノイーイオンを放出し、室内を爽やかな空気で満たします ※2。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します ※3。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
・吹き出し口が 、 または のとき
・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※3「ナノイー」が ON のとき。(→ P. 306)

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 362

■設定可能な機能

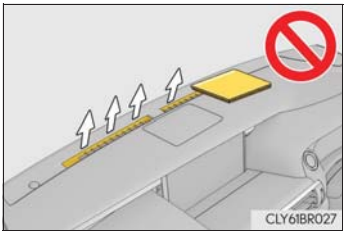
AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧→ P. 469）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONT を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

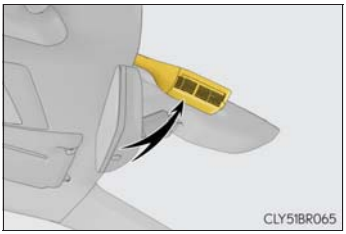
注意

■ **湿度センサーについて**

フロントウインドウガラスの曇り検知（→ P. 311）のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

・ 湿度センサーを分解しない
・ ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
・ 湿度センサーにシールなどを貼らない



■ **「ナノイー」の損傷を防ぐために**

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■ **補機バッテリーあがりを防ぐために**

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター★

ハンドルの左右のグリップ部やシートを暖めたり、シート内部に装備されたファンで送風することにより、シート表面の通気をよくします。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたがステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。
  - ・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
  - ・皮膚の弱いかた
  - ・疲労の激しいかた
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しないでください。
  - ・毛布・クッションなどを使用しないでください。

注意

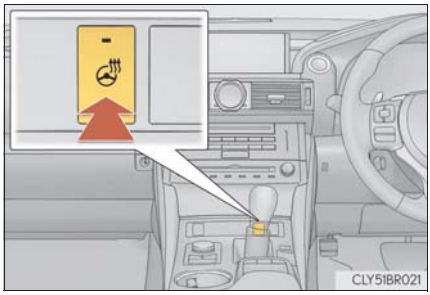
- シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター

システムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中はインジケーターが点灯します。



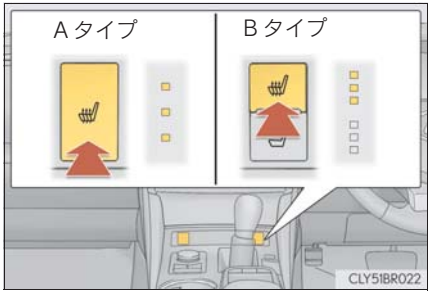
知識

- 作動条件：パワースイッチが ON モード
- タイマー機能：約 30 分後に自動で OFF になります。

シートヒーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケーター（橙）が点灯します。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■タイマー制御について

停車中に運転席と助手席のシートヒータースイッチを同時に押し続けると、ブザーが「ピッ」と鳴りタイマー制御が ON になります。

タイマー制御が ON になると、シートヒーターの作動状態が自動で次のように切りかわります。

選択した作動状態	作動状態の切りかわり
強	強→中→弱
中	中→弱
弱	弱

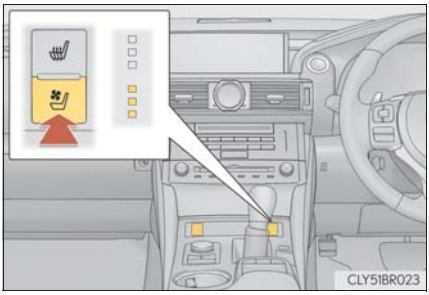
切りかわるまでの時間は、シートヒーターを作動させたときの室内温度などにより異なります。

もう一度上記の操作を行うと、ブザーが「ピッピッ」と鳴りタイマー制御が OFF になります。

シートベンチレーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケーター（緑）が点灯します。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF



知識

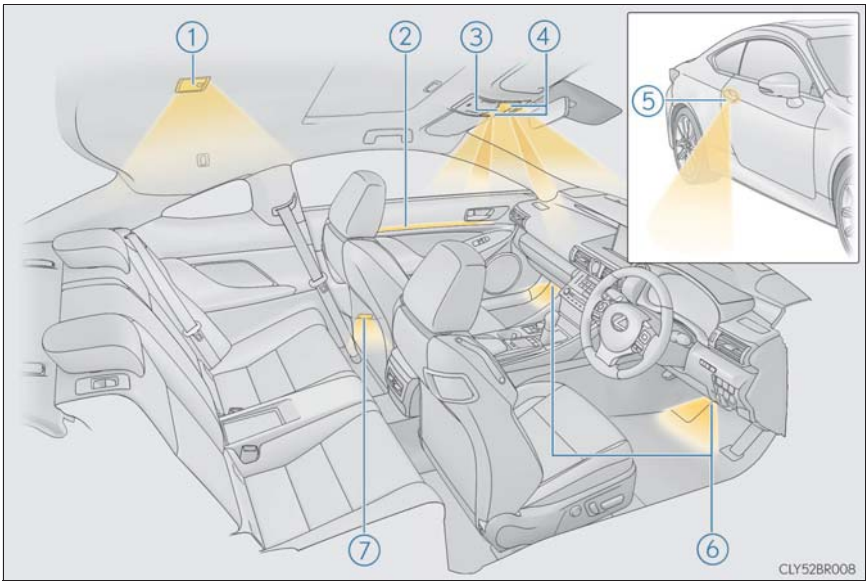
■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

室内灯一覧



① リヤインテリアランプ （→ P. 319）

② アンビエントイルミネーション

③ フロントインテリアランプ （→ P. 319）

④ パーソナルランプ （→ P. 320）

⑤ 室外足元照明

⑥ 室内足元照明

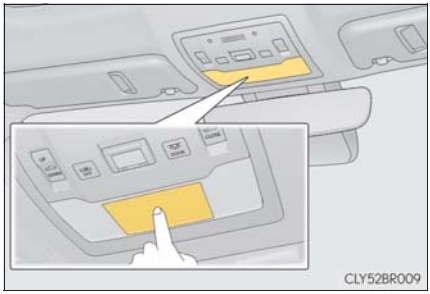
⑦ ドアカーテシランプ

インテリアランプ

リヤインテリアランプはフロントインテリアランプに連動して点灯・消灯します。

▶ フロント

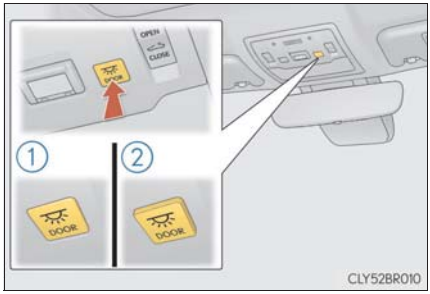
ランプを点灯・消灯する（ ランプにタッチする）



ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

① ON

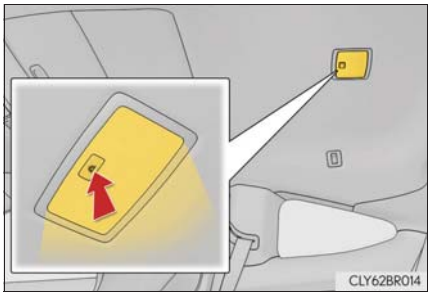
② OFF



▶ リヤ

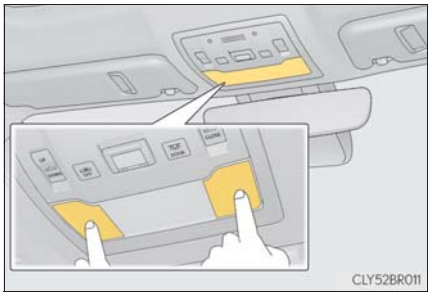
ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプが消灯している場合に点灯・消灯ができます。



パーソナルランプ

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



知識

●電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）

●パワースイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

●次の場合は、フロントインテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しないおそれがあります。
・ レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
・ 濡れた手で操作したとき
・ 手袋などを装着しているとき

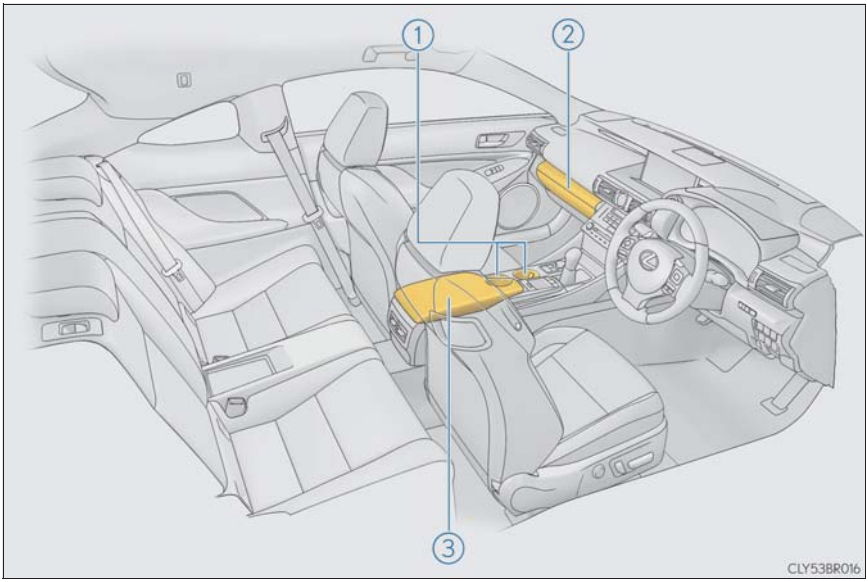
●室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 469）

注意

●フロントインテリアランプとパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。

●補機バッテリーあがりを防ぐために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① カップホルダー （→ P. 324）

② グローブボックス （→ P. 323）

③ コンソールボックス （→ P. 323）

警告

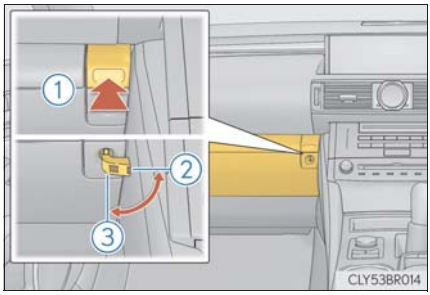
- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

① 開ける（ボタンを押す）

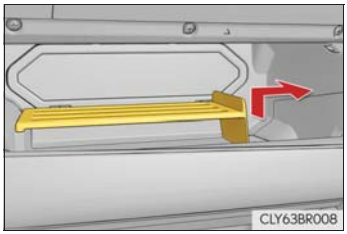
② メカニカルキーで解錠

③ メカニカルキーで施錠



知識

- パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのとき、グローブボックス内のランプが点灯します。
- グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。(→P. 136)
- グローブボックス内の仕切りを取りはずして使用することができます。

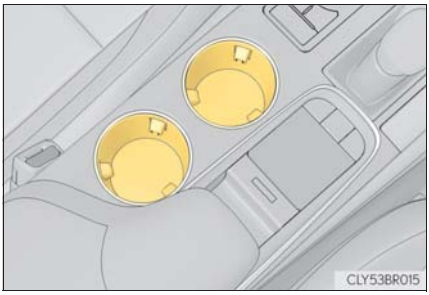


コンソールボックス

ノブを押す

手動でさらに開くと、全開にすることができます。

カップホルダー



知識

カップホルダーの中敷を取りはずすことができます。

警告

■収納してはいけないもの

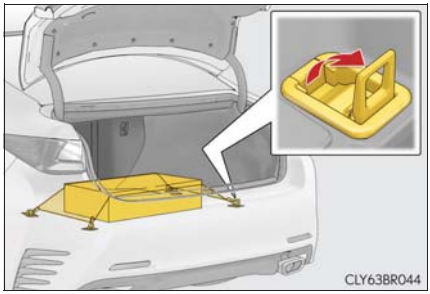
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

トランク内装備

荷物固定用フック

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



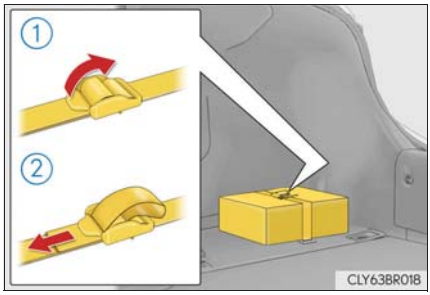
警告

荷物固定用フックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

救急箱等固定用バンド

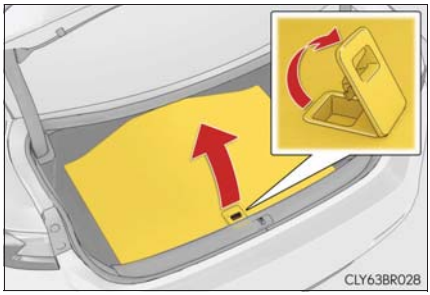
① ベルトをゆるめる

② ベルトを締める

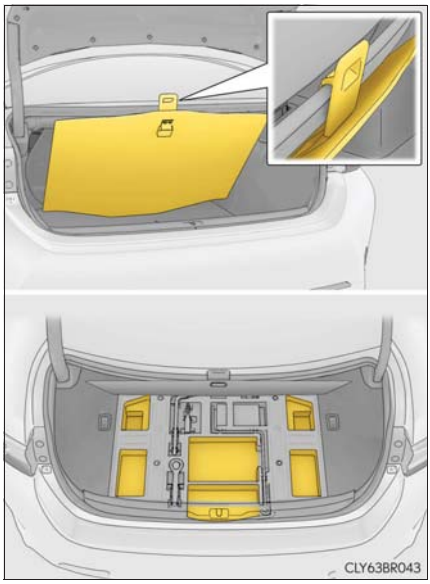


ラゲージアンダートレイ

1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる



2 フックを使ってラゲージマットを固定する



⚠ 注意

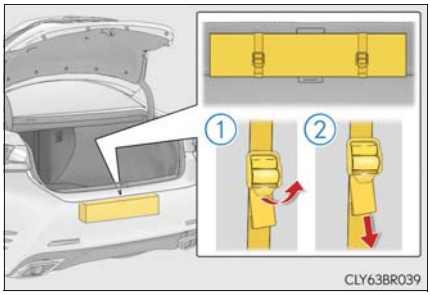
トランクを閉めるときは、ラゲージマットのフックをトランクの端にかけたままにしないでください。ラゲージマットが破損するおそれがあります

三角表示板等固定用バンド

① ベルトをゆるめる

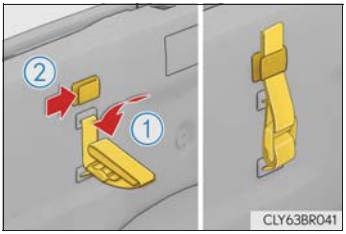
② ベルトを締める

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



知識

三角表示板等固定用バンドの損傷を防ぐため、使用しないときは右図のように①ベルトを折りたたみ、②ツメにはさんで収納してください。



警告

三角表示板を収納するときは、確実に固定されていることを確認してください。
確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

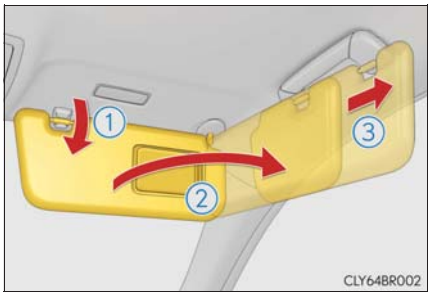
その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

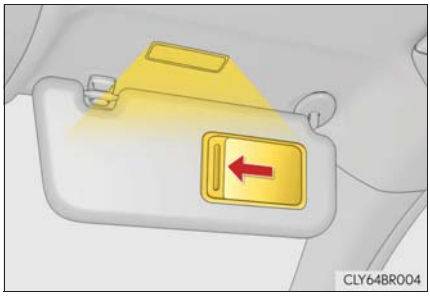
③ エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

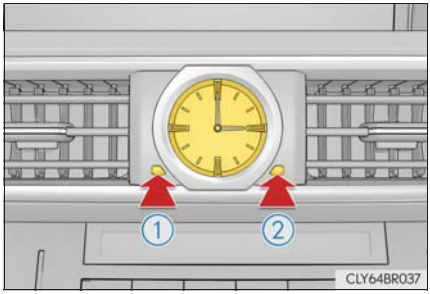
補機バッテリーあがりを防ぐために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

① 針をもどす

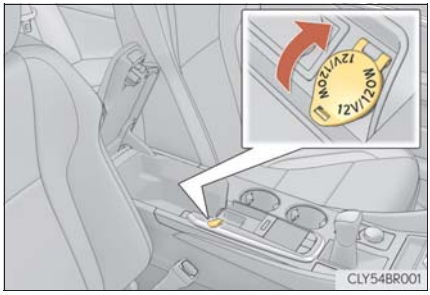
② 針を進める



アクセサリーソケット

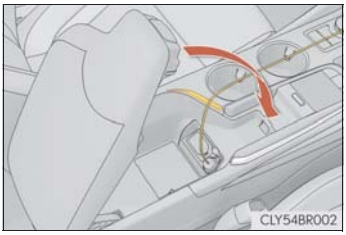
DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

- 作動条件：パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モード
- コンソールボックスの縁に配線を通すことで、コンソールボックスを閉じた状態でも配線を外へ引き出すことができます。

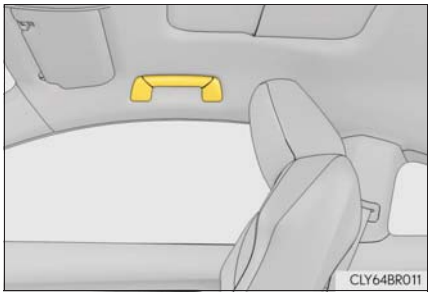


注意

- 異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを使用しないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

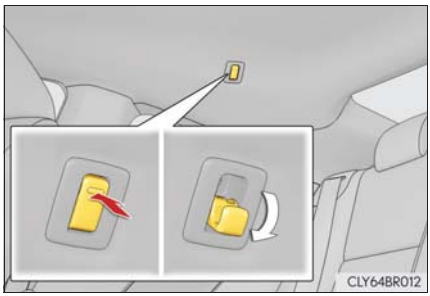
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフック

使用するときは、コートフックを押します。



警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 334
内装の手入れ 338

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 341
ガレージジャッキ 344
ウォッシャー液の補充.....345
タイヤについて 346
タイヤの交換 354
タイヤ空気圧について.....360
エアコンフィルターの交換.....362
電子キーの電池交換.....364
ヒューズの点検・交換.....366
電球（バルブ）の交換.....369

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

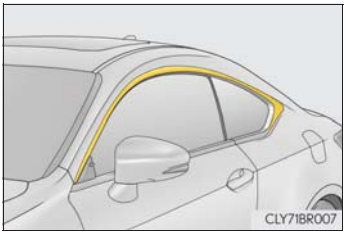
知識

■黒色ステンレスモールについて （マット塗装ホイール装着車）

図で示す部品には、黒色ステンレスの表面処理を施しています。

塗装の損傷を防ぐため、研磨剤などで表面を強くこすらないでください。

塗装がムラになることがあります。



■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

●ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する
（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆ スタートシステムの作動を停止する（→ P. 142）

■アルミホイール（マット塗装ホイール装着車以外）

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■アルミホイール（マット塗装ホイール装着車）

マット塗装ホイールは通常のアルミホイールとお手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

●洗車の際は、水洗いで汚れを落としてください。汚れがひどい場合は、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジ又は柔らかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、柔らかい布で水滴をふき取ってください。

●マット塗装の損傷を防ぐために、次のことをお守りください。
・乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
・コーティング剤や研磨剤入りの洗剤は使用しない
・自動洗車機を使用する際は、ホイール専用ブラシでの洗浄は行わない
・高圧式スプレーガンやスチームクリーナは使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・ドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

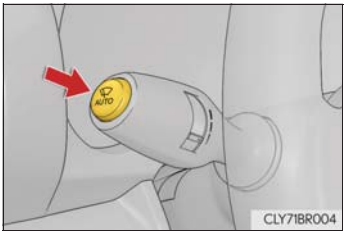
警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパーの AUTO モードを OFF にし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。（→ P. 213）
ワイパーが AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジンがかかっているときや、停止直後などにふれないでください。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。
・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■自動洗車機を使用するとき

ワイパーの AUTO モードを OFF にし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。（→ P. 213）
ワイパーが AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
  ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

警告

■車両への水の浸入

●床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→ P. 71）
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→ P. 32）
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
・ナビゲーション画面：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤やアルカリ性の溶剤・アルコール
・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
・その他の部品：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

カメラセンサーのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。（→ P. 225）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

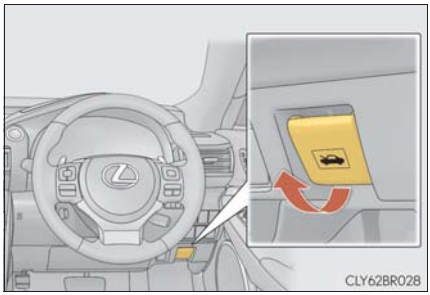
●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

ボンネット

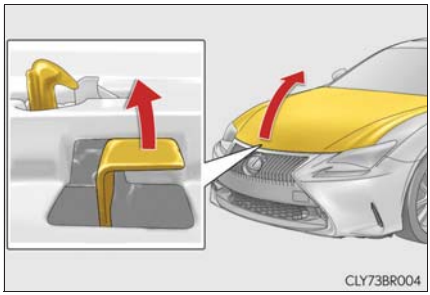
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

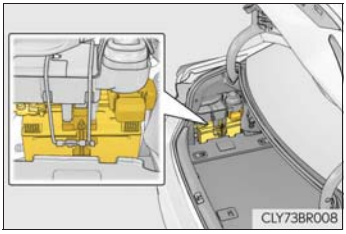


知識

■**補機バッテリーについて**

この車両の補機バッテリーはトランク（助手席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 444）



警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**修理・車検・整備点検をする場合は**

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**エンジンルーム点検後の確認**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるとき**

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■**補機バッテリーの交換について**

交換する際は RC300h 専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

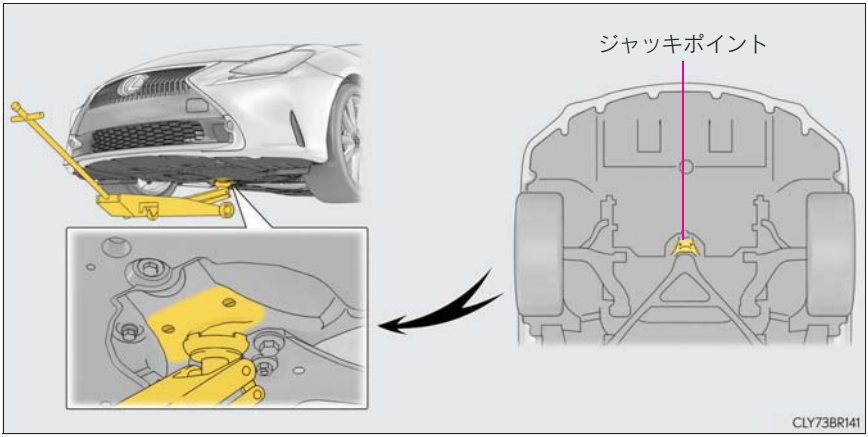
●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

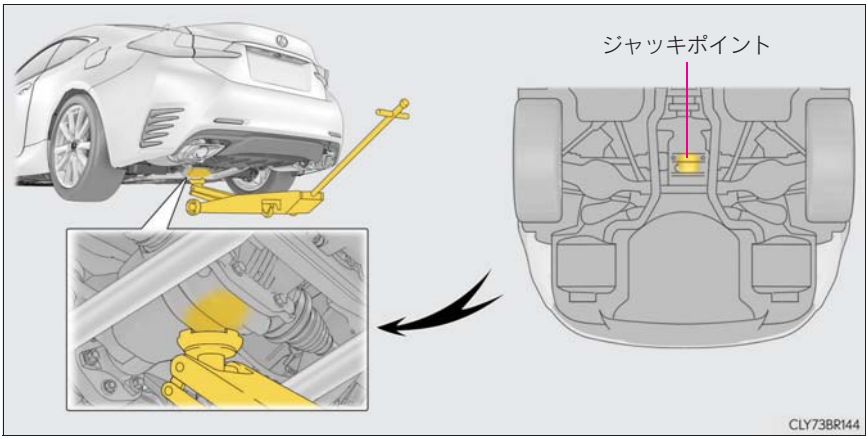
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



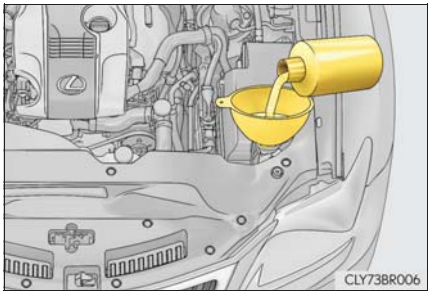
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



警告

■**ウォッシャー液を補充するとき**

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■**ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

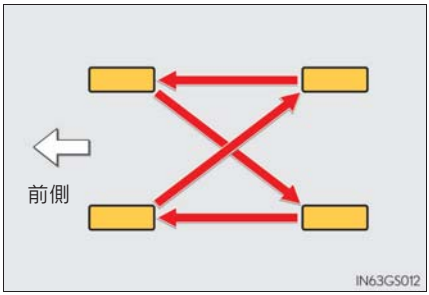
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

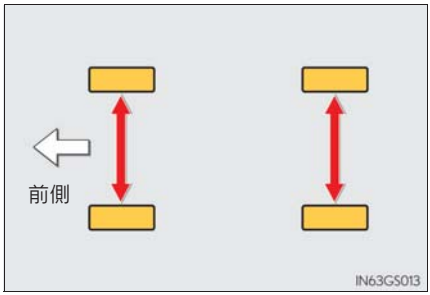
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

▶ 前後のタイヤサイズが同じ車両



▶ 前後のタイヤサイズが異なる車両



図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

● 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→ P. 393, 412)

● タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。(→ P. 96)

右図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、レクサス販売店へご依頼ください。(→ P. 348)

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

タイヤローテーションを実施したときは、初期化操作を行ってください。

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、ハイブリッドシステムを停止する

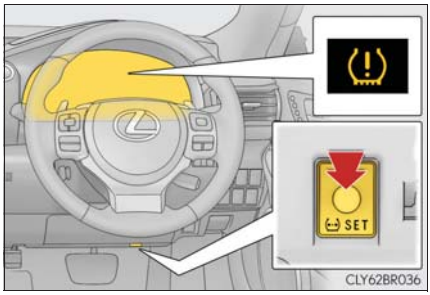
車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する（→ P. 349, 462）

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 パワースイッチを ON モードにする

4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける



5 パワースイッチを ON モードにしたまま数分 ※ 待ち、その後パワースイッチを OFF にする

※ 設定が完了するには 2 ～ 3 分かかります。

ID コードの登録について

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ／送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。
ID コードの登録については、レクサス販売店にご依頼ください。

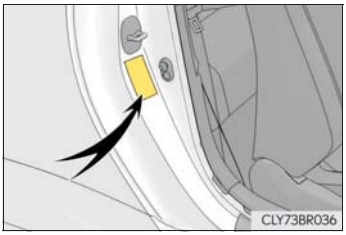
知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
17 インチ／ 18 インチ	240（2.4）	
19 インチ	240（2.4）	250（2.5）

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤローテーションを行うとき

必ずパワースイッチが OFF の状態で行ってください。ON モードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度 ON モードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

■低偏平タイヤについて（18 インチ／ 19 インチタイヤ装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（18 インチ／ 19 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
- ・純正ホイール以外を使用したとき
- ・純正装着タイヤ以外に交換したとき
- ・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
- ・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
- ・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- ・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
- ・タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- ・タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
- ・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■初期化操作について

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●初期化中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためてリセットスイッチを押し直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

■タイヤ空気圧警報システムの警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によってかわります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することがあります。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

通常 2、3 分で終了します。ただし、次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。それでもうまくいかないときは、レクサス販売店にて点検を受けてください。

●スイッチ操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）

●初期化してから約 20 分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

■ID コードの登録について

車 1 台に対して、最大 2 セット分のホイールの ID コードを登録することができます。通常使用するタイヤとは別に、冬用タイヤを装着したホイールの ID コードをあらかじめ登録しておけば、冬用タイヤへの交換時に ID コードを登録しなおす必要がなく、便利です。
ID コードの切りかえについては、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- ●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- ●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

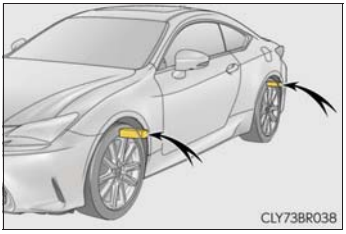
- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横すべりする
- ●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

■電波がおよぼす影響についての警告

- ●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナから約 45cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。



- ●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

注意

■低偏平タイヤについて（18 インチ／ 19 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

●適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの交換

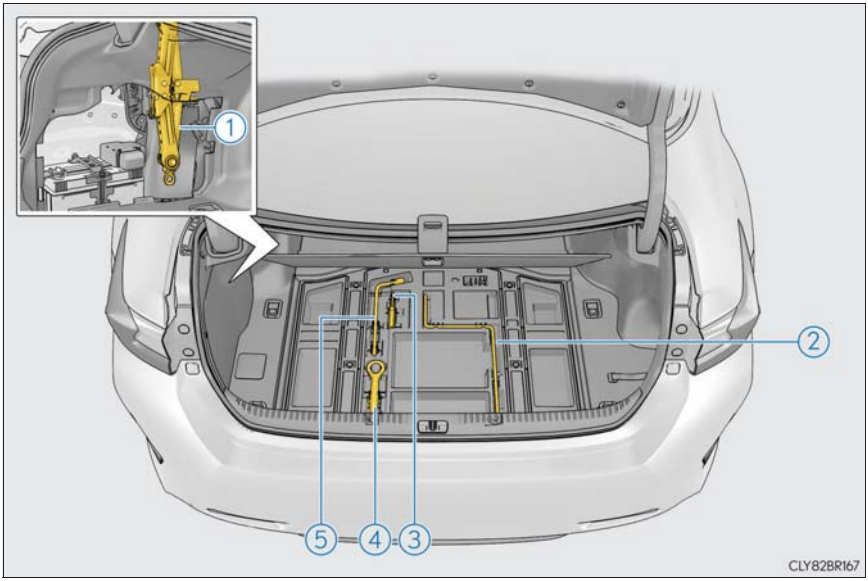
ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する

■ 工具とジャッキ位置



① ジャッキ
② ジャッキハンドル
③ ドライバー
④ けん引フック
⑤ ホイールナットレンチ

警告

■ **ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車両が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

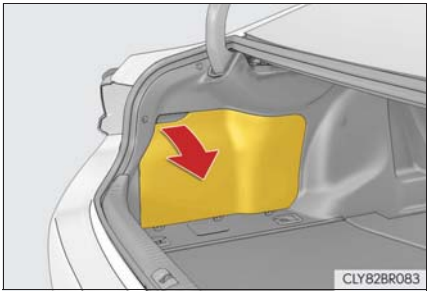
- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車両に使ったり、他の車両のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車両の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものをのせない
- 車両を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車両の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

ジャッキ・工具の取り出し方

▶ ジャッキの取り出し方

1 補機バッテリーカバーをはずす

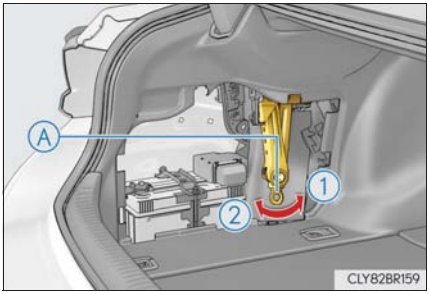


2 ジャッキを取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

ジャッキの締め付けが固く、ゆるめることができないときは、ジャッキのA部の穴に車載のドライバーなどを挿入してゆるめてください。

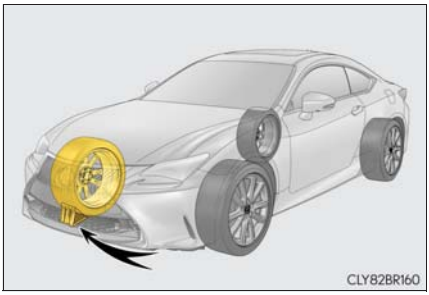


▶ 工具の取り出し方

ラゲージマットを取りはずす (→P. 326)

タイヤの交換

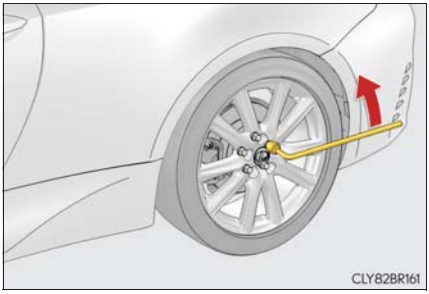
1 輪止め※をする。



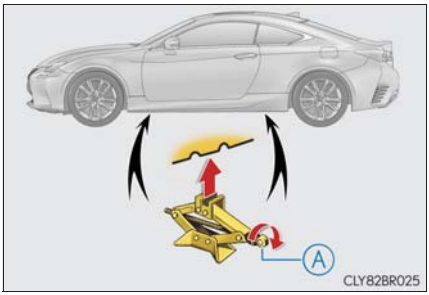
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

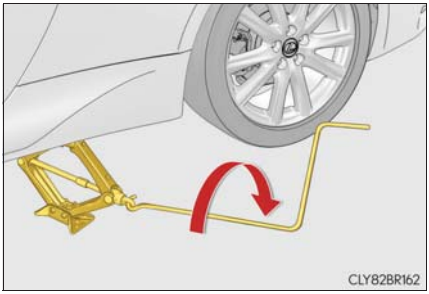
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる。



3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

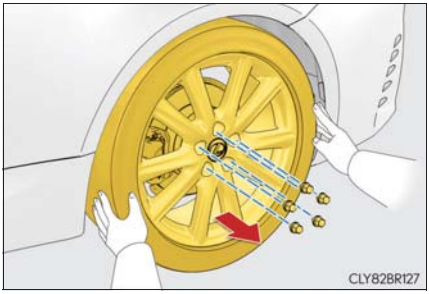


4 タイヤが地面から少しはなれるまで、車体を上げる。



5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする。



警告

■**タイヤ交換について**

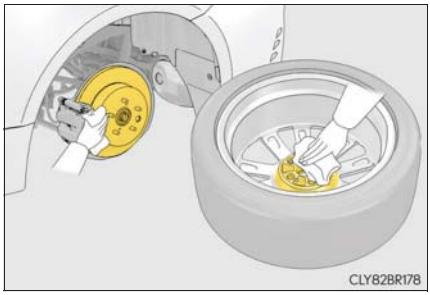
●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。
・ホイールの交換後は、すぐに 103 N･m（1050 kgf･cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

タイヤの取り付け

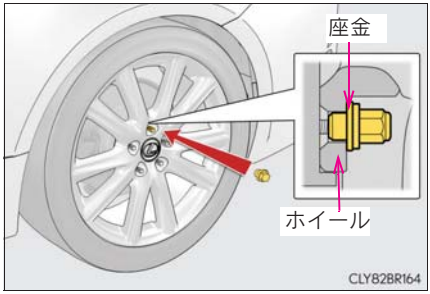
1 ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

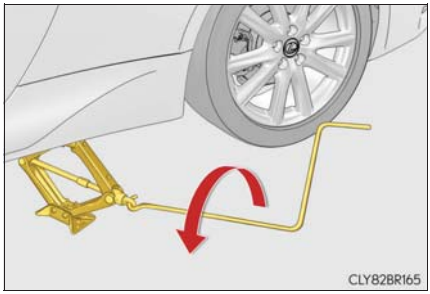


2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

座金がホイールにあたるまでナットをまわす。

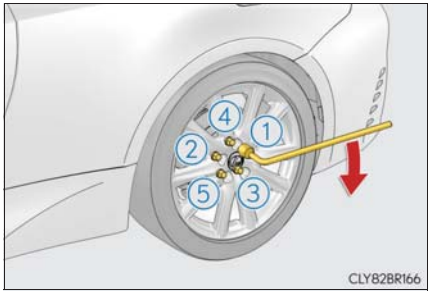


3 車体を下げる。



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける。

締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)



5 すべての工具・ジャッキを収納する。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。**(→ P. 462)**

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤがパンクした状態になるおそれがあります。

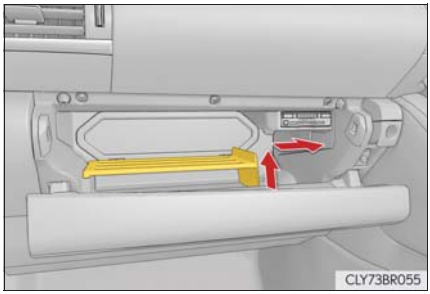
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

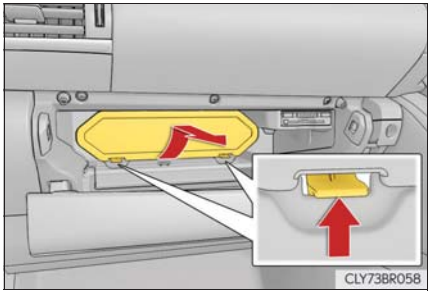
交換のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

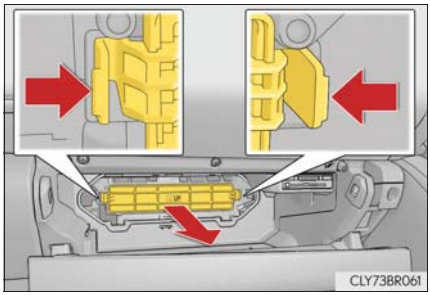
2 グローブボックスを開き、仕切り板をはずす



3 ツメ（2ヶ所）を押してロックをはずし、フィルターカバーを取りはずす

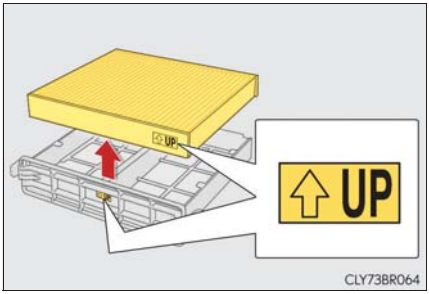


4 ツメ（2ヶ所）を押してロックをはずし、フィルターケースを取りはずす



5 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。
15000 km [7500 km※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

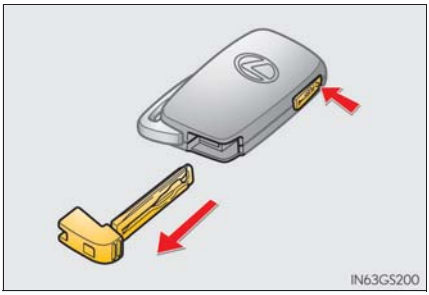
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

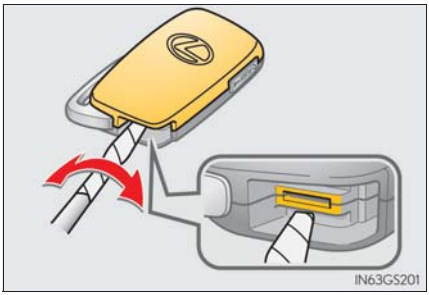
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く



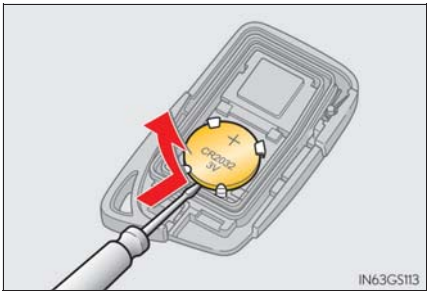
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

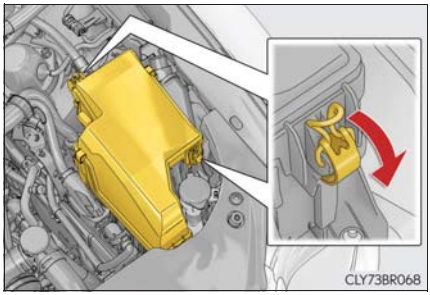
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

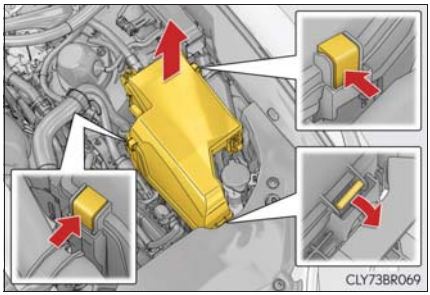
▶ エンジンルーム

すべてのクリップをはずす



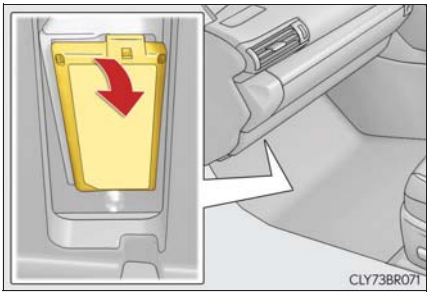
左右のツメを押してロックをはずし、手前のプレートを引きながらカバーを持ち上げる

カバーを取り付けるときは、手前のプレートおよび左右のツメが確実にかみ合っていることを確認してください。



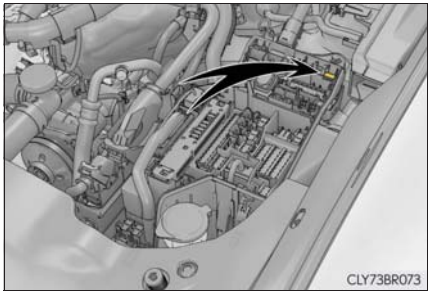
▶ 助手席足元

カバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

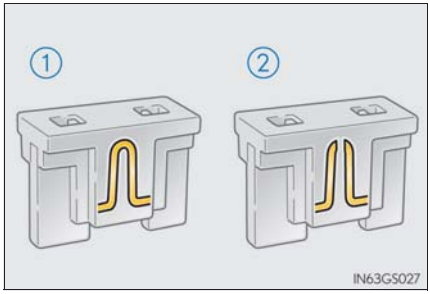


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ **ヒューズを交換したあとは**

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 369）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると**

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ **電球（バルブ）を交換するとき**

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換をおこなわないでください。
取り扱いを誤ると感電し、生命に関わるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

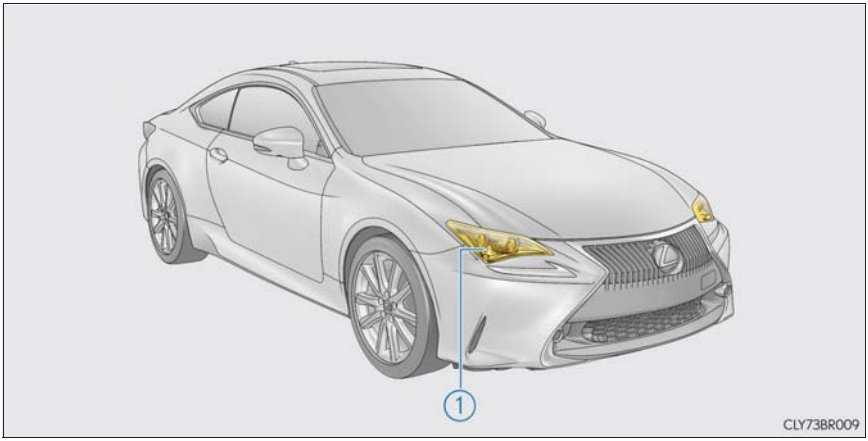
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→ P. 462）

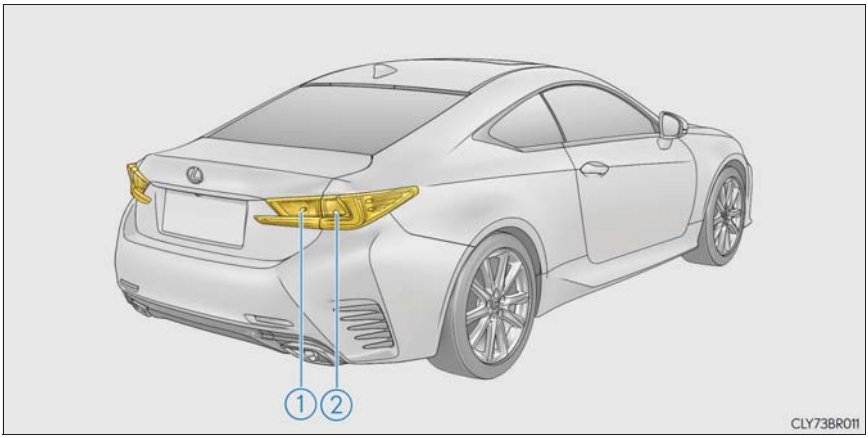
バルブ位置

■ フロント



① フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）

■ リヤ



① 後退灯 ※

② リヤ方向指示灯／非常点滅灯

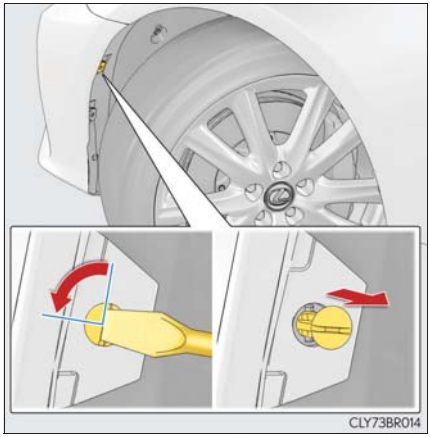
※ リヤフォグランプ装着車の場合、後退灯は助手席側のみに装着されます。

電球交換のしかた

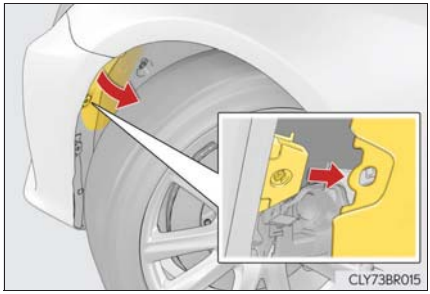
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼 LED ヘッドランプ非装着車）

1 交換するランプ側にハンドルをいっぱいまでまわしてスペースを広げ、クリップを取りはずす

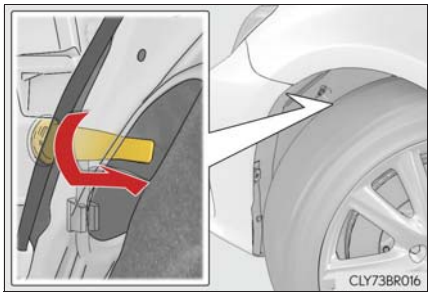
クリップをはずすときは、頭部をまわしてロックを解除し、引き抜きます。



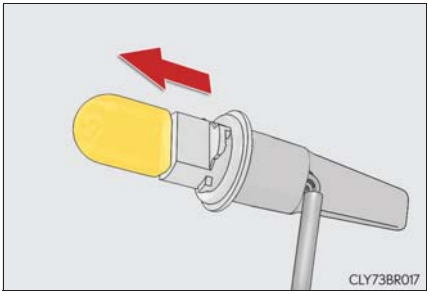
2 留め具とフェンダーライナーのかん合をはずし、フェンダーライナーをめくる



3 ソケットを左にまわして取りはずす

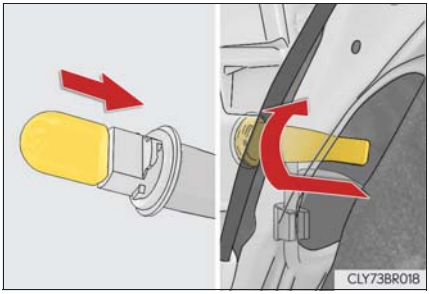


4 電球を取りはずす



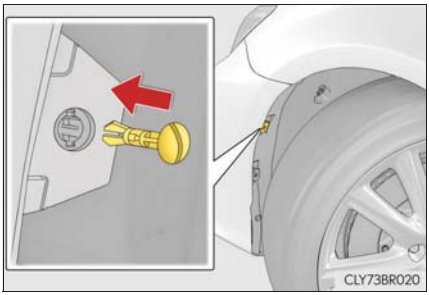
5 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、いったんフロント方向指示灯 / 非常点滅灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



6 フェンダーライナーをもとにもどし、クリップを取り付ける

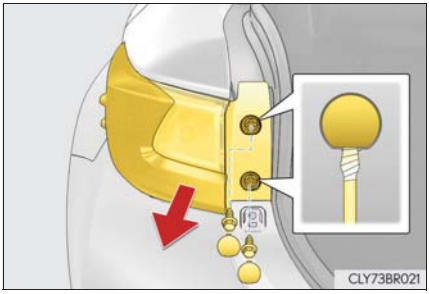
クリップ頭部の溝を縦にして挿し込みます。



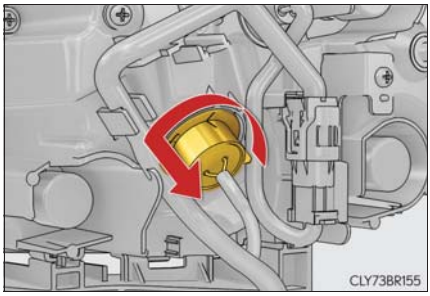
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

1 トランクを開け、カバー（2 個）とスクリュー（2 本）を取りはずし、ランプ本体を車両後方に引いて取りはずす

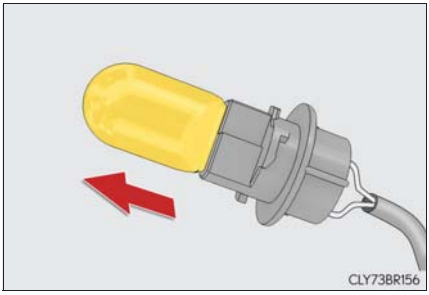
カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープを巻いて保護してください。



2 ソケットを左にまわして取りはずす

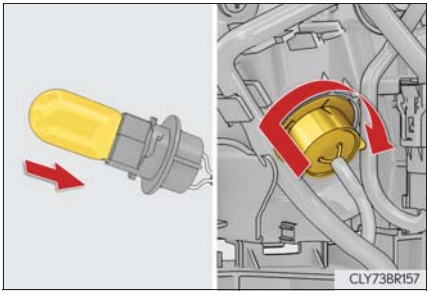


3 電球を取りはずす

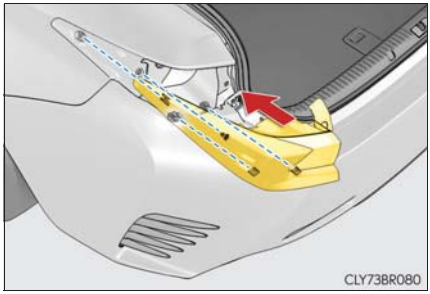


4 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、いったんリヤ方向指示灯 / 非常点滅灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



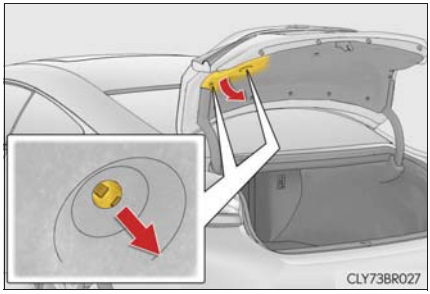
5 ランプ本体側と車両側のツメの位置を合わせ、ランプ本体を車両前方へ押して取り付ける



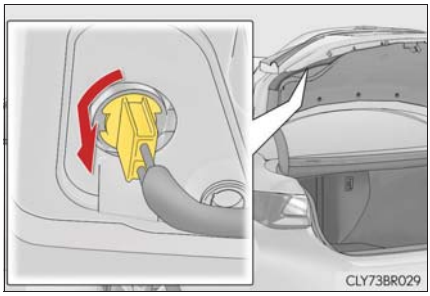
6 スクリュー（2 個）とカバー（2 個）を取り付ける

■ 後退灯

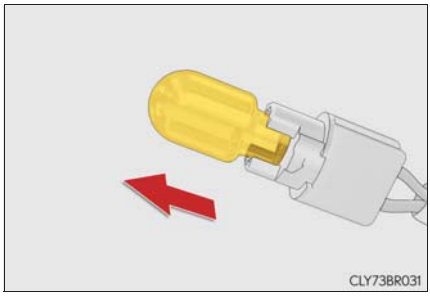
1 トランクを開け、交換する側のクリップ（2 個）を取りはずして、トランクリッドのカバーをめくる



2 ソケットを左にまわして取りはずす

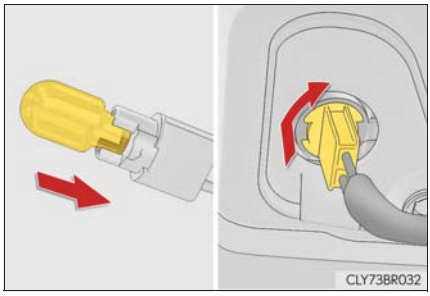


3 電球を取りはずす



4 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、いったん後退灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



5 トランクリッドのカバーをもとにもどし、クリップ（2 個）を取り付ける

取りはずしたクリップをそのまま挿し込みます。

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／ LED デイライト
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）
- フロントフォグランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯／制動灯
- 制動灯
- 尾灯★
- リヤフォグランプ ★
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

■LED ランプについて

フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）、リヤ方向指示灯／非常点滅灯、後退灯以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 367

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**電球を交換するとき**

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■**お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 380

非常点滅灯
（ハザードランプ）.....381

発炎筒 382

車両を緊急停止するには.....384

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 385

警告灯がついたときは.....391

警告メッセージが
表示されたときは 396

パンクしたときは 424

ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....438

電子キーが正常に
働かないときは 440

補機バッテリーが
あがったときは 444

オーバーヒートしたときは.....449

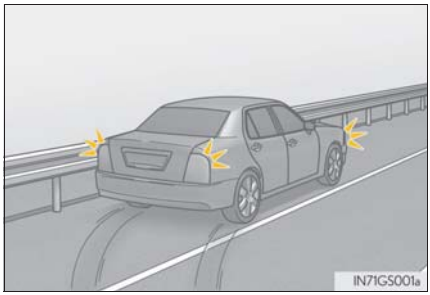
スタックしたときは.....454

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 381）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



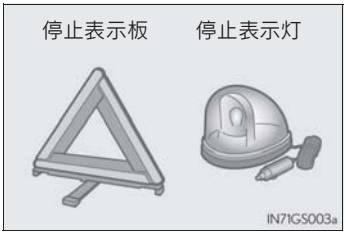
高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→ P. 382）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■**停止表示板・停止表示灯について**

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板･停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

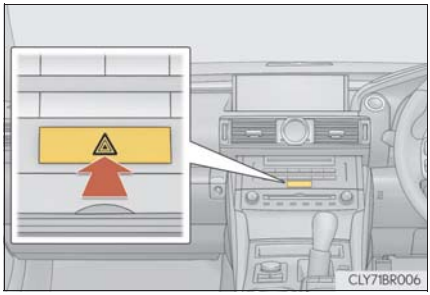


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

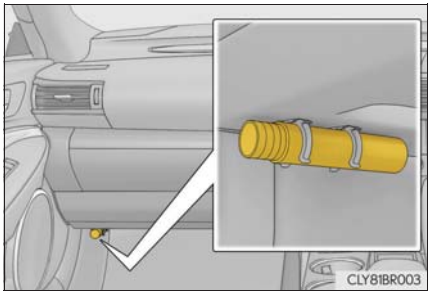
■**非常点滅灯について**

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

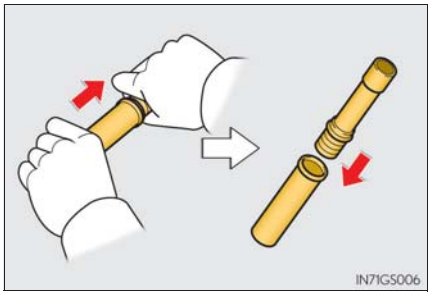
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

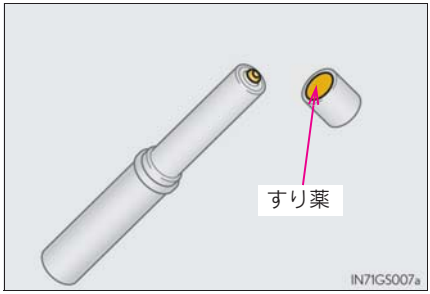


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ **走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

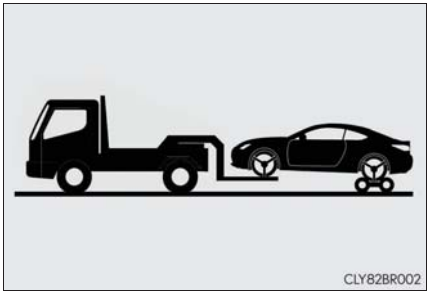
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

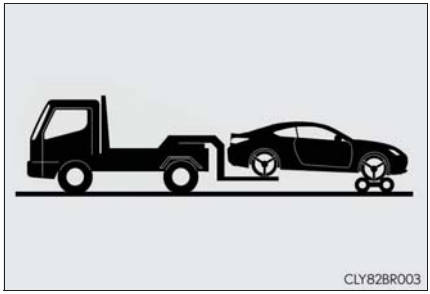
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

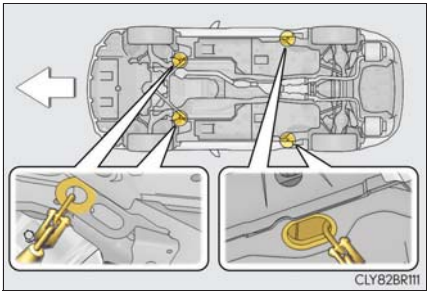
▶ うしろ向きにけん引するときは



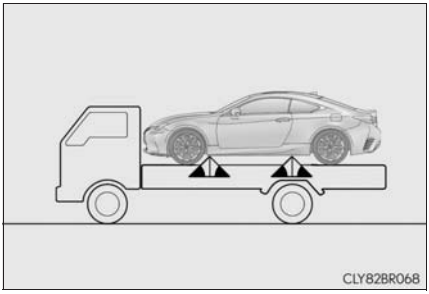
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



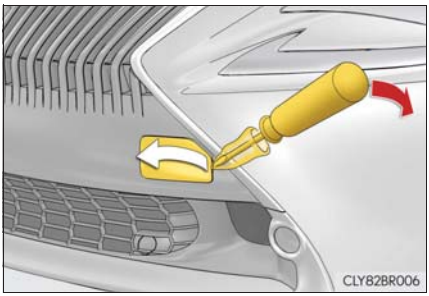
他車にけん引してもらうとき

1 けん引フックを取り出す（→ P. 354）

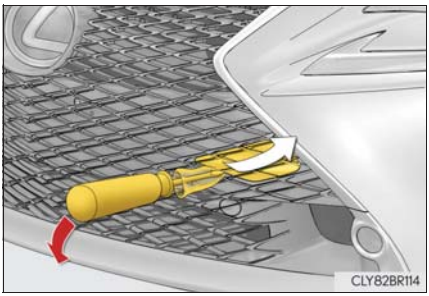
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

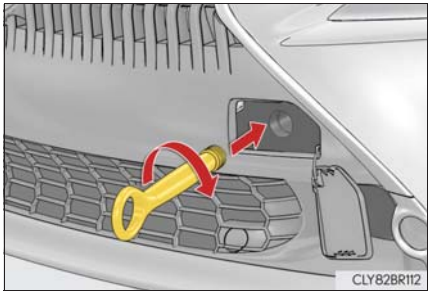
▶ F SPORT 以外



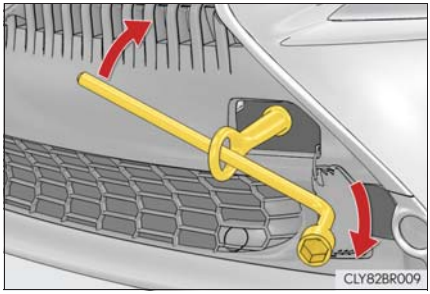
▶ F SPORT



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

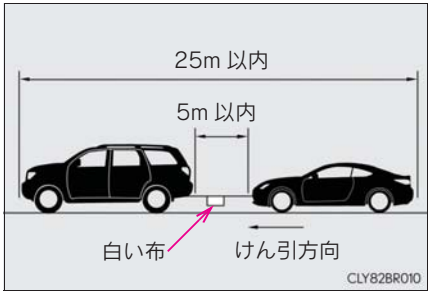


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 200

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

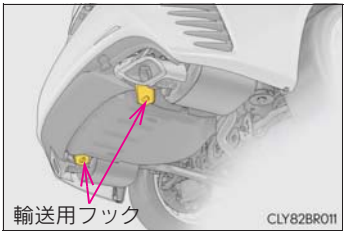
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。(→P. 354)

■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。

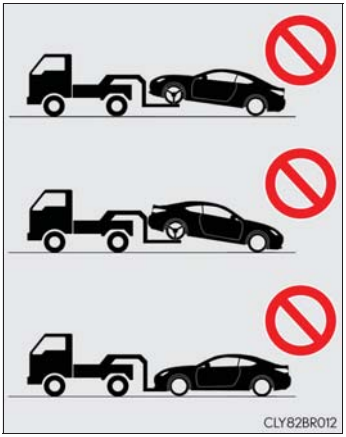


警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。また、モーターが回転して発電し、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

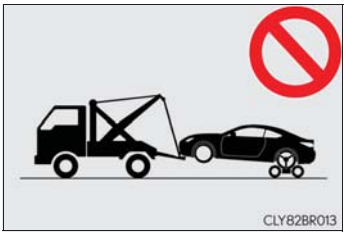
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯 ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	ブレーキ警告灯 ・ 回生ブレーキシステムの異常 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	充電警告灯★ 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**
	エンジン警告灯 ・ ハイブリッドシステムの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	パーキングブレーキ警告灯（警告ブザー ※1） パーキングブレーキがかかっているとき **→ パーキングブレーキを解除する**
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯 警告灯が点灯した場合： LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージを確認してください。（→ P. 396）** 警告灯が点滅した場合： LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）による車線逸脱警報 **→ 周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどしてください。**
 （点滅または点灯）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯** 炎天下や極寒の環境、またはセンサーが汚れているなどの状況のため一時的に作動しない、またはプリクラッシュセーフティシステムの異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージを確認してください。（→ P. 237, 396）** プリクラッシュセーフティシステムが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P. 237**
	スリップ表示灯 ・ VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ・ TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC/TRC/ABS システム作動時は点滅します。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	半ドア警告灯（警告ブザー ※2） いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない **→ 両ドアおよびトランクを閉める**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 10L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※3） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 396**
	タイヤ空気圧警告灯 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ・ 自然要因（→ P. 394） ・ タイヤのパンク（→ P. 424） **→ 指定された空気圧に調整してください。調整して数分後に警告灯が消灯します。数分経過しても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。（→ P. 348）** **初期化を行っても警告灯が消灯しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。** 警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。 **→ レクサス販売店で点検を受けてください。**

※1 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
→ P. 401

※2 半ドア走行時警告ブザー：
→ P. 398

※3 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤが十分に冷えてから次の操作を行ってください。

●空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

●数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行ってください。

タイヤが十分に冷えていない状態で上記の操作を行うと、警告灯が再度点灯する場合があります。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→ P. 350

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■**パワーステアリング警告灯が点灯したとき**

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■**タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。

●急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■**タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合**

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■**タイヤ空気圧警報システムについての注意**

●純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用した場合、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

●タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（→ P. 348）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

▶ F SPORT 以外

▶ F　SPORT（メーターリング中央時）

▶ F　SPORT（メーターリング移動時）

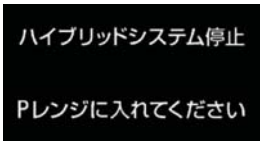
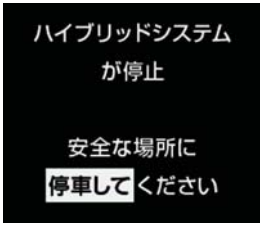
① マスターウォーニング

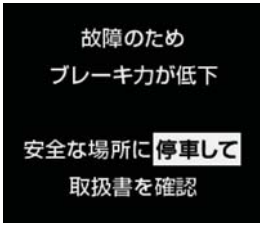
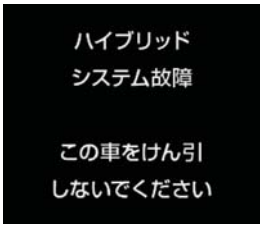
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティシステム） 警告ブザーが鳴ります。 **→ ブレーキで減速する操作などで衝突を回避してください**
 （点滅）	**シフトレバーが P 以外のときにハイブリッドシステムを停止した** 警告ブザーが鳴ります。 **→ シフトレバーを P にする**
 （点滅）	**走行中にハイブリッドシステムが停止した** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 路肩など安全な場所に停車する**
	（レーダークルーズコントロールの車間制御中）衝突の危険性 警告ブザーが鳴ります。 **→ ブレーキで減速する**

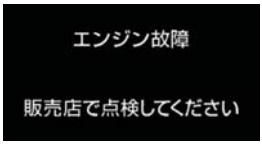
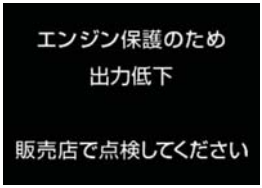
警告メッセージ	警告内容・対処方法
   （点滅）	**LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）による車線逸脱警報** 車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の表示が黄色で点滅します。 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす**
 故障のため ブレーキ力が低下 安全な場所に停車して 取扱書を確認 （点滅）	**ブレーキ液の不足** **ブレーキ系統の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
 ハイブリッド システム故障 この車をけん引 しないでください 	**ハイブリッドシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**
 	ドアが確実に閉まっていない 開いているドアが表示されます。 全ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/h をこえると が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 **→ 開いているドアを閉める**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ボンネットが確実に閉まっていない ボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえると が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 **→ ボンネットを閉める**
 	トランクが確実に閉まっていない トランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえると が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 **→ トランクを閉める**
クリアランスソナー故障 	**クリアランスソナー★の異常** すべてのソナーが点滅して表示されます。 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
ソナーの汚れを 除去してください 	**クリアランスソナー★のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 汚れおよび氷などを取り除く**
Nレンジです アクセルを緩めて 希望レンジに 切りかえてください （点滅）	**シフトレバーが N のとき、アクセルペダルを踏んだ** 警告ブザーが鳴ります。 **→ アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D、S または R に入れる**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
停車時はブレーキを 踏んでください （点滅）	**上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持している** 警告ブザーが鳴ります。そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキを踏む**
駆動用電池保護が必要 Pレンジにして 再始動してください （点滅）	**長時間シフトレバーが N になっているため駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動する**
ハイブリッドシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書を確認	**ハイブリッドシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**
駆動用電池保護が必要 Nレンジの使用を 控えてください （点滅）	**駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが鳴ります。 **→ シフトレバーが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトレバーを P に入れる**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
故障のため ハンドルが重くなります 販売店で点検してください 電源異常のため ハンドルが重くなります 販売店で点検してください EPS故障 販売店で点検してください	**パワーステアリングシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
パーキングブレーキを 解除してください （点滅）	**パーキングブレーキをかけたまま車速が5km/hをこえた** 警告ブザーが鳴ります。 → **パーキングブレーキを解除する**
アクセルを 戻してください （点滅）	**アクセルペダルを踏みながらシフトレバーを動かし、ドライブスタートコントロールが作動した** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちにアクセルペダルから足を離してください**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）操舵支援「有」中にシステムが手放し運転と判断 運転者のハンドル操作が小さいとき、システムがハンドル操作を検知できず、警告が表示される場合があります。 **→ ハンドルをしっかりと持ちなおしてください。**
 	LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）操舵支援「有」中にシステムが手放し運転と判断したため、操舵支援が一時停止 運転者のハンドル操作が小さいとき、システムがハンドル操作を検知できず、警告が表示される場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ ハンドルをしっかりと持ちなおしてください**
 	**エンジンの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
 	**エンジンの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
SRSエアバッグ故障 販売店で点検してください	**SRS エアバッグの異常** **シートベルトプリテンショナーの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
ABS故障 販売店で点検してください	**ABS の異常** **ブレーキアシストの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください	**エンジン冷却水が高温** 警告ブザーが鳴ります。 → P. 449

警告メッセージ	警告内容・対処方法
充電システム故障 取扱書を確認してください (F SPORT)	**充電系統の異常** **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**
クルーズコントロール 使用不可 レーダーの汚れを 取ってください	**レーダークルーズコントロールのセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 汚れおよび氷などを取り除く**
クルーズコントロール 現在使用できません	**レーダークルーズコントロールのシステムが一時的に使用不可と判断した** 警告ブザーが鳴ります。 **→ しばらく走行してからレーダークルーズコントロールを再度設定してください。**
スマートエントリー& スタートシステム故障 取扱書を確認	**スマートエントリー & スタートシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
BSM 現在使用できません	**BSM（ブラインドスポットモニター）★のセンサー周辺のバンパーの汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 汚れ、雪、氷などを取り除き、BSM 機能の作動条件（→ P. 264）でしばらく走行してください。（目安：約 10 分） しばらく走行しても警告メッセージが消えない場合は、センサーの位置や向きがずれている可能性があるため、レクサス販売店で点検を受けてください。**
クルーズコントロール故障 販売店で点検してください	**レーダークルーズコントロールシステムの異常** ON/OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
LDA故障 販売店で 点検してください	**LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
前方カメラ 一時使用不可 しばらくお待ちください 前方カメラ 一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを 取ってください 	**カメラセンサーの作動条件が満たされていない** 次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。 ・ PCS(プリクラッシュセーフティシステム) ・ LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］） ・ レーダークルーズコントロール ・ オートマチックハイビーム → P. 237
LDA現在利用できません 	**カメラセンサー以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している** 警告ブザーが鳴ります。 → いったん LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）を OFF にし、しばらくしてから再度 LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）を ON にしてください
プリクラッシュセーフティ 故障 販売店で点検してください 	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の異常** 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
BSM故障 販売店で点検してください	**BSM（ブラインドスポットモニター）★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
エンジン油圧不足 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**
故障のため ブレーキ力が低下します 販売店で点検してください	**回生ブレーキシステムの異常** **電子制御ブレーキシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ポップアップフード作動 販売店で 点検してください （点滅）	**ポップアップフードが作動した** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
ポップアップフード故障 販売店で 点検してください （点滅）	**ポップアップフードシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
LDA 現在の車速では 使用できません	**車速が LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）の作動可能範囲を超えたため、使用できない** **→ 車速を落として走行する**
LDA 約50km/h以下で 使用できません	**車速が 約 50km/h 以下のため、LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）が使用できない** **→ 約 50km/h より速い車速で走行する**
ハイブリッドシステム 停止のため ハンドルが重くなります （点滅）	**走行中にハイブリッドシステムが停止した** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 通常より力を入れてハンドルを操作する**
ライトが点灯しています （点滅）	**ヘッドランプ・尾灯点灯時に運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ヘッドランプ・尾灯を消灯する**

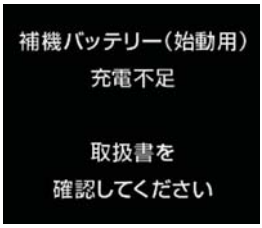
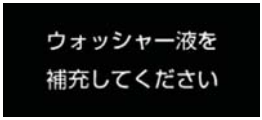
警告メッセージ	警告内容・対処方法
ムーンルーフが 開いています （点滅）	**ムーンルーフ★が確実に閉まっていない状態でパワースイッチを OFF にして運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ムーンルーフを閉める**
窓が開いています （点滅）	**ドアガラスが確実に閉まっていない状態でパワースイッチを OFF にして運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ドアガラスを閉める**
窓・ムーンルーフが 開いています （点滅）	**ドアガラス･ムーンルーフ★が確実に閉まっていない状態でパワースイッチを OFF にして運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ドアガラス・ムーンルーフを閉める**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ドライブスタートコントロールの異常 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
	ブレーキオーバーライドシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
エンジンオイル量不足 補充するか、 交換してください	**エンジンオイルの不足** 傾斜路などに停車したとき表示される場合があります。水平な路面に移動し、警告メッセージが表示されるか確認ください。 **→ エンジンオイル量を点検し、オイルを補給する**
ハイブリッドシステム高温 出力制限中です 	**ハイブリッドシステムの過熱** 負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ 車両を停車して点検する（→ P. 449）**
ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください 	**ヘッドランプレベリングシステムの異常** **AHB（オートマチックハイビーム）の異常** **LED ヘッドランプの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**
   （点滅）	**アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動した** **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	タイヤ空気圧の低下 → タイヤ空気圧を点検・調整する
 	タイヤ空気圧警告システムの異常 → 安全な場所に停車し再度 ON モードにする。 タイヤ空気圧警告灯が 1 分間点滅し、その後点灯した場合はシステム異常です。レクサス販売店で点検を受けてください。
	タイヤ位置の情報が電波状況などにより認識できていない → しばらく走行して表示が更新されるか確認する。 電波状況などが改善されると、通常の表示にもどる場合があります。数分走行しても空気圧が表示されない場合は、安全な場所に停車し、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度、走行してください。 数回くり返しても空気圧が表示されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
 (F SPORT) (点滅)	補機バッテリーが充電不足 → 数秒後 ※ に表示が消えたときは 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。 → 表示が消えないときは 「補機バッテリーがあがったときは」(→ P. 444) の手順でハイブリッドシステムを始動してください。 ※ 約 6 秒間表示されます。
	ウォッシャー液が残りわずか → ウォッシャー液を補充する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
給油してください	燃料の残量が約 10L 以下になった → 燃料を補給する
路面凍結の恐れあり 走行注意	外気温が約 3 ℃以下になった 警告ブザーが鳴ります。 → 路面が凍結しているおそれがあるため、気を付けて運転する
TRC Offしました	TRC(トラクションコントロール)がOFFになっている → TRC を ON にする（→ P. 285）
AHBはハイビーム点灯が必要です	ヘッドランプがロービームの状態でオートマチックハイビームスイッチを押した → ヘッドランプをハイビームに切りかえてから、オートマチックハイビームスイッチを押す
VSCがOffのため プリクラッシュブレーキも 停止します	プリクラッシュブレーキおよびプリクラッシュブレーキアシストが現在機能していない（衝突警報は作動します） → VSC を ON にする（→ P. 286）

警告メッセージ	警告内容・対処方法
プリクラッシュセーフティ 現在使用できません OFF	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の一時停止 → 状況が改善されると作動可能状態になります。表示されたままのときは、レクサス販売店で点検を受けてください。
電力消費が大きいため 一部の空調・ヒータ作動を 制限中です （点滅）	電力消費が大きいため、エアコンやシートヒーター★などの作動を一時制限した → 不要な電装品をオフにし、電力消費を控えてください。電源状態が復帰するまでしばらくお待ちください。ひんぱんに表示されるときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
プリクラッシュセーフティ 一時使用不可 しばらくお待ちください OFF	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の一時停止 → 状況が改善されると作動可能状態になります。表示されたままのときは、レクサス販売店で点検を受けてください。
プリクラッシュセーフティ 使用不可 レーダー汚れを取ってください OFF	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 → 汚れおよび氷などを取り除く

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他に表示されるメッセージ

次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従って処置することで、消灯させることができます。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
駆動用電池の 冷却部品の メンテナンスを 販売店で受けてください	**駆動用電池の冷却部品のメンテナンス時期** フィルターが目づまりしている、吸気口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。 **→ レクサス販売店で駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを受けてください**
EVモードに 現在切りかえできません 暖機中のため EVモードに 現在切りかえできません ハイブリッド 充電不足のため EVモードに 現在切りかえできません EV速度域超過のため EVモードに 現在切りかえできません アクセル踏みすぎのため EVモードに 現在切りかえできません	**EV ドライブモードに切りかえできない状況 ※** EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／EV速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用する**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
EVモードが 解除されました ハイブリッド充電不足 のためEVモードが 解除されました EV速度域超過 のためEVモードが 解除されました アクセル踏みすぎ のためEVモードが 解除されました EV MODE（F SPORT 以外）（点滅） EV MODE（F SPORT）（点滅）	**EV ドライブモードが自動解除された ※** EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ しばらく走行する**

※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 193 を参照してください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージについて

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

●先行車が非常に低速で走行しているとき

●速度を設定した直後

●アクセルペダルが踏まれたとき

■LDA（レーンディパーチャーアラート［ステアリング制御機能付き］）の車線逸脱警報について

次のような場合は、白（黄）線をまたいでも警告メッセージが表示されません。

●LDA の作動条件以外の車速のとき (→ P. 243)

●白（黄）線を認識できていないとき (→ P. 245)

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 350

■警告ブザーについて

→ P. 394

注意

■「補機バッテリ（始動用）充電不足取扱書を確認してください」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音	なし	駐車時はPレンジに 入れてください （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた **→ シフトレバーを P にする**
連続音	連続音	駐車時はPレンジに 入れてください キーが見つかりません キーの所在を 確認してください （交互に表示） （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態でパワースイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→ シフトレバーを P にする** **→ 電子キーを車内にもどす**
1 回	なし	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした **→ 電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	連続音	電源をOffしてください キーが見つかりません キーの所在を確認してください （交互に表示） （点滅）	シフトレバーが P の状態でパワースイッチをOFFにせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした **→ パワースイッチを OFF にしたあと、再度施錠する**
1回	3回	キーが見つかりません キーの所在を確認してください	パワースイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した **→ 電子キーを車内にもどす**
			シフトレバーが P の状態でパワースイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→ パワースイッチを OFF にする** **→ 電子キーを車内にもどす**
9回	なし	キーが見つかりません キーの所在を確認してください	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた **→ 車室内に電子キーがあるか確認する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
なし	連続音	車室内にキーがあります	車内に電子キーを置いたままスマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした **→ 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**
1回	連続音	車室内にキーがあります	車内に電子キーを置いたままフロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした **→ 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**
1回	なし	キーの電池残量が 少なくなっています 電池を交換してください	電子キーの電池残量が少ない **→ 新しい電池と交換する** **（→ P. 364）**
1回	なし	ハンドルを左右に 回しながら パワースイッチを 押してください （点滅）	パワースイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった **→ ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを押す**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	ブレーキを踏みながら キーでパワースイッチに 触れてください	・メカニカルキーで解錠してパワースイッチを押したとき車室内でキーを検出できなかった ・パワースイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが 2 回連続で続いた **→ ブレーキを踏みながら電子キーでパワースイッチにふれる**
1 回	なし	始動時は ブレーキを踏みながら パワースイッチを 押してください	電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法（→ P. 442）でパワースイッチに電子キーをふれた **→ ブザーが鳴ってからブレーキを踏んでパワースイッチを押す**
なし	なし	始動時は ブレーキを踏みながら パワースイッチを 押してください	・パワースイッチが OFF の状態でドアロックを解錠し、運転席のドアを開閉した ・ハイブリッドシステムを始動せずにパワースイッチをアクセサリーモードにした ・パワースイッチがONモードのときに、シフトレバーを P 以外から P にした **→ ブレーキを踏んでパワースイッチを押す**
1 回	なし	駐車時はPレンジに 入れてください （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態でパワースイッチを OFF にした **→ シフトレバーを P にする**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	電源をOffしてください （点滅）	シフトレバーが P 以外でパワースイッチを OFF にしたあとシフトレバーを P にした **→ パワースイッチを OFF にする**
なし	なし	バッテリー保護のため 自動で電源を Offしました	自動電源 OFF 機能が作動した **→ 次回ハイブリッドシステム始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持し補機バッテリーを充電する**
連続音	なし	再始動時は Nレンジにして パワースイッチを 押してください （点滅）	走行中にハイブリッドシステムを緊急停止させた **→ ハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、パワースイッチを押す※**
1 回	なし	パワースイッチを 押し続けると ハイブリッドシステム 非常停止 （点滅）	走行中にパワースイッチを押した **→ ハイブリッドシステムを緊急停止させるとき以外は、すみやかにパワースイッチから手を離す**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	始動時は P レンジに 入れてください （点滅）	ハイブリッドシステム始動不可能なシフトレバー位置でハイブリッドシステムを始動しようとしている **→ シフトレバーを P にしてからハイブリッドシステムを始動させる**

※ 車両の状態により、ハイブリッドシステムが再始動できない場合があります。

知識

■警告メッセージについて

→ P. 417

■警告ブザーについて

→ P. 394

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

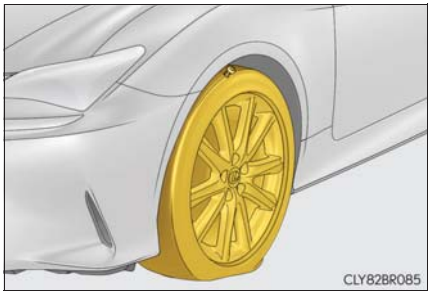
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 381）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



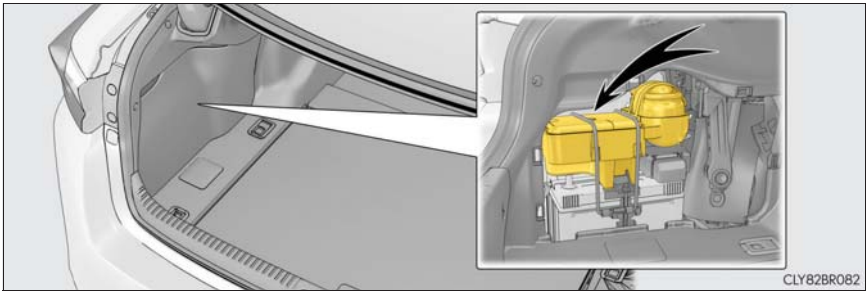
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

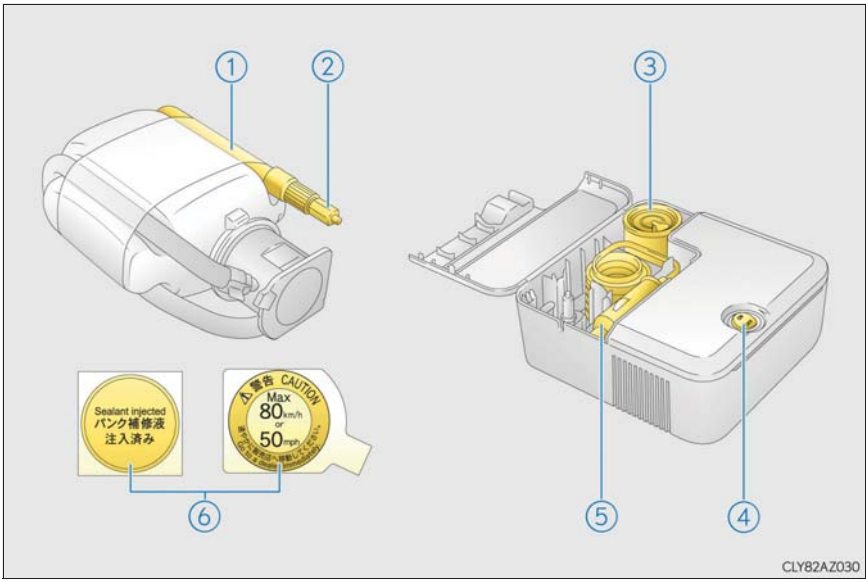
次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キットの搭載位置



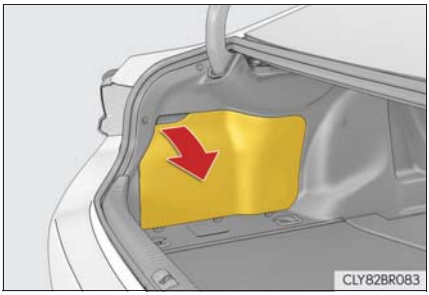
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



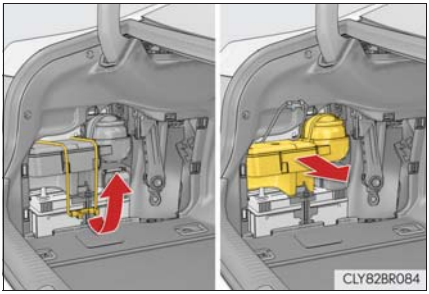
① ホース
② 空気逃がしキャップ
③ 空気圧計
④ 電源スイッチ
⑤ 電源プラグ
⑥ ラベル

応急修理キットの取り出し方

1 補機バッテリーカバーをはずす



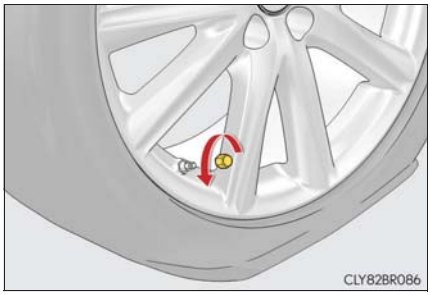
2 バンドをはずし、応急修理キットを取り出す



応急修理するとき

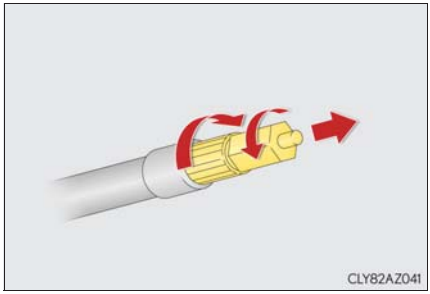
1 応急修理キットを取り出す

2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



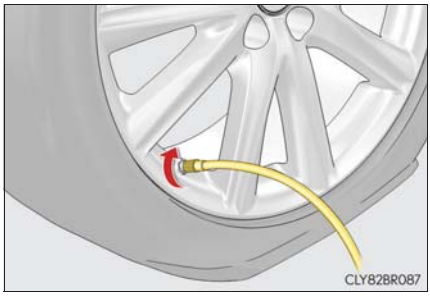
3 ボトルの保護フィルムをはがしホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液注入済ラベルは指定の位置へ貼り付けます。（9へ）空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

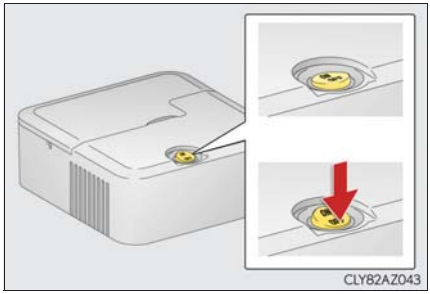


4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

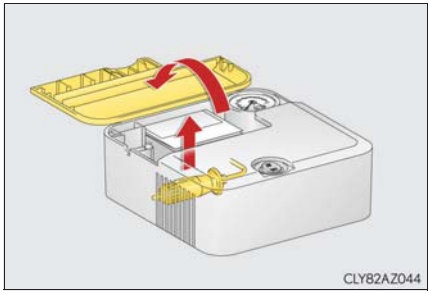
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。



5 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する

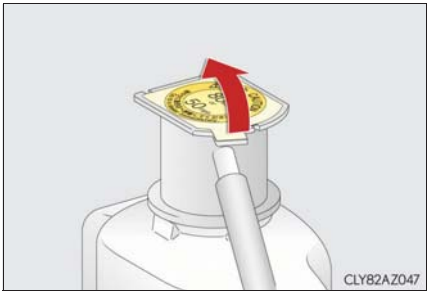


6 フタを開けてコンプレッサーの電源プラグをはずす



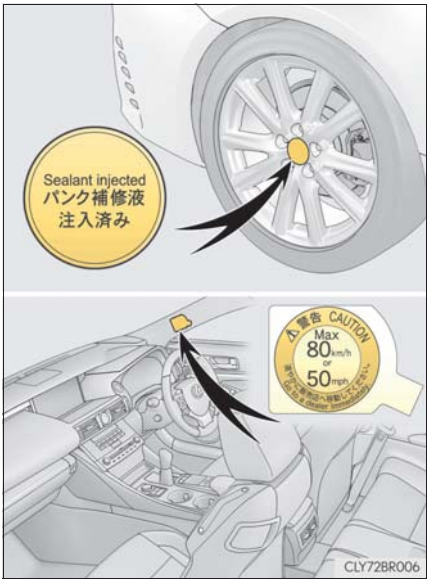
7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む (→P. 329)

8 速度制限ラベルをはがす



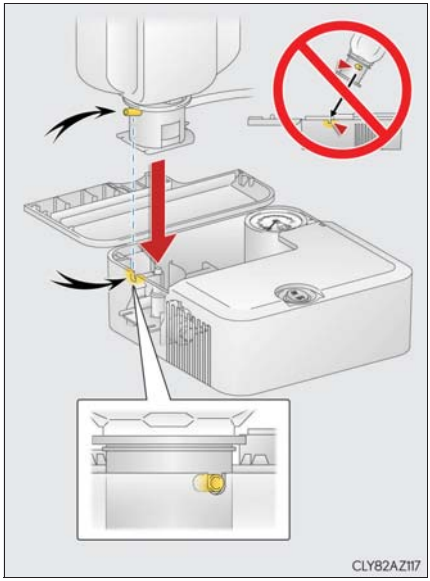
9 付属のラベル２枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、レクサス販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。



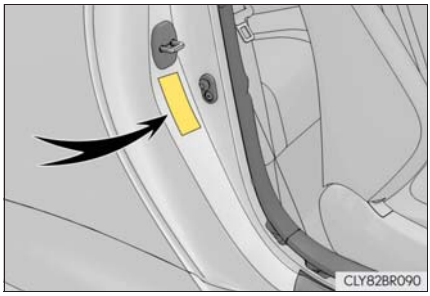
10 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。



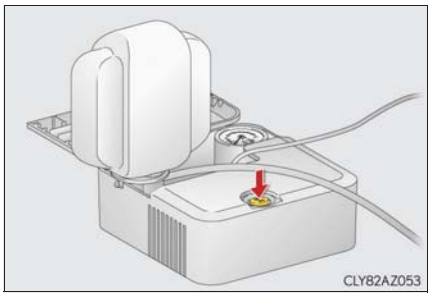
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P. 462）



12 ハイブリッドシステムを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを　ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

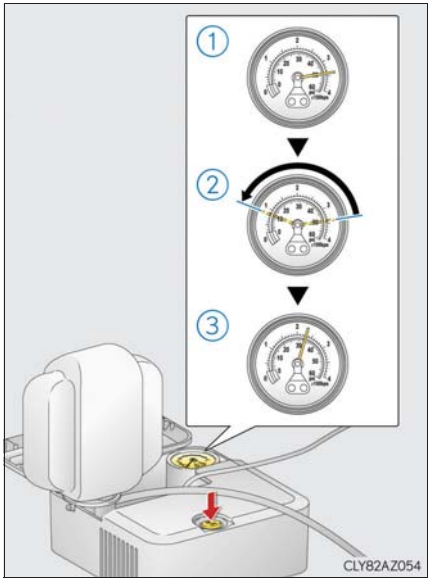
① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。



空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P. 435, 462）

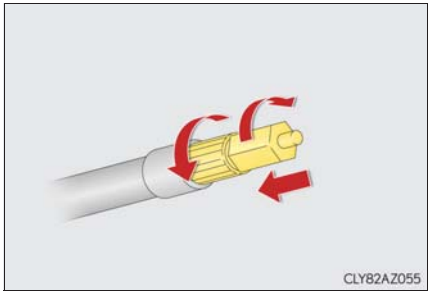
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜く
バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液が漏れる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

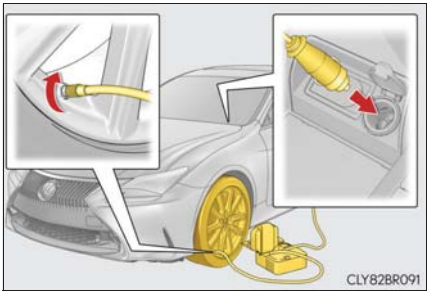
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



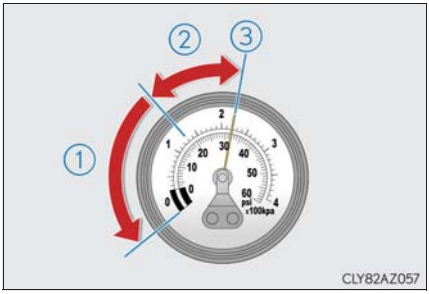
18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5 km、安全に走行する（速度 80 km/h 以下）

20 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する



21 コンプレッサーのスイッチを約5秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する



① 空気圧が 130 kpa（1.3 kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

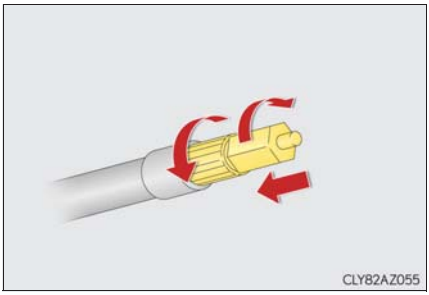
② 空気圧が 130 kpa（1.3 kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：**22** へ

③ 空気圧が指定空気圧（→P. 462）の場合：**23** へ

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて **20** から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80 km/h 以下で運転してレクサス販売店へ行く

タイヤの修理・交換についてはレクサス販売店にご相談ください。

知識

■応急（パンク）修理キットを使用したとき

●空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

●タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

●応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

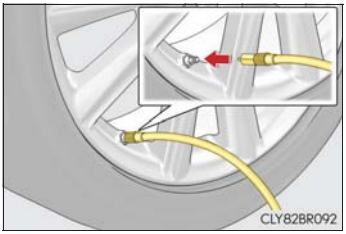
●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する（→P. 462）
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

警告

■**応急修理キットについて**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われないおそれがあります。

■**パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■**パンクしたタイヤを応急修理するとき**

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。35 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■**補修液を均等に広げるための運転について**

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・空気圧を確認してください。130kPa（1.3 kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■**応急修理をするとき**

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはトランクに収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損するおそれがあります。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 187）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 442）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 76）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 439）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 444）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
  （→ P. 341）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 444）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
  （→ P. 341）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーがＰの位置にあることを確認する
3. パワースイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 142）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

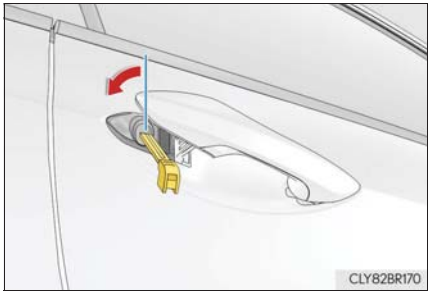
ドアの施錠・解錠、トランクの解錠

メカニカルキー（→ P. 123）を使って次の操作ができます。

■ ドアの解錠

1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む

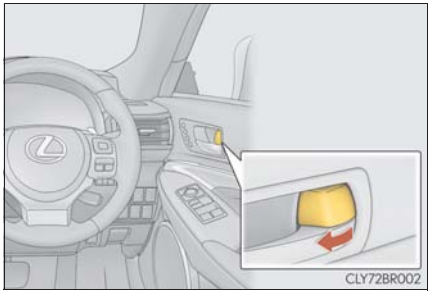
2 キーをまわしてドアを解錠する



3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルを元に戻したあと、再度ドアハンドルを引く

■ ドアの施錠

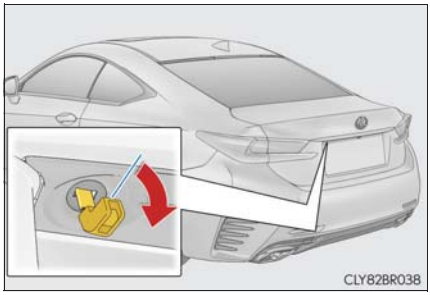
1 ロックレバーを施錠側にする



2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

■ トランクの解錠

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける（→ P. 78）



知識

■キーの連動機能

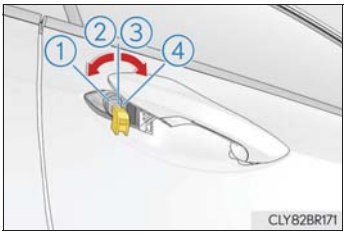
① ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

② 全ドア解錠

③ 全ドア施錠

④ ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

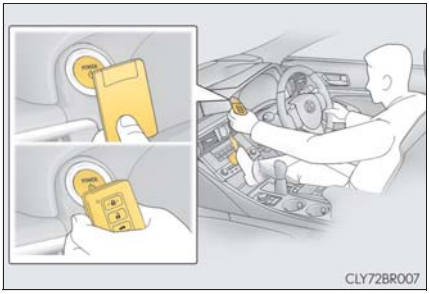
ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーがPの状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONモードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 364）

■モードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 188）

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→ P. 463）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→ P. 142）

警告

■ **メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき**

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

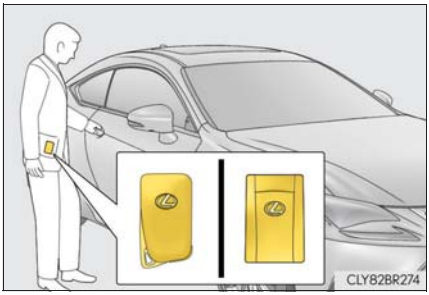
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

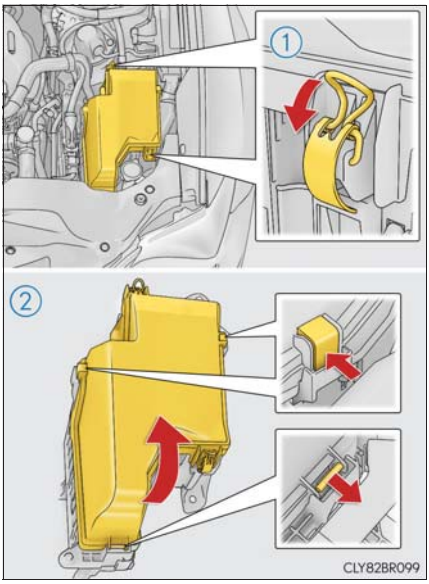
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。
（→ P. 79）



2 ボンネットを開け、ヒューズボックスを開ける

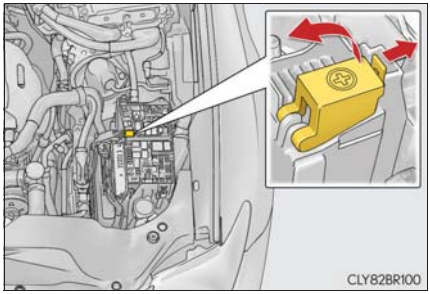
① すべてのクリップをはずす

② 左右のツメを押してロックをはずし、手前のプレートを引きながらカバーを持ち上げる

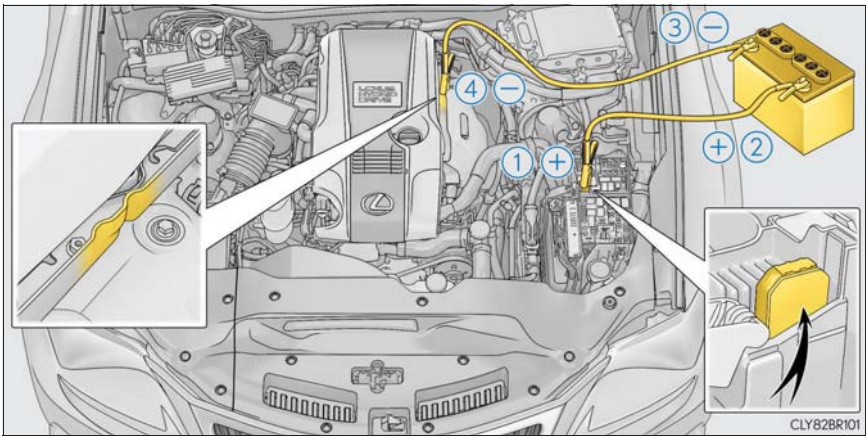


3 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。



4 ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する

8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーについて

→ P. 341

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常に電源の状態を記憶しています。補機バッテリー脱着時、車両は補機バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

警告

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について

→ P. 342

注意

■ **ブースターケーブルの取扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ **救援用端子について**

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援しないでください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 89）の表示がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温安全な場所に停車して取扱書を確認してください」または「ハイブリッドシステム高温出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 水温計がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：

蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：

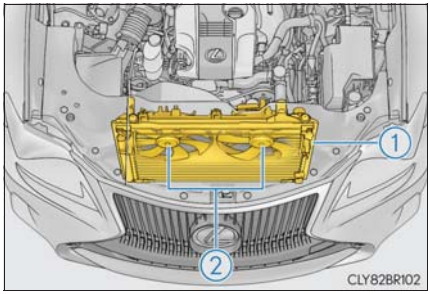
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

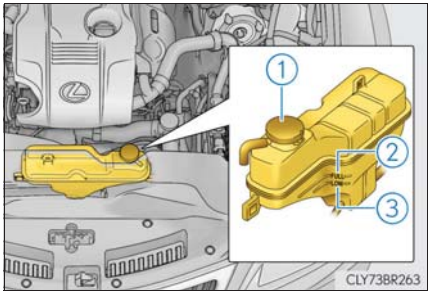


4 冷却水の量がリザーバータンクの “FULL”（上限）と “LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバーキャップ

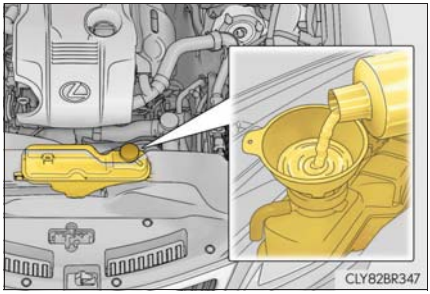
② “FULL” （上限）

③ “LOW” （下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する

ファンが作動している場合：

最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温出力制限中です」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

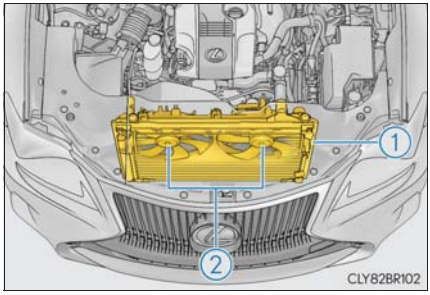
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

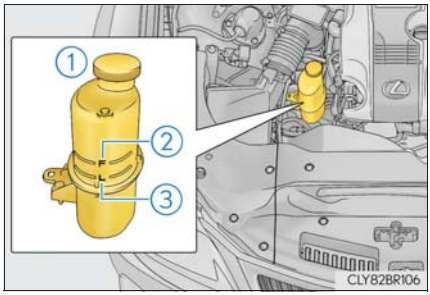


4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

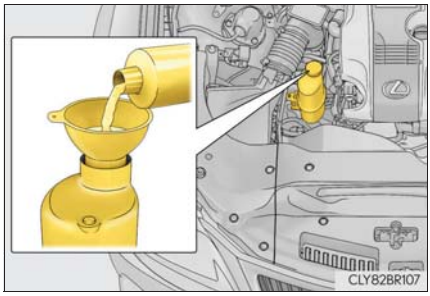
② “F”（上限）

③ “L”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してレクサス販売店に連絡する

表示が消えている場合：

最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

警告

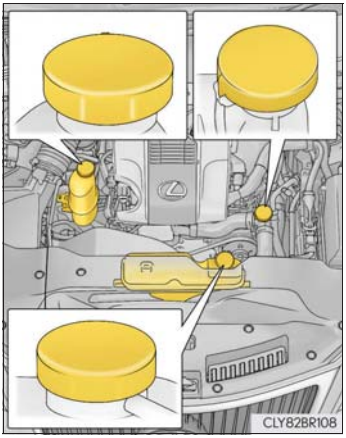
■**エンジンルームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

●ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンやベルトなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップや注水キャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。



注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない
- 冷却水リザーバータンクのキャップや注水キャップを乾燥させた状態で取り付けない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1. パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
2. 後輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 後輪の下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■ **脱出しにくいとき**

を押して TRC を OFF にしてください。

警告

■**脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するとき**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....458

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧.....463

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....471

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	66

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値 ※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
弊社純正モーターオイル SN 0W-20※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	4.1	4.5

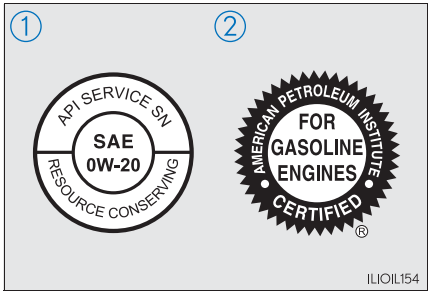
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

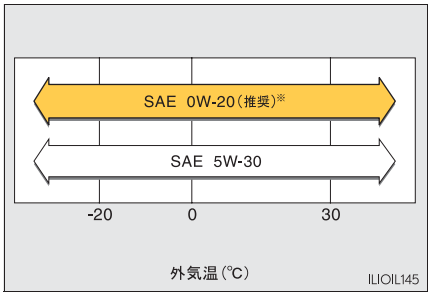
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：
・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	ガソリンエンジン	8.3
	パワーコントロールユニット	2.3

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
弊社純正オートフルード　WS	3.8

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	117

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（30.6kgf）のときのノッチ ※ 数	8 ～ 11

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
225/50R17 94W	17 × 7 1/2J	240（2.4）	
235/45R18 94Y	18 × 8J		
235/40R19 92Y	19 × 8J	240（2.4）	–
265/35R19 94Y	19 × 9J	–	250（2.5）

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
車内	バニティランプ	8
	足元照明	3.8
	トランクランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
RC300h	AVC10	2AR-FSE（2.5L ガソリン）	1KM	FR（後輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用、またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。

遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトでご確認ください。

設定変更のしかた

■ ナビゲーションシステムで設定するには

1. リモートタッチの MENU ボタンを押し、「設定・編集」を選択する
2. 「設定・編集」画面の「車両」を選択する
3. 「車両カスタマイズ」、「ドライブモードカスタマイズ」または、「クリアランスソナー設定」を選択する
4. 「車両カスタマイズ」を選択した場合、設定を変更したいカテゴリーを選択する
5. 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
6. 機能の作動内容を選択する

   作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

   音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択してレベルを調整します。

リモートタッチについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 105

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

② レクサス販売店で設定変更可能

■ オートアラーム（→ P. 77）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	なし	あり	—	○

■ 車両接近通報装置（→ P. 67）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
音量調整	レベル 1	レベル 2	—	○
		レベル 3		

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 84, 89, 96）

機能 ※1	初期設定	変更後	①	②
アクセントカラー ※2	カラー 1	カラー 2	○	—

※1 機能についての詳しい説明は P. 105 を参照してください

※2 F SPORT 以外

■ ドアロック（→ P. 128, 134, 440）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動ドアロック）	あり	なし	○	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	あり	なし	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 128, 134）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	○
		レベル 1 ～ 7		
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒		
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 128, 134, 140）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 128, 134）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	○
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し	—	○
		2 回押し		
		1 回押し続ける（長）		
		非作動		

■ 運転席ポジションメモリー（→ P. 151）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	○

■ パワーイージーアクセスシステム（→ P. 151）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	○
		少なめ		
ハンドルの作動	あり	なし	—	○

■ ドアミラー（→ P. 163）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	○
		パワースイッチと連動		

■ パワーウインドウ（→ P. 166）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	○

■ ムーンルーフ★（→ P. 170）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	○

■ 方向指示灯（→ P. 202）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
方向指示灯の点滅中に、点滅している側へ方向指示レバーを一段階操作したときの作動	点滅したまま	消灯	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 204）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	標準	－ 2 ～ 2	○	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	○

■ ランプ（→ P. 204）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
LED デイライト	あり	なし	—	○

■ クリアランスソナー★

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	○
リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	○
ブザー音量	レベル 2	レベル 1 ～ 3	○	○

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→ P. 280）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
カスタムモード★時のパワートレーン制御	Normal	Power	○	—
		Eco		
カスタムモード★時のシャシー制御	Normal	Sport	○	—
カスタムモード★時のエアコン作動	Normal	Eco	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン（→ P. 304）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	○
排ガスセンサー感度調節	標準	－ 3 ～ 3	○	○

■ シートヒーター（→ P. 316）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
タイマー制御	なし	あり	○	○

■ イルミネーション（→ P. 319）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	○
		7.5 秒		
		30 秒		
パワースイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	○
アンビエントイルミネーション、リモートタッチパッド照明の点灯	あり	なし	—	○
室外足元照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	○
		7.5 秒		
		30 秒		
接近時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	○
解錠時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	○
ドアを開けたときの室外足元照明の点灯	あり	なし	—	○
室外足元照明の消灯時のフェードアウト	長い	短い	—	○

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応オートドアロック」と「シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）」を両方とも「あり」にした場合、次のように作動します。
・シフトレバーを P 以外に入れると全ドアが施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

●「スマートエントリー＆スタートシステム」の設定が「なし」の場合、「解錠されるドアの選択」の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

●ナビゲーション画面以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON モードにするまでナビゲーション画面には反映されません。

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

初期設定が必要な項目

次の項目はメンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	タイヤローテーションを行ったあと	P. 348

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....474
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....477
アルファベット順さくいん 479
五十音順さくいん.....481

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

・ナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・音声操作システム
・バックガイドモニター
・ITS スポット対応 DSRC システム（ETC・VICS 機能付）
・ハンズフリー
・G-Link

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 124）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→ P. 126）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 364）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。
  （→ P. 188）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 142）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→ P. 137）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？ （→ P. 187）
- シフトレバーは P になっていますか？ （→ P. 190）
- キーが車内の検知される場所にありますか？ （→ P. 140）
- ステアリングロックされていませんか？ （→ P. 190）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 442）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？ （→ P. 444）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- パワースイッチは ON モードになっていますか？

  パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき （→ P. 200）

ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 190）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 166）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたは ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 189）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 477）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 391、396 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 424）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 454）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 77
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P. 418
	窓・ムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 168 P. 172
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 77
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P. 137
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 364
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 398
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 420

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠するか、パワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 398
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 401
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない ※	P. 393
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 199
ブレーキペダルを踏んだとき（キーキー音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 180
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P. 253
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が作動した	P. 228
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P. 238

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 304
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 283, 391, 403
AHB
（オートマチックハイビーム）. 207, 411
AI-AVS
（アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブル
サスペンションシステム）. 280, 284, 287
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）. 280, 284
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 258, 407
ECB
（電子制御ブレーキシステム）. 283
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 283, 401
ETC
（エレクトロニックトールコレクション）※
EV
（エレクトリックビークル）. 193
FR
（フロントエンジンリヤドライブ）. 462
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 459
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 44
LDA
（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報） 238, 405

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

LED
（ライトエミッティングダイオード） 204, 376, 411
PCS
（プリクラッシュセーフティシステム） 228, 392, 406
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート） 258
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール） 283
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム） 32, 391, 396
TRC
（トラクションコントロール） 283, 392, 413, 454
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント） 284
VSC
（ビークルスタビリティコントロール） 283, 392, 413

五十音順さくいん

あ

アウターミラー（ドアミラー）..... 163
運転席ポジションメモリー..... 151
操作..... 163
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 258
リバース連動機能..... 164
アクセサリーソケット..... 329
アクセサリーモード..... 188
アシストグリップ..... 331
足元照明..... 319
ワット数..... 462
アラーム
オートアラーム..... 77
音さくいん..... 477
警告ブザー..... 391, 396
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 283
ABS＆ブレーキアシスト警告灯..... 391
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）..... 140

い

EV ドライブモード..... 193
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）..... 187
位置交換（タイヤローテーション）..... 346
イベントデータレコーダー（EDR）..... 8
イモビライザーシステム..... 76
イルミネーテッドエントリーシステム..... 320
インジケーター
ハイブリッドシステムインジケーター..... 94
表示灯..... 86
インテリアランプ..... 319
インナーミラー..... 161

う

ウインカー（方向指示灯）..... 202
電球（バルブ）
の交換..... 371, 373, 376
方向指示レバー 202
ワット数 462
ウインドウ..... 166
ウォッシャー 213
パワーウインドウ..... 166
リヤウインドウ
デフォッガー 309
ウインドウロックスイッチ 166
ウインドシールドデアイサー 310
ウォーニングメッセージ 396
ウォーニングランプ
（警告灯）..... 391
ウォッシャー..... 213
液の補給 345
スイッチ 213
タンク容量 461
冬の前の準備・点検..... 293
動けなくなったときは
（スタック）..... 454
雨滴感知式ワイパー 213
運転 176
運転を補助する装置..... 283
寒冷時の運転 293
正しい運転姿勢 26
手順 176
ハイブリッド車運転の
アドバイス 291
運転席ポジションメモリー 151

え

エアコン・デフォッガー 304
エアバッグ..... 32
SRS エアバッグ警告灯 391
作動条件 36
配置 32
エネルギーモニター 111
LED デイライト 205
エレクトリック
パワーステアリング（EPS）..... 283
パワーステアリング警告灯 392
エンジン
イモビライザーシステム 76
エンジン回転計
（タコメーター）..... 89
エンジン警告灯..... 391
エンジンスイッチ..... 187
オーバーヒート..... 449
ハイブリッドシステムが
始動できない 438
ハイブリッドシステムの
始動方法 187
パワースイッチ
（イグニッションスイッチ／
エンジンスイッチ）..... 187
ボンネット 341
エンジンオイル..... 458
冬の前の準備・点検..... 293
メンテナンスデータ 458
エンジンスイッチ
（パワースイッチ）..... 187
エンジンフード（ボンネット）..... 341
開け方 341

お

オーディオ※
オートアラーム..... 77
オートドアロック・
アンロック機能..... 131
オートマチックハイビーム 207
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）..... 206
オーバーヒート..... 449
オープナー
トランク 134
ボンネット 341
オイル（エンジンオイル）..... 458
お子さまを乗せるとき 43
ウインドウロックスイッチ 166
お子さまの安全のために..... 43
シートベルトの着用..... 29
チャイルドシート..... 44
チャイルドシートの取り付け 44
オドメーター..... 89
表示の切りかえ 92

か

カーテシランプ
装着位置 319
ワット数 462
カーテンシールドエアバッグ..... 32
カードキー..... 122
カーペット..... 338
洗浄 339
フロアマットの取り付け方 24
外気温度表示..... 89
回生ブレーキ..... 67
外装の電球（バルブ）..... 369
交換要領 369
ワット数 462
ガス欠になったとき 72
カスタマイズ機能 463
型式 462
カップホルダー 324
ガラスの曇り取り（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 309
ガレージジャッキ 344
冠水路走行..... 184
寒冷時の運転 293

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

き

キー 122
カードキー 122
キーナンバープレート..... 122
キーの構成 122
キーレスエントリー..... 128, 134
キーをなくした 124, 126
正常に働かない 440
施錠・解錠ができない..... 440
電子キー 122
電池が切れた 364, 440
ハイブリッドシステムが
始動できない 442
メカニカルキー 123
ワイヤレスリモコン..... 122
キーレスエントリー 122
スマートエントリー＆
スタートシステム 140
ワイヤレスドアロック..... 128
救急箱等固定用バンド 325
給油 219
給油口が開けられない..... 221
給油のしかた 219
メンテナンスデータ..... 458
緊急時シートベルト固定機構..... 29
緊急始動機能
（ハイブリッドシステム）..... 439
緊急時の対処
オーバーヒートした..... 449
キーの電池が切れた..... 364, 440
警告灯がついた..... 391
警告メッセージが
表示された 396
けん引 385
故障したときは..... 380
車両を緊急停止する..... 384
スタックした 454
電子キーが正常に働かない..... 440
ハイブリッドシステムが
始動できない 438
発炎筒 382
パンクした 424
補機バッテリーがあがった..... 444
緊急停止システム 71

く

空気圧（タイヤ）..... 462
タイヤ空気圧警告灯..... 393
タイヤ空気圧警報システム..... 347
メンテナンスデータ..... 462
区間距離計
（トリップメーター）..... 89
表示の切りかえ・
リセットボタン..... 92
駆動用電池..... 70
充電について..... 68
搭載位置..... 70
冷却用吸入口..... 71
曇り取り
ミラーヒーター..... 309
リヤウインドウ
デフォッガー..... 309
クラクション（ホーン）..... 159
クリアランスソナー※
クリアランスランプ（車幅灯）..... 204
スイッチ..... 204
電球（バルブ）の交換..... 376
クリップ
フロアマット..... 24
クルーズコントロール
レーダークルーズ
コントロール..... 246
グローブボックス..... 323
グローブボックスランプ..... 323

け

警音器（ホーン）..... 159
計器類（メーター）..... 89
照度調整..... 93
表示灯..... 86
マルチインフォメーション
ディスプレイ..... 96
警告灯..... 85
ABS ＆ブレーキアシスト..... 391
SRS エアバッグ..... 391
エンジン..... 391
シートベルト非着用..... 393
充電..... 391
スリップ表示灯..... 392
タイヤ空気圧..... 393
燃料残量..... 393
パーキングブレーキ..... 392
パワーステアリング..... 392
半ドア..... 392
PCS（プリクラッシュ
セーフティシステム）..... 392
プリテンショナー..... 391
ブレーキ..... 391
マスターウォーニング..... 393
LDA（レーンディパーチャー
アラート）..... 392

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

警告ブザー
LDA 238
シートベルト非着用 393
シフトダウン制限 199
接近警報（レーダークルーズコントロール） 253
トランク開 399
パーキングブレーキ未解除走行時 401
半ドア 129, 392
プリクラッシュブレーキ 397
ブレーキ 391
ボンネット開 399
窓開 168
ムーンルーフ開 172
リバース 199
警告メッセージ 396
言語 105

こ

交換
キーの電池 364
タイヤ 354
電球（バルブ） 369
ヒューズ 366
工具（ツール） 354
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 375
ワット数 462
高電圧部位 70
コーションラベル 70
コートフック 331
子供専用シート 44
選択方法 46
取り付け方 48
コンソールボックス 323
コンライト（自動点灯・消灯装置） 204

さ

サービスプラグ 70
サイドエアバッグ 32
サイド方向指示灯 202
電球（バルブ）の交換 376
方向指示レバー 202
サイドミラー（ドアミラー） 163
運転席ポジションメモリー 151
操作 163
BSM（ブラインドスポットモニター） 258
リバース連動機能 164
サスペンションコントロール（PCS） 228
サンシェード 171
サンバイザー 328

し

シート 146, 149
運転席ポジションメモリー 151
折りたたみ 149
正しい運転姿勢 26
チャイルドシート 44
調整 146
手入れ 338
ヘッドレスト 156
メモリーコール機能 154

シートヒーター 315
シートベルト 28
お子さまの着用 29
緊急時シートベルト固定機構 29
シートベルトガイド 29
シートベルト非着用
警告灯 393
正しく着用するには 28
着け方・はずし方 28
手入れ 339
妊娠中の方の着用 30
シートベルトプリテンショナー 29
機能 29
プリテンショナー警告灯 391
シートベンチレーター 315
シートポジションメモリー 151
事故が発生したとき
（ハイブリッドシステムの注意）.... 74
室内灯（インテリアランプ）..... 319
ワット数 462
始動のしかた 187
シフトポジション 196
シフトレバー 195
シフトレンジの切りかえ 195
シフトロックシステム
（解除ボタン）..... 200
操作 195
リバース警告ブザー 199
シフトレバーが
シフトできないときは 200
シフトロックシステム 199
締め付けトルク
（ホイール）..... 359
車速インジケーター 91
ジャッキ
ガレージジャッキ 344
車載ジャッキ 354
ジャッキハンドル 354
車幅灯 204
電球（バルブ）の交換 376
ランプスイッチ 204
車両型式 462
車両仕様（スペック）..... 458
車両接近通報装置 67
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 384
瞬間燃費 102
仕様（車両仕様）..... 458
衝撃感知ドアロック
解除システム 133
初期化
タイヤ空気圧警報システム 348
マルチインフォメーション
ディスプレイ 96
初期設定 471
侵入センサー（オートアラーム）..... 80

す

水温計 89
スイッチ
EV ドライブモード 193
イグニッション 187
インストルメントパネル
照度調整スイッチ 93
ウインドウロック..... 166
ウインドシールド
デアイサー 310
ウォッシャー 213
運転席ポジションメモリー 151
LDA 241
オーディオ ※
オートマチックハイビーム 208
クリアランスソナー ※
クルーズコントロール..... 246
シート調整 146
シートヒーター 315
シートベンチレーター..... 315
シートポジションメモリー 151
車間距離切りかえ（レーダー
クルーズコントロール）..... 246
車両接近通報一時停止..... 67
侵入センサー OFF 80
ステアリングヒーター..... 315
スノーモード 196
タイヤ空気圧警報リセット 348
電話 ※
ドアミラー 163
ドアロック 130
トーク ※
ドライブモードセレクト 280
トランクオープナー..... 134
トランクオープナーメイン 136
パドルシフト 197, 198
パワーウインドウ..... 166
パワースイッチ..... 187
ハンドル位置調整..... 159
BSM 258
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 381
VSC OFF 285
フォグランプ 211
方向指示レバー..... 202
ホーン（警音器）..... 159
ムーンルーフ 170
メーター操作 99
ランプ 204
リセット（タイヤ空気圧警報
システム）..... 348
リヤウインドウ
デフォッガー 309
レーダークルーズ
コントロール 246
ワイパー 213

スタック..... 454
ステアリングアシステッド
ビークルスタビリティ
コントロール（S-VSC）..... 283
ステアリングヒーター 315
ステアリングホイール
（ハンドル）..... 159
位置調整 159
運転席ポジションメモリー 151
ステアリングヒーター..... 315
ステアリングロック 190
解除できないとき..... 190
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル..... 284
電球（バルブ）の交換 376
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 293
スピードメーター 89
スペック（車両仕様）..... 458
スマートエントリー＆
スタートシステム..... 140
アンテナの位置 140
カスタマイズ設定..... 463
作動範囲 140
正常に働かないとき..... 440
節電機能 141
電波がおよぼす
影響について 145
ドアの解錠・施錠..... 128
トランクの解錠 134
ハイブリッドシステムの
始動 187
スモールランプ（車幅灯）..... 204
電球（バルブ）の交換..... 376
ランプスイッチ 204
スリップ表示灯 392

せ

清掃 334, 338
アルミホイール..... 335
外装 334
シートベルト 339
内装 338
制動灯
緊急ブレーキシグナル..... 284
電球（バルブ）の交換..... 376
積算距離計（オドメーター）..... 89
表示の切りかえ..... 92
セキュリティ
インジケーター..... 76, 77
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 253
設定（メーター）..... 105
センサー
インナーミラー..... 162
雨滴感知センサー..... 217
LDA 238
オートマチックハイビーム 207
湿度センサー 311, 314
侵入センサー 80
ライトセンサー..... 205
レーダーセンサー..... 225
洗車 334
前照灯（ヘッドランプ）..... 204
電球（バルブ）の交換..... 376
ライトセンサー..... 205
ランプ消し忘れ防止機能..... 205
ランプスイッチ..... 204

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

そ

走行時間 102
走行モード
（ドライブモード）..... 196, 280
送信機
（タイヤ空気圧警報システム）..... 347
速度計（スピードメーター）..... 89

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 202
電球（バルブ）
の交換 371, 373, 376
方向指示レバー 202
ワット数 462
タイヤ 346
空気圧 360, 462
交換 354
締め付けトルク 359
低偏平タイヤ 350
点検 346
パンク応急修理キット 424
パンクしたときは 424
ホイールサイズ 462
ローテーション（位置交換）..... 346
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 454
タイヤ空気圧警報システム 347
ID コードの登録・選択 348
空気圧バルブ／
送信機について 347
初期化 348
タイヤ空気圧警告灯 393
タイヤチェーン 293
タコメーター 89
タコメーター切替 105
単位 105

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 293
チャイルドシート 44
ISOFIX バーでの取り付け 57
シートベルトでの固定 52
選択方法 46
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 203
操作 203
未解除走行時警告ブザー 401
メンテナンスデータ 461

つ

ツール（工具）..... 354

て

ディファレンシャル 460
低偏平タイヤ 350
手入れ 334, 338
　アルミホイール 335
　外装 334
　シートベルト 339
　内装 338
テールランプ（尾灯）..... 204
　電球（バルブ）の交換 376
　ランプスイッチ 204
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）..... 309
電気モーター 70
電球（バルブ）
　交換要領（外装バルブ）..... 369
　ワット数 462
点検基準値（メンテナンスデータ）..... 458
電子キー 122
　作動範囲 140
　正常に働かないとき 440
　節電機能 142
　電池が切れた 440
　電池交換 364
電池交換（キー）..... 364
電話スイッチ ※

と

ドア 128
　オートドアロック・アンロック機能 131
　衝撃感知ドアロック解除システム 133
　スマートエントリー＆スタートシステム 140
　ドアガラス 166
　ドアロックスイッチ 130
　半ドア警告灯 392
　ロックレバー 130
　ワイヤレスリモコン 128
ドアカーテシランプ 319
　位置 319
　ワット数 462
ドアミラー 163
　運転席ポジションメモリー 151
　操作 163
　BSM（ブラインドスポットモニター）..... 258
　リバース連動機能 164
盗難防止装置
　イモビライザーシステム 76
　オートアラーム 77
　ラゲージセキュリティシステム 136

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

トークスイッチ ※
時計 329
トップテザーアンカー 63
ドライビングポジション
メモリー 151
ドライブインフォメーション
（メーター）..... 102
リセット 102
ドライブインフォ 1 ／
ドライブインフォ 2 105
トラクションコントロール
（TRC）..... 283
トランク..... 134
オープナー 134
キー閉じ込み防止機能..... 137
電子キーが正常に
働かないとき 440
トランクオープナーを使用
できなくするには 136
トランク内の装備..... 325
メインスイッチ 136
ラゲージセキュリティ
システム 136
トランクランプ..... 137
ワット数 462
トランスミッション 195
シフトダウン制限
警告ブザー 199
操作 195
パドルシフトスイッチ.... 197, 198
メンテナンスデータ 460
トリップメーター 89
表示の切りかえ・
リセットボタン 92

な

内装
収納装備 322
手入れ 338
「ナノイー」..... 312
ナビゲーションシステム ※

に

ニーエアバッグ 32
荷物
積むときの注意..... 185
トランク 134
荷物固定用フック..... 325

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタック）..... 454

ね

燃費
瞬間燃費 102
平均燃費 102
燃費画面..... 116
燃料 458
給油 219
種類 458
燃料残量警告灯 393
容量 458
燃料計 89

は

パーキングブレーキ 203
操作 203
ブレーキ警告灯 391
未解除走行時警告ブザー..... 401
メンテナンスデータ..... 461
パーソナルランプ..... 320
Harmonious Driving Navi. 画面.... 114
排気ガス..... 65
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 205
オートマチックハイビーム..... 207
電球（バルブ）の交換..... 376
ランプスイッチ 204
ハイブリッドシステム 66
EV ドライブモード 193
運転のアドバイス..... 291
エネルギーモニター..... 111
オーバーヒート..... 449
回生ブレーキ 67
ガス欠になったとき..... 72
緊急始動機能 439
緊急時の停止方法..... 384
緊急停止システム..... 71
駆動用電池冷却用吸入口 71
高電圧部位 70
サービスプラグ..... 70
事故が発生したとき..... 74
始動できないときは..... 438
始動方法 187
車両接近通報装置..... 67
充電 68
注意 70
特徴 66
特有の音と振動..... 69
パワー（イグニッション）
スイッチ 187
補機バッテリーがあがった 444
メンテナンス・
修理・廃車するとき..... 69
ハイブリッドシステム
インジケーター..... 94

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換..... 376
ハザードランプ（非常点滅灯）..... 381
スイッチ 381
電球（バルブ）
の交換..... 371, 373, 376
ワット数 462
挟み込み防止機能
フロントシート 147
パワーウインドウ..... 166
ムーンルーフ 171
発炎筒 382
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換..... 375
ワット数 462
バッテリー（駆動用電池）..... 70
充電警告灯 391
充電について 68
搭載位置 70
冷却用吸入口 71
バッテリー（補機バッテリー）..... 341
搭載位置 341
補機バッテリーがあがった..... 444
補機バッテリーを
交換するとき 342
パドルシフトスイッチ 197, 198
バニティ（化粧用）ミラー 328
バニティミラーランプ 328
装備について 328
ワット数 462
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 369
ワット数 462
パワーウインドウ 166
ウインドウロックスイッチ..... 166
閉めることが
できないときは 167
操作 166
ドアロック連動ドアガラス
開閉機能 167
挟み込み防止機能..... 166
パワーコントロールユニット..... 70
パワー（イグニッション）
スイッチ 187
パワーステアリング 283
パワーステアリング警告灯..... 392
パンクした
タイヤパンク応急修理キット
装着車 424
タイヤ空気圧警告灯..... 393
番号灯
（ライセンスプレートランプ）..... 204
電球（バルブ）の交換..... 376
ランプスイッチ 204
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 159
位置調整 159
運転席ポジションメモリー..... 151
ステアリングヒーター..... 315
メーター操作スイッチ..... 99

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 283
ビークルダイナミクス
インテグレイテッド
マネージメント（VDIM）..... 284
ヒーター
エアコン・デフォッガー..... 304
シートヒーター 315
ステアリングヒーター..... 315
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 381
スイッチ 381
電球（バルブ）
の交換..... 371, 373, 376
ワット数 462
尾灯（テールランプ）..... 204
電球（バルブ）の交換..... 376
ランプスイッチ 204
ヒューズ..... 366
表示灯 86
日よけ（サンバイザー）..... 328
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 283

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方..... 444
フォグランプ..... 211
スイッチ 211
電球（バルブ）の交換..... 376
ブザー
シートベルト非着用警告..... 393
シフトダウン制限警告..... 199
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 253
パーキングブレーキ未解除
走行時警告 401
半ドア警告 392
ブレーキ警告 391
窓開警告 168
ムーンルーフ開警告..... 172
リバース警告 199
フック
けん引フック 388
コートフック 331
荷物固定用フック..... 325
フロアマット固定フック..... 24
フューエルメーター（燃料計）..... 89
フューエルリッド（給油口）..... 219
給油口が開かない..... 221
給油のしかた 219
冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 293
冬用タイヤ..... 293
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 258
プリクラッシュセーフティ
システム（PCS）..... 228
PCS 警告灯..... 392

ブレーキ
回生ブレーキ 67
パーキングブレーキ..... 203
ブレーキ警告灯 391
メンテナンスデータ..... 461
ブレーキアシスト 283
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯 391
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる 180
ブレーキフルード 461
フロアマット 24
フロントシート 146
運転席ポジションメモリー 151
シートヒーター 315
シートベンチレーター 315
シートポジションメモリー 151
正しい運転姿勢 26
調整 146
手入れ 338
挟み込み防止機能..... 147
ヘッドレスト 156
メモリーコール機能..... 154
フロントパーソナルランプ 320
フロントフォグランプ 211
スイッチ 211
電球（バルブ）の交換..... 376
フロント方向指示灯 202
電球（バルブ）
の交換..... 371, 376
方向指示レバー 202
ワット数 462

へ

平均車速..... 102
平均燃費..... 102
ヘッドランプ..... 204
クリーナー 213
電球（バルブ）の交換..... 376
ライトセンサー..... 205
ランプ消し忘れ防止機能 205
ランプスイッチ..... 204
ヘッドランプオートレベリング
システム 206
ヘッドレスト 156
ヘルプネットスイッチパネル※
ベンチレーター
（シートベンチレーター）..... 315

ほ

ホイール
交換（タイヤ）..... 354
メンテナンスデータ..... 462
方向指示灯 202
電球（バルブ）
の交換 371, 373, 376
方向指示レバー..... 202
ワット数 462
ホーン（警音器）..... 159
補機バッテリー 341
交換するとき 447
搭載位置 341
補機バッテリーがあがった 444
保証 9
ポップアップフード 40
ボンネット 341
開け方 341
ポップアップフード..... 40

ま

マスターウォーニング 393
マルチインフォメーション
ディスプレイ..... 96
エネルギーモニター..... 112
オーディオシステム連携..... 96
警告メッセージ 396
スイッチ設定..... 105
設定 105
ドライブインフォメーション ... 102
ナビゲーションシステム連携 96
レーダークルーズコントロール
操作支援 246
レーンディパーチャーアラート
（LDA）..... 238

み

ミラー
インナーミラー 161
ドアミラー 163
バニティミラー 328

む

ムーンルーフ..... 170
警告ブザー 172
操作 170
ドアロック連動ムーンルーフ
開閉機構 171
挟み込み防止機能..... 166

め

メーター
計器類 89
警告灯 85
警告メッセージ..... 396
照度調整 93
設定 105
操作方法 99
表示灯 86
表示の切りかえ..... 92
マルチインフォメーション
ディスプレイ 96
メーター操作スイッチ 99
メーターリング..... 92
メカニカルキー 123
メモリーコール機能 154
メンテナンスデータ 458

も

モーター（電気モーター）..... 66
モーターでの走行
（EV ドライブモード）..... 193

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 463
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 454
油脂類..... 458

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 204
電球（バルブ）の交換..... 376
ランプスイッチ 204
ラゲージアンダートレイ 326
ラゲージセキュリティシステム..... 136
ラゲージマット 326
ラゲージルーム
（トランク）..... 134, 325
ラジエーター
オーバーヒート 449
メンテナンスデータ 460
ランプ
室内灯 319
電球（バルブ）の交換..... 369
パーソナルランプ..... 320
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 381
フロントフォグランプ..... 211
ヘッドランプ（前照灯）..... 204
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..... 202
ライトセンサー 205
ランプ消し忘れ防止機能..... 205
リヤフォグランプ..... 211
ワット数 462
ランプ消し忘れ防止機能 205

り

リバース連動機能 164
リモートタッチ※
リヤフォグランプ 211
スイッチ 211
電球（バルブ）の交換 376
リヤ方向指示灯 202
電球（バルブ）の交換..... 373
方向指示レバー..... 202
ワット数 462
リング（メーター）..... 92

る

ルームミラー
（インナーミラー）..... 161
ルームランプ（室内灯）..... 319

れ

REV インジケーター 91
REV ピーク 91
レーダークルーズコントロール..... 246
接近警報 253
レーダーセンサー..... 225
レーンディパーチャーアラート
（LDA）..... 238
冷却水 460
水温計 89
冬の前の準備 293
メンテナンスデータ 460
冷却装置（ラジエーター）..... 460
オーバーヒート 449
メンテナンスデータ 460
Lexus Safety System+..... 223
LDA 238
オートマチックハイビーム 207
PCS 228
レーダークルーズ
コントロール 246
レバー
シート調整 146
シフト 195
方向指示 202
ボンネット解除 341
ロック（ドア）..... 130

ろ

ロック
ウインドウロック..... 166
シフトロック 199
ドア 128

わ

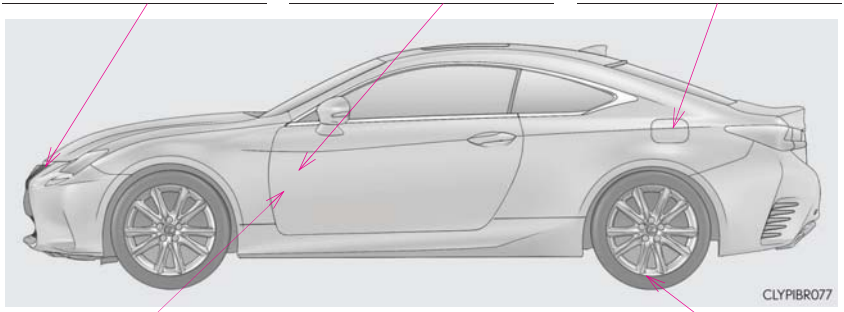
ワイパー & ウォッシャー 213
ワイパーブレード（寒冷地用）..... 294
ワイヤレスリモコン 122
作動の合図 129
操作 128, 135
電池の交換 364
半ドア警告ブザー..... 129, 392
ワックス..... 334
ワット数..... 462
割込表示..... 105

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	トランクオープナー	給油口
P. 341	P. 134	P. 221



ボンネット解除レバー	タイヤ空気圧
P. 341	P. 462

燃料の容量（参考値）	66L	
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン	P. 458
タイヤが冷えているときの空気圧		P. 462
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時： オイルとフィルター交換時：	4.1L 4.5L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SN 0W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・ SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30）	

「個人情報保護方針」については、http://lexus.jp にて掲載しております。

夕-62

M24757
01999-24757
NAC-2017年11月24日
2017年11月30日 初版

RC300h